秋田県文化財調査報告書第335集

桐内沢遺跡・日廻岱A遺跡

―― 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ ――

２００２・３

秋田県教育委員会

桐内沢遺跡・日廻岱A遺跡

きりないざわ　ひまわしたい

―― 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ ――

２００２・３

秋田県教育委員会

序

豊かな自然に恵まれた秋田県には、我々の先人が築き上げてきた歴史があります。地中に眠る埋蔵文化財もその歴史遺産の一つです。これらの文化財を保護し、未来に伝えていくことは我々の責務です。

このたび洪水調節と利水事業を目的とした森吉山ダムの建設にあたり、秋田県教育委員会は、建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所（当時）の依頼により、この計画区域内の遺跡分布調査や確認調査を実施し、60箇所の遺跡を確認しました。桐内沢遺跡、日廻岱A遺跡はこの中の遺跡であり、工事に先立ち平成12年度に発掘調査を実施し、記録保存を図ることにしました。

調査の結果、桐内沢遺跡では縄文時代中期の竪穴住居跡、前期から後期の土器・石器が出土し、縄文時代の集落が営まれていたことが分かりました。また、日廻岱A遺跡では縄文時代前期から晩期の土器・石器が出土し、縄文時代晩期の土坑や近世の掘立柱建物跡などが検出され、縄文時代には墓域として利用され、近世には集落が営まれていたことが分かりました。

本報告書はこれらの調査記録をまとめたものです。本書が地域の歴史や文化を研究する資料として多くの方々に御利用いただき、また、文化財に対する理解を深めていただく一助になれば幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査並びに本書の刊行にあたり、御援助、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所、森吉町、森吉町教育委員会をはじめ関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成14年３月

秋田県教育委員会

教育長　小　野　寺　清

例　言

1．　本報告書は平成12年度に行われた桐内沢遺跡・日廻岱A遺跡の埋蔵文化財発掘調査の成果を収めたものである。

2．　本報告書は森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書としては第７冊目にあたる。

3．　調査結果については、秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料（平成13年３月）等でも公表してきたが、本報告書の内容がそれらに優先する。

4．　本報告書（日廻岱Ａ遺跡）の作成にあたり、以下の方々から御指導・御助言をいただいた。記して感謝を表する。

阿部明義　岩崎厚志　榎本剛治　金子優子　加納由美　鎌田祐二　北村忠昭　越田賢一郎
小林達雄　佐野一絵　高橋憲太郎　竹下將男　土肥研晶　中村大　福田貫之　宮内信雄
宮尾亨　安原誠（五十音順・敬称略）

5．　本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行50,000分の１「米内沢」「大葛」、同じく25,000分の１「阿仁前田」「太平湖」、及び建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所作成1,000分の１「森吉山ダム貯水池平面図」である。

6．　本報告書における土層注記中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修の『新版標準土色帖』（1997年版）によった。

7．　本報告書の執筆は、「はじめに」「遺跡の環境」「桐内沢遺跡」を吉田英亮が、「日廻岱A遺跡」を加藤竜がそれぞれ分担して執筆し、編集は吉田英亮が行った。

凡　例

1．　本報告書に収録した遺構実測図の方位は、真北を示す。原点（ＭＡ50）における真北と磁北との偏角は、西に８°10′である。

2．　本報告書に収録した遺構実測図の縮尺は１/40を原則としたが、遺構の規模に応じて適宜1/20・1/30・1/50・1/60・1/100等を用いている。

3．　遺物実測図の縮尺は、土器は１/３を、石器は１/２を原則とした。ただし、大型の土器・石器は大きさに応じて適宜異なる縮尺を用いた。挿図にはそれぞれスケールを付した。

4．　挿図の遺物実測図には、器種を問わず遺構内・遺構外に分けて通し番号を付した。それらは写真図版中の番号と対応する。

5．　土層注記は、基本層位にローマ数字（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・・・）、遺構堆積土にはアラビア数字（１・２・３・・・）を用いた。

6．　遺構番号は、その種別を問わず、プラン検出順に01から始まる２桁の連番を付したが、精査の過程において遺構ではないと判断したものは欠番となっている。

7．　遺構・遺物の種類を表す際、下記の略号を用いる。

〔遺構〕ＳＩ……竪穴住居跡　ＳＲ……土器埋設遺構　ＳＮ……焼土遺構
ＳＫ……土坑　ＳＫＦ……フラスコ状土坑　ＳＫＩ……竪穴状遺構
ＳＤ……溝跡　ＳＫＰ……柱穴様ピット　ＳＢ……掘立柱建物跡
〔遺物〕ＲＰ……土器（片）　ＲＱ……石器及び剥片類　Ｓ……礫

8．　遺構実測図中の「●」は土器類、「▲」は石器類を示した。なお、遺物の出土地点は平面分布図と遺構全体を透視した垂直分布図の２種類に示した。

9．　挿図中に使用したスクリーン・トーンは以下の通りである。

焼土　アスファルト
磨面（桐内沢のみ）　自然面（桐内沢のみ）

目　　次

序
例言……ii
凡例……iii
目次……iv
挿図目次……v
表・図版目次……vi
はじめに……1
　調査に至る経過……1
　調査要項……5
遺跡の環境……7
　遺跡の位置と立地……7
　遺跡の歴史的環境……9
桐内沢遺跡
　第１章　発掘調査の概要……15
　　第１節　遺跡の概観……15
　　第２節　調査の方法……15
　　１　野外調査……15
　　２　室内整理……16
　　第３節　調査の経過……16
　第２章　調査の記録……18
　　第１節　基本層位……18
　　第２節　検出遺構と出土遺物……18
　　１　概要……18
　　２　遺構と出土遺物……21
　　第３節　遺構外出土遺物……27
　　１　土器……27
　　２　石器……32
　第３章　まとめ……42
日廻岱Ａ遺跡
　第１章　発掘調査の概要……51
　　第１節　遺跡の概観……51
　　第２節　調査の方法……51
　　１　野外調査……51
　　２　室内整理……52
　　第３節　調査の経過……52
　第２章　調査の記録……54
　　第１節　基本層位……54
　　第２節　検出遺構と出土遺物……54
　　１　概要……54
　　２　縄文時代……54
　　３　近世……63
　　４　時代不明……71
　　第３節　遺構外出土遺物……78
　　１　概要……78
　　２　縄文時代……78
　　３　近世以降……102
　第３章　自然科学的分析……103
　第４章　まとめ……106
報告書抄録

挿図目次

第１図　森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡群…２
第２図　遺跡位置図……７
第３図　桐内沢・日廻岱Ａ遺跡……８
第４図　地形区分図……８
第５図　周辺の遺跡分布図……11

桐内沢遺跡
第６図　遺跡範囲・遺構配置・基本土層図……19･20
第７図　ＳＩ05竪穴住居跡……22
第８図　ＳＩ05出土遺物（１）土器……23
第９図　ＳＩ05出土遺物（２）石器……24
第10図　ＳＲ06・ＳＲ08土器埋設遺構……25
第11図　ＳＫＦ07フラスコ状土坑
・ＳＫＩ09竪穴状遺構……26
第12図　遺構外出土遺物（１）土器……28
第13図　遺構外出土遺物（２）土器……29
第14図　遺構外出土遺物（３）土器……31
第15図　遺構外出土遺物（４）土器……32
第16図　遺構外出土遺物（５）石器……35
第17図　遺構外出土遺物（６）石器……36
第18図　遺構外出土遺物（７）石器……37
第19図　遺構外出土遺物（８）石器……38
第20図　遺構外出土遺物（９）石器……39
第21図　遺構外出土遺物（10）石器……40
第22図　遺構外出土遺物（11）石器……41

日廻岱Ａ遺跡
第23図　グリッド設定図……53
第24図　基本土層図……56
第25図　調査範囲・遺構配置図……57
第26図　ＳＮ02焼土遺構・ＳＫ06土坑……58
第27図　遺構内出土土器……59
第28図　遺構内出土石器（１）……60
第29図　遺構内出土石器（２）……61
第30図　遺構内出土石器（３）……62
第31図　ＳＢ113掘立柱建物跡……65
第32図　ＳＢ113堀立柱建物跡柱穴（１）……66
第33図　ＳＢ113堀立柱建物跡柱穴（２）……67
第34図　ＳＢ114堀立柱建物跡……68
第35図　ＳＢ114堀立柱建物跡柱穴（１）……69
第36図　ＳＢ114堀立柱建物跡柱穴（２）……70
第37図　ＳＫ01・03・04・26土坑、ＳＤ29溝跡……72
第38図　柱穴様ピット配置図……73
第39図　柱穴様ピット（１）……75
第40図　柱穴様ピット（２）……76
第41図　柱穴様ピット（３）……77
第42図　遺構外出土土器（１）縄文時代前期中葉
・中期前葉・中期後葉・後期前葉…80
第43図　遺構外出土土器（２）縄文時代後期後葉①…81
第44図　遺構外出土土器（３）縄文時代後期後葉②…82
第45図　遺構外出土土器（４）縄文時代後期後葉③…83
第46図　遺構外出土土器（５）縄文時代晩期前半①…84
第47図　遺構外出土土器（６）縄文時代晩期前半②…85
第48図　遺構外出土石器（１）
石槍・石錐・楔形石器・石箆…90
第49図　遺構外出土石器（２）石匙……91
第50図　遺構外出土石器（３）
不定形石器１～２ｂ類…92
第51図　遺構外出土石器（４）
不定形石器２ｃ～４類…93
第52図　遺構外出土石器（５）不定形石器５～８類…94
第53図　遺構外出土石器（６）不定形石器９～12類…95
第54図　遺構外出土石器（７）Ｕ．Ｆ．・剥片……96
第55図　遺構外出土石器（８）石核……97
第56図　遺構外出土石器（９）敲磨器類……98
第57図　遺構外出土石器（10）石皿・磨製石斧……99
第58図　遺構外出土土製品・石製品……101
第59図　遺構外出土近世以降の遺物……102

表目次

第１表　森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡群…３
第２表　秋田県遺跡地図（県北版）による
周辺の遺跡一覧…12
桐内沢遺跡
第３表　遺構外出土石器計測表……41
日廻岱Ａ遺跡
第４表　検出遺構一覧……57
第５表　遺構内出土土器観察表……59
第６表　遺構内出土石器観察表（１）……60
第７表　遺構内出土石器観察表（２）……62
第８表　掘立柱建物跡柱穴一覧……64
第９表　柱穴様ピット一覧……74
第10表　遺構外出土土器観察表（１）……85
第11表　遺構外出土土器観察表（２）……86
第12表　遺構外出土石器観察表……100
第13表　遺構外出土土製品・石製品観察表……101
第14表　遺構外出土近世以降遺物観察表……102

図版目次

桐内沢遺跡
図版１　桐内沢地区空撮（北→）　遺跡遠景（西→）
Ａ区近景（南西→）
Ａ区遺物集中地点調査風景（北→）
図版２　基本土層（Ａ区）（南→）
ＳＩ05竪穴住居跡床立石確認状況（北東→）
ＳＩ05土器埋設炉完掘状況（南→）
ＳＩ05竪穴住居跡完掘状況（北東→）
ＳＫＦ07フラスコ状土坑完掘状況（南→）
ＳＫＩ09竪穴状遺構完掘状況（南西→）
ＳＲ06土器埋設遺構土層断面（南東→）
ＳＲ08土器埋設遺構完掘状況（南東→）
図版３　ＳＩ05土器埋設炉炉体土器
ＳＩ05竪穴住居跡出土土器
ＳＲ06埋設土器　ＳＲ08埋設土器
図版４　遺構外出土土器（１）
第Ⅰ群１～３類　第Ⅱ群１～３類
図版５　遺構外出土土器（２）
第Ⅲ群１～６類　第Ⅳ群
図版６　遺構外出土石器
石槍・石匙・半円状扁平打製石器
日廻岱Ａ遺跡
図版７　ＳＫ06土坑完掘（南から）
ＳＫ06土坑断面（南から）
ＳＫ06土坑壺形土器出土状況（西から）
ＳＮ02焼土遺構確認状況（西から）
ＳＮ02焼土遺構断面（東から）
ＳＮ02焼土遺構浅鉢形土器出土状況（北西から）
ＳＮ02焼土遺構台付鉢形土器出土状況（北西から）
ＳＮ02焼土遺構深鉢形土器出土状況（南から）
図版８　ＳＢ113・114掘立柱建物跡完掘（北東から）
ＳＢ113Ｐ１柱穴断面（南東から）
ＳＢ114Ｐ５柱穴断面（南西から）
ＳＢ113Ｐ15・ＳＢ114Ｐ12柱穴断面（東から）
ＳＢ113Ｐ３柱穴寛永通寶出土状況（南から）
図版９　ＳＫ01土坑完掘（南西から）
ＳＫ03土坑断面（南から）
ＳＫ04土坑断面（南西から）
ＳＫ26土坑完掘（北から）
ＳＤ29溝跡完掘（南から）
ＳＤ29溝跡Ａ－Ｂライン断面（南から）
ＳＤ29溝跡Ｃ－Ｄライン断面（南から）
図版10　遺構内出土土器
図版11　遺構外出土土器（１）
図版12　遺構外出土土器（２）　土偶・岩版
図版13　炭化材樹種顕微鏡写真（１）
図版14　炭化材樹種顕微鏡写真（２）

はじめに

調査に至る経過

岩手県二戸郡安代町田山に源を発し、秋田県北部を東から西に流れる米代川は、31の支川を合わせながら日本海に注ぐ河川である。米代川が貫流する花輪・大館・鷹巣の各盆地下流付近は、山が迫っていて川幅も狭い。中でも、鷹巣盆地下流の七座神社付近から荷上場にかけての地域は、蛇行が激しいうえ急激に川幅が狭まる。さらに、北流する阿仁川と南流する藤琴川が合流するため、しばしば大洪水が起こっている。

1972（昭和47）年７月３日、北九州で始まった梅雨前線による集中豪雨は、日本列島を縦断し全国各地に被害をもたらした。秋田県では、県中央部から北部を中心に集中豪雨が襲い、全壊家屋73戸・半壊78戸・床上浸水3,379戸・床下浸水4,160戸の他、農地、農業施設1,779箇所・土木関係1,863箇所などあわせて256億2,408万円余りの被害を被った。秋田県に天災融資法と激甚災害法とが適用され、能代市・二ツ井町・森吉町・合川町・西仙北町・角館町には災害救助法が適用された。この豪雨時に小阿仁川上流の萩形ダムの他、藤琴川上流の素波里ダム、小又川上流の森吉ダムもダム本体を守るために放水したため、三つの鉄砲水のような流れが米代川で一緒になり、下流の二ツ井町・能代市を襲った。米代川の堤防が数箇所にわたって決壊して氾濫し、特に能代市中川原地区の被害は甚大であった。翌年、大洪水を機に「米代川工事実施基本計画」の見直しが行われ、二ツ井基準地点の基本高水流量を9,200㎥/ｓとし、このうち1,000㎥/ｓは上流ダム群によって調節することとなった。こうした上流ダム群の一つとして阿仁川支流の小又川に建設されることになったのが阿仁川ダムである。後に森吉山ダムと名称が変更されたこのダムは、洪水調節の他、灌漑用水の供給、水道水の供給、水力発電などを目的とする多目的ダムである。建設地点における計画高水流量2,300㎥/ｓの内、2,200㎥/ｓの洪水調節作用を持ち、二ツ井基準地点での維持流量は45.0㎥/ｓ、堤高90.0m、湛水面積3.2㎢、総事業費は当初予算で約910億円の中央コア型ロックフィルダムである。

森吉山ダム建設にともない、事業対象区域内の住民の移転が進む中、事業主体である建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所は、文化財保護法に基づき、秋田県教育委員会に対し貯水池流域面積248.0㎢の遺跡分布調査を依頼した。秋田県教育委員会は、遺跡分布調査を1992（平成４）・1993（平成５）年の２箇年にわたって実施し、その結果、桐内遺跡（縄文時代前期・後期）、二重鳥遺跡（縄文時代後期）、漆下遺跡（縄文時代後期）、栩岱遺跡（縄文時代後期・晩期）、砕渕遺跡（縄文時代）、丹瀬口遺跡（縄文時代後期）の新発見の遺跡６箇所が開発区域に係ることを確認した。この結果に基づき、森吉山ダム工事事務所と秋田県教育委員会は協議を重ね、1991（平成３）年発行の『秋田県遺跡地図（県北版）』に記された「周知の遺跡」、及び遺跡分布調査で発見された「新発見の遺跡」の双方についての確認調査を秋田県教育委員会が実施し、遺構・遺物の広がりを把握していくことを申し合わせた。

秋田県教育委員会では、1994（平成６）年度より確認調査を実施し、1998（平成10）年にすべての遺跡の確認調査を終了した。各年度に確認調査を行った遺跡は以下のとおりである。

1994（平成６）年度

桐内Ｃ（桐内Ⅰ）遺跡、桐内Ｄ（桐内Ⅱ）遺跡、桐内沢遺跡

1995（平成７）年度

日廻岱Ａ遺跡、日廻岱Ｂ遺跡、漆下遺跡、上ハ岱Ａ遺跡、上ハ岱Ｂ遺跡、二重鳥Ａ遺跡、二重鳥Ｂ遺跡、二重鳥Ｃ遺跡、二重鳥Ｄ遺跡、二重鳥Ｅ遺跡、二重鳥Ｆ遺跡、二重鳥Ｇ遺跡、二重鳥Ｈ遺跡、水上遺跡、天津場Ａ遺跡、天津場Ｂ遺跡、天津場Ｃ遺跡、ネネム沢Ａ遺跡、ネネム沢Ｂ遺跡、ネネム沢Ｃ遺跡、森吉家ノ前Ａ遺跡、森吉家ノ前Ｂ遺跡、森吉家ノ前Ｃ遺跡、森吉Ａ遺跡、森吉Ｂ遺跡

1996（平成８）年度

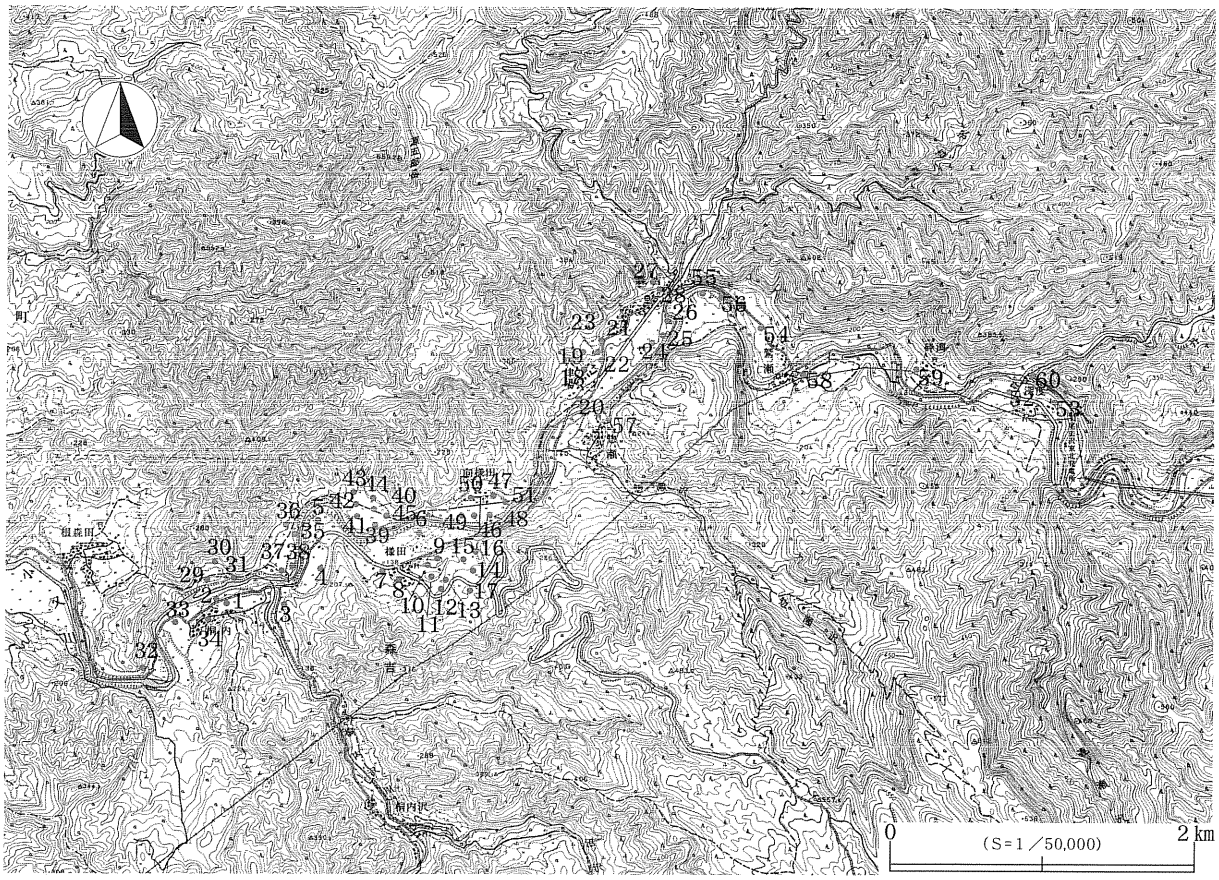
上悪戸Ａ遺跡、上悪戸Ｂ遺跡、上悪戸Ｃ遺跡、上悪戸Ｄ遺跡、桐内Ａ遺跡、桐内Ｂ遺跡、姫ヶ岱Ａ遺跡、姫ヶ岱Ｂ遺跡、姫ヶ岱Ｃ遺跡、姫ヶ岱Ｄ遺跡、橋場岱Ａ遺跡、橋場岱Ｂ遺跡、橋場岱Ｃ遺跡、橋場岱Ｄ遺跡、橋場岱Ｅ遺跡、橋場岱Ｆ遺跡、橋場岱Ｇ遺跡、向様田Ａ遺跡、向様田Ｂ遺跡、向様田Ｃ遺跡、向様田Ｄ遺跡、向様田Ｅ遺跡、向様田Ｆ遺跡

1997（平成９）年度

深渡遺跡、深渡Ａ遺跡、鷲ノ瀬遺跡、地蔵岱遺跡、地蔵岱Ａ遺跡、惣瀬遺跡

1998（平成10）年度

鷲ノ瀬遺跡



第１図　森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡群

番号	遺跡名	遺　跡　所　在　地	時　期
1	桐内C	森吉町森吉字桐内家ノ上ミ岱11外	縄文前～後期
2	桐内D	森吉町森吉字桐内家ノ上川反19外	縄文後期
3	桐内沢	森吉町森吉字桐内沢関下タ103	縄文前～後期
4	日廻岱A	森吉町森吉字日廻岱65,63-1外	縄文前・後期
5	日廻岱B	森吉町森吉字日廻岱86,88,89,90,91	縄文前・後期
6	漆下	森吉町森吉字漆下2-1,4,5,6,7,8,14-2,37外	縄文前・後期
7	上ハ岱A	森吉町森吉字上ハ岱102,104,105,106外	縄文晩期
8	上ハ岱B	森吉町森吉字上ハ岱70,71,72	縄文晩期
9	二重鳥A	森吉町森吉字二重鳥31-1,32-2,47-1,106-1,134,135	縄文晩期
10	二重鳥B	森吉町森吉字二重鳥11,99,100外	縄文前～後期
11	二重鳥C	森吉町森吉字二重鳥93,94,95,96,97,110	縄文後期
12	二重鳥D	森吉町森吉字二重鳥39	縄文後期
13	二重鳥E	森吉町森吉字二重鳥65,66-1,69,70-2,70-3	縄文前・後・晩期
14	二重鳥F	森吉町森吉字二重鳥124-1	縄文時代
15	二重鳥G	森吉町森吉字二重鳥80,81-1,84-1	縄文晩期
16	二重鳥H	森吉町森吉字二重鳥6,14,15	縄文晩期
17	水上	森吉町森吉字水上42-1,43-1,44,113-6外	縄文中・晩期
18	天津場A	森吉町森吉字天津場15-3	縄文後期・古代
19	天津場B	森吉町森吉字天津場16-1	縄文後期
20	天津場C	森吉町森吉字天津場87-1,87-3,88-2	縄文中・後期
21	ネネム沢A	森吉町森吉字ネネム沢26,27,28,29,30,31,32,33,34,35	旧石器・縄文後期・古代
22	ネネム沢B	森吉町森吉字ネネム沢17,19,22	縄文後期
23	ネネム沢C	森吉町森吉字ネネム沢6-1	縄文晩期
24	森吉家ノ前A	森吉町森吉字森吉家ノ前50,145,174,175,176,177,178	縄文後期・古代
25	森吉家ノ前B	森吉町森吉字森吉家ノ前138,139,140,141,142	縄文中～晩期・室町時代
26	森吉家ノ前C	森吉町森吉字森吉家ノ前101-1,103,114,115,116	中世
27	森吉A	森吉町森吉字森吉95	縄文後期・古代
28	森吉B	森吉町森吉字森吉69	縄文後期
29	上悪戸A	森吉町根森田字上悪戸4-1,9,10-1,11-1・2,12-1~4,13,14-1,16-1・2外	縄文後期
30	上悪戸B	森吉町根森田字上悪戸8-12	弥生後期
31	上悪戸C	森吉町根森田字上悪戸7,8-9	縄文後期
32	上悪戸D	森吉町根森田字上悪戸34-7,34-29~41,34-60・61・67,54外	縄文後・晩期
33	桐内A	森吉町森吉字桐内前田5-1,6-1・3外	縄文後期
34	桐内B	森吉町森吉字家ノ下16、字桐内33-1,34~37外	縄文晩期
35	姫ヶ岱A	森吉町根森田字姫ヶ岱8,9-1,10-1	縄文前期
36	姫ヶ岱B	森吉町根森田字姫ヶ岱14-10~12	縄文時代
37	姫ヶ岱C	森吉町根森田字姫ヶ岱12-2~11,15外	縄文中期
38	姫ヶ岱D	森吉町根森田字姫ヶ岱12-31外	縄文中期
39	橋場岱A	森吉町森吉字橋場岱48,49,50-1外	縄文中期
40	橋場岱B	森吉町森吉字橋場岱69,78外	縄文後・晩期
41	橋場岱C	森吉町森吉字橋場岱42,62外	縄文後・晩期
42	橋場岱D	森吉町森吉字橋場岱110-1	縄文時代
43	橋場岱E	森吉町森吉字橋場岱109	縄文時代
44	橋場岱F	森吉町森吉字橋場岱101,103,104	縄文晩期
45	橋場岱G	森吉町森吉字橋場岱6-1,39,40,46	縄文後期
46	向様田A	森吉町森吉字向様田家ノ下モ8,9-1・2,11,16,81-1,82,83,84	縄文晩期
47	向様田B	森吉町森吉字向様田67-1・2,70,71-1,72,74,75外	縄文後・晩期
48	向様田C	森吉町森吉字向様田76,77,78,79	縄文後・晩期
49	向様田D	森吉町森吉字向様田家ノ下モ14-1,17,18,19-1,20	縄文晩期
50	向様田E	森吉町森吉字向様田家ノ下モ36,37,39,63,64	縄文前期
51	向様田F	森吉町森吉字向様田58,59外	縄文後期
52	深渡	森吉町森吉字深渡104-1外	縄文前～晩期
53	深渡A	森吉町森吉字深渡29外	縄文後・晩期
54	鷺ノ瀬	森吉町森吉字鷺ノ瀬80外	縄文後期
55	地蔵岱	森吉町森吉字地蔵岱74外	縄文前～後期・平安時代
56	地蔵岱A	森吉町森吉字地蔵岱124外	縄文中・後期
57	惣瀬	森吉町森吉字惣瀬86外	縄文後期・平安時代
58	栩岱	森吉町森吉字栩岱74外	縄文後・晩期
59	砕渕	森吉町森吉字砕渕124外	縄文後期
60	丹瀬口	森吉町森吉字丹瀬2-1外	縄文後期

第１表　森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡群

森吉山ダム関連の工事は、1994（平成６）年の下流工事用道路から開始され、翌年には事業地内の材料運搬路に移った。一方、第12回日本ジャンボリーが1998（平成10）年に森吉山麓において開催されることとなった。ジャンボリーの開催には総合管理施設、飲料水供給施設、総合駐車場等の整備と人員の大規模な輸送を行う道路の整備が必要となり、1995（平成７）年に日廻岱Ａ遺跡・砕渕遺跡、1996（平成８）年には上悪戸Ｄ遺跡・深渡遺跡・地蔵岱遺跡・森吉家ノ前Ｂ遺跡・天津場Ｃ遺跡のアクセス道路線部を森吉町教育委員会が調査した。

森吉山ダム建設事業に係る発掘調査については、確認調査を行った遺跡の中から、記録保存の必要なものについて、工事工程に合わせて発掘調査を実施する合意が森吉山ダム工事事務所と秋田県教育委員会の間でなされている。秋田県教育委員会では、1997（平成９）年から1999（平成11）年の３年間で、深渡遺跡、姫ヶ岱Ｃ・Ｄ遺跡、桐内Ａ～Ｄ遺跡の発掘調査を実施している。

桐内沢遺跡の発掘調査は、2000（平成12）年５月12日から７月14日まで遺跡総面積にあたる11,000㎡を調査し、日廻岱Ａ遺跡の発掘調査は、2000（平成12）年７月31日から９月14日まで遺跡総面積にあたる4,100㎡をそれぞれ調査した。

参考文献

無明舎　『秋田県昭和史』　1989（平成元）年

秋田魁新報社　『ダムに沈む「むら」　森吉町森吉』　モリトピア選書１
建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所　1992（平成４）年

川村公一　『子孫に残す歴史の記録　森吉路　過去から未来へ』　モリトピア選書２
建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所　1993（平成５）年

森吉町教育委員会　『平成７年度　埋蔵文化財発掘調査報告書』　～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～
1996（平成８）年

森吉町教育委員会　『平成８年度　埋蔵文化財発掘調査報告書』　～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～
1997（平成９）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第251集　1994（平成６）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第259集　1995（平成７）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第267集　1996（平成８）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第270集　1997（平成９）年

秋田県教育委員会　『深渡遺跡―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅰ―』
秋田県文化財調査報告書第286集　1999（平成11）年

秋田県教育委員会　『姫ヶ岱Ｃ遺跡―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅱ―』
秋田県文化財調査報告書第287集　1999（平成11）年

秋田県教育委員会　『桐内Ｃ遺跡―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅲ―』
秋田県文化財調査報告書第299集　2000（平成12）年

秋田県教育委員会　『姫ヶ岱Ｄ遺跡―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅳ―』
秋田県文化財調査報告書第300集　2000（平成12）年

秋田県教育委員会　『桐内Ｂ遺跡・桐内Ｄ遺跡―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅴ―』
秋田県文化財調査報告書第318集　2001（平成13）年

調査要項

桐内沢遺跡

遺　跡　名	桐内沢遺跡（きりないざわいせき）（略号２ＫＮＺ）
所　在　地	秋田県北秋田郡森吉町森吉字桐内沢関下タ103
調査期間	2000（平成12）年５月12日～７月14日
調査目的	森吉山ダム建設事業に係る発掘調査
調査面積	11,000㎡
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	杉渕　　馨（秋田県埋蔵文化財センター調査課長補佐兼秋田北分室長 現、同センター北調査課長） 三嶋　隆儀（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事 現、天王町立天王中学校教諭） 吉田　英亮（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事） 高橋　俊幸（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員） 松尾　睦子（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員） 鈴木　博文（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員） 松橋　　淳（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員） 小納谷　亮（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員） 田中多喜子（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）
総務担当者	佐藤　　悟（秋田県埋蔵文化財センター総務課長） 嶋田　敏輝（秋田県埋蔵文化財センター主査） 佐々木敬隆（秋田県埋蔵文化財センター主事） 八文字　隆（秋田県埋蔵文化財センター主事 現、中仙町立清水小学校主事） 成田　　誠（秋田県埋蔵文化財センター主事）
調査協力機関	建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所 （現、国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所） 森吉町 森吉町教育委員会

日廻岱Ａ遺跡

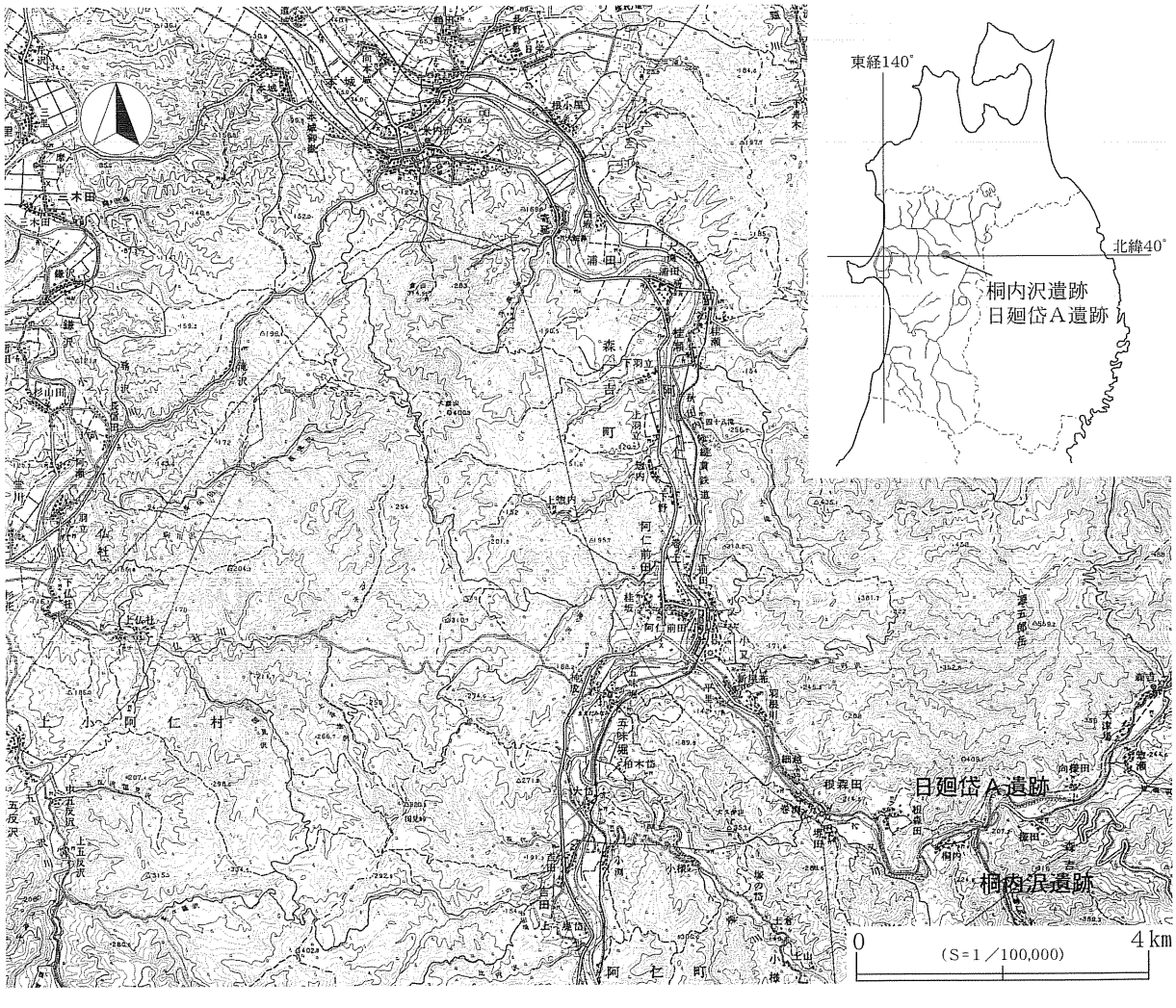
遺　跡　名	日廻岱Ａ遺跡（ひまわしたいＡいせき）（略号２ＨＭＴＡ）
所　在　地	秋田県北秋田郡森吉町森吉字日廻岱65、63－1外
調査期間	2000（平成12）年7月31日～９月14日
調査目的	森吉山ダム建設事業に係る発掘調査
調査面積	4,100㎡
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	牧野　賢美（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事 現、秋田県立鷹巣高等学校教諭） 加藤　　竜（秋田県埋蔵文化財センター文化財主事） 佐藤　　有（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員） 藤田　大誠（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員） 松岡　忠恭（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員） 大里　明子（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）
総務担当者	佐藤　　悟（秋田県埋蔵文化財センター総務課長） 嶋田　敏輝（秋田県埋蔵文化財センター主査） 佐々木敬隆（秋田県埋蔵文化財センター主事） 八文字　隆（秋田県埋蔵文化財センター主事 現、中仙町立清水小学校主事） 成田　　誠（秋田県埋蔵文化財センター主事）
調査協力機関	建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所 （現、国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所） 森吉町 森吉町教育委員会

遺跡の環境

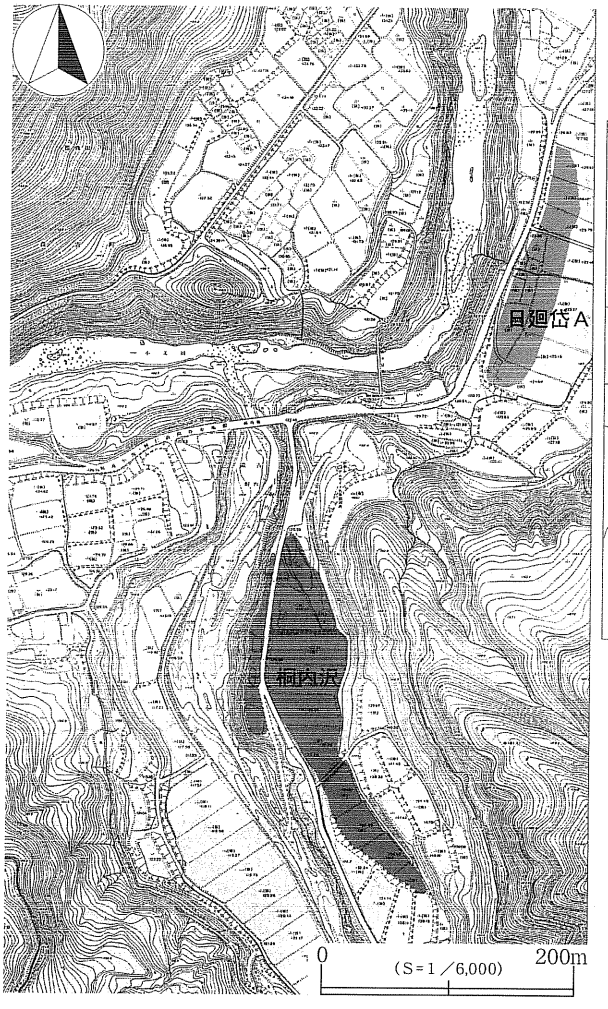
遺跡の位置と立地

桐内沢遺跡は、森吉山北麓を西流する小又川と、その支流である桐内沢川の合流地点の南東、桐内沢川の右岸段丘上に、日廻岱Ａ遺跡はその合流地点より約200m上流の小又川左岸の河成段丘上にそれぞれ位置する。西流する小又川沿いに県道比内森吉線を東上すると、小又川と桐内沢川の合流点にかかる桐内沢橋に至る。その桐内沢橋をわたり、そのまま東上するとすぐに道路の両脇が日廻岱Ａ遺跡、旧桐内沢地区へ南下してすぐ左手が桐内沢遺跡である。

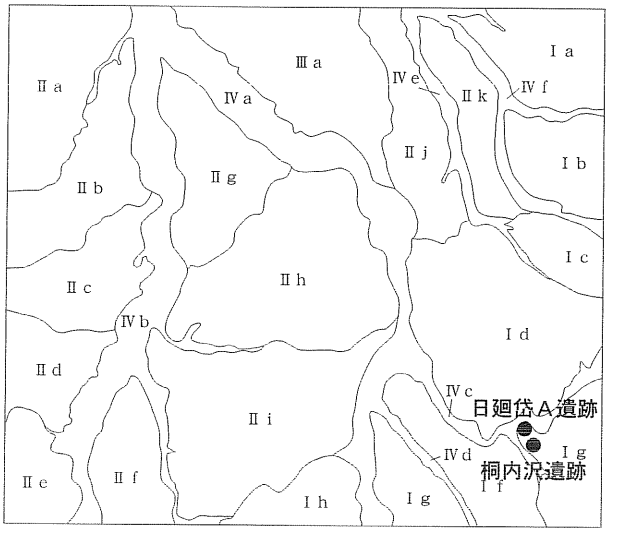
両遺跡は、森吉町北部の米内沢地区にある森吉町役場より南東約12km、秋田内陸縦貫鉄道阿仁前田駅から南東約５kmの距離にある。桐内沢遺跡は、北緯40°01′52″、東経140°27′55″に、日廻岱Ａ遺跡は、北緯40°02′03″、東経140°28′01″にそれぞれ位置している。



第２図　遺跡位置図



第３図　桐内沢・日廻岱Ａ遺跡



Ⅰ　山　地	Ⅰa	大畑山地		Ⅱf	不動羅丘陵地
	Ⅰb	黒森山山地		Ⅱg	三木田丘陵地
	Ⅰc	松沢山地		Ⅱh	大森山丘陵地
	Ⅰd	源五郎岳山地		Ⅱi	折渡丘陵地
	Ⅰe	高畑山地		Ⅱj	揚丘丘陵
	Ⅰf	大久保山山地		Ⅱk	七日市丘陵地
	Ⅰg	九両山山地	Ⅲ　台　地	Ⅲa	大野台台地
	Ⅰh	姫ヶ岳山地	Ⅳ　低　地	Ⅳa	阿仁川低地
Ⅱ　丘陵地	Ⅱa	長敲山丘陵地		Ⅳb	小阿仁川低地
	Ⅱb	三里丘陵地		Ⅳc	小又川低地
	Ⅱc	七倉山丘陵地		Ⅳd	小様川低地
	Ⅱd	友倉山丘陵地		Ⅳe	品類川低地
	Ⅱe	南沢丘陵地		Ⅳf	小猿部川低地

第４図　地形区分図

桐内沢遺跡は、小又川支流の桐内沢川右岸の河成段丘上に、日廻岱Ａ遺跡は、小又川左岸の河成段丘上に位置している。これは九両山山地が北西に張り出した山裾につながる段丘面にあたる。各遺跡の標高をみると、桐内沢遺跡が125～137m前後、日廻岱Ａ遺跡が124～127m程度でほぼ同じである。

桐内沢遺跡の西部においては桐内沢川に向い比高差14～16m程度の段丘崖となっている。日廻岱Ａ遺跡は西部において小又川に向い比高差20m程度の段丘崖となっており、遺跡は小又川に向い緩やかな傾斜を示す。

遺跡の所在する森吉町は秋田県の内陸北部に位置し、町西部を北流する阿仁川と鹿角市境から流れ出て阿仁川に合流する小又川の流域からなる。東は鹿角市・仙北郡田沢湖町、北は北秋田郡比内町・鷹巣町・合川町、西は北秋田郡上小阿仁村と接する。南の北秋田郡阿仁町との境に、町名の由来となった標高1,454mのアスピーテ・トロイデ複式火山である森吉山があり、その東側一帯は森吉山県立自然公園となっている。森吉山の北側には、谷底平野である小又川低地をはさんで、北北東に小繋森（標高1,010m）、北に高鳥帽子（標高764m）、北西に源五郎岳（標高559m）などが東西に連なっており、森吉山頂上からの距離は、いずれも約10～11kmである。これらの山地は分水嶺をなし、行政区分上も鷹巣町や比内町との境界をなしている。

本遺跡近くを流れる小又川は、北秋田郡・仙北郡・鹿角市の境界をなす三ツ又森（標高1,119m）・柴倉岳（標高1,178m）に源を発し、六郎沢・粒様沢・ノロ川・連瀬沢などの支流を合わせ、森吉山北麓を蛇行しながら西流し、阿仁前田地内で阿仁川と合流する。

小又川沿いには集落・耕作地が分布する段丘面が認められ、中流域では洪積段丘を含め最大６段の段丘面が確認される。平坦地は、広いところで南北約500m、狭いところで約20m、南北両側から山が迫ってきており、おおむね小又川右岸側にあたる北側山地の山腹斜面の方が勾配が急である。山麓の平地縁辺部は、集村形態をとる集落の居住地として利用され、平坦部の多くは畑地や水田として利用されていた。昭和40年代以降、畑地から水田への転換が急速に進むとともにほ場整備事業が行われた。現在は、森吉山ダム建設のために、桐内集落より上流に点在していた各集落はすべて移転を完了している。

この地域に分布する地質は、いわゆる東北地方日本海側グリーンタフ地域に属し、新第三紀中新世の地層を主としている。先第三紀の古期堆積岩（粘板岩、ホルンフェルス）が小繋森の頂上付近に顔を出しているが、それ以外の地域では、新第三紀中新世初期～中期の火山岩類、火山砕屑岩類および堆積岩類を基盤岩としている。また、第四紀層の森吉山及び柴倉岳の火山活動に伴う泥流堆積物・段丘堆積物・扇状地堆積物・河床堆積物・現河床堆積物が小又川に沿う平坦地を中心に被覆している。

当地区の地質を概観すると、小又川を境に右岸側は火山性砕屑岩類が分布し、左岸川には粗粒玄武岩が急崖を形成し、第四紀の火山泥流堆積物が広く被覆している。

遺跡の歴史的環境

『秋田県遺跡地図（県北版）』（1991年発行）によると、森吉町には58箇所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が周知されている。その後、秋田県教育委員会による、1992（平成４）年度～1993（平成５）年度の森吉山ダム建設事業に係る分布調査と、1994（平成６）年度からの同事業に係る遺跡確認調査によって、合計60遺跡が小又川流域の根森田・森吉地区で見つかっており、町の遺跡分布図は大幅に塗り替えられた。

森吉町では、ダム建設事業に係る遺跡確認調査の実施された1994（平成６）年度以前においては、旧石器時代の遺跡は確認されていなかったが、これらの調査により、森吉地区のネネム沢Ａ遺跡で旧石器時代の遺物が確認された。

縄文時代の遺跡では、爪形文・貝殻沈線文・条痕文の遺物が出土した早期の桂の沢遺跡、前期の長野岱Ｉ遺跡・地蔵岱遺跡、前期から後期にかけての大規模な集落跡が確認された狐岱遺跡がある。中期から晩期にかけては、姫ヶ岱Ｃ・Ｄ遺跡・砕渕遺跡・日廻岱Ａ遺跡・天津場Ｃ遺跡・上悪戸Ｄ遺跡・深渡遺跡・森吉家ノ前Ｂ遺跡・白坂遺跡・塚ノ岱遺跡がある。これらの中の遺跡で、深渡遺跡の石棺様組石・白坂遺跡の『笑う岩偶』は、大きく報道され話題となった。

現在の森吉町域を含む阿仁川・小阿仁川流域は『日本三代実録』に記す「榲渕村」に擬定されており、古代にあっては、律令化外の地として考えられている。古代の遺跡では、狐岱遺跡や諏訪岱遺跡などで平安時代の集落跡、地蔵岱遺跡で製鉄関連遺構が確認されており、その他天津場Ａ遺跡・ネネム沢Ａ遺跡・森吉家ノ前Ａ遺跡でも古代の遺構・遺物が確認されている。

中世以降の遺跡では、いわゆる中世城館が町全域で10箇所確認されている。町南部の旧前田村には、阿仁前田地区の前田館、五味堀地区の花館・天館、根森田地区の仲ノ又館がある。本遺跡に近い仲ノ又館には空堀や見張り台跡がある。森吉山ダム建設地区では、中世の城館跡は確認されていないものの、森吉家ノ前Ｂ遺跡で馬具の一部と思われる金具と、室町時代に属すると思われる珠洲系陶器が出土しており、小滝新兵衛岱遺跡から出土した鎌倉時代製作の青銅古鏡とともに、当該地域の中世の様相を示す数少ない資料となっている。

参考文献

秋田県農政部農地整備課　『大野台開発計画区域　土地分類基本調査　米内沢』　1978（昭和53）年

川村公一　『子孫に残す歴史の記録　森吉路　過去から未来へ』　モリトピア選書２
建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所　1993（平成５）年

角川書店　『角川日本地名大辞典　5　秋田県』　1980（昭和55）年

秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図（県北版）』　1991（平成３）年

秋田県　『秋田県史　考古編』　1977（昭和52）年

奈良修介・豊島昂　『秋田県の考古学』　郷土考古学叢書３　吉川弘文館　1966（昭和41）年

大和久震平　「北秋田郡森吉町米内沢狐岱遺跡調査報告」　『昭和三十二年度調査研究報告』
秋田県文化財保護協会　1958（昭和33）年

大野憲司　「狐岱遺跡について～1989年の範囲確認調査から～」　『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』　第５号
1990（平成２）年

高橋学　「森吉町長野岱Ⅰ遺跡採集の岩偶」　『秋田考古学』　第42号　秋田考古学協会　1993（平成５）年

加賀利男　「長野岱Ⅰ遺跡について」　『広報　もりよし』　第120号　1968（昭和43）年

加賀利男　「塚の岱遺跡の発掘調査について」　『広報　もりよし』　第131号　1969（昭和44）年

森吉町　「民俗資料ならびに考古学資料調査の協力依頼について」　『広報　もりよし』　第127号　1968（昭和43）年

森吉町教育委員会　『諏訪岱遺跡～堤沢川流路溝工事に係る発掘調査報告～』　1992（平成４）年

森吉町教育委員会　『平成７年度　埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』
1996（平成８）年

森吉町教育委員会　『平成８年度　埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』
1997（平成９）年

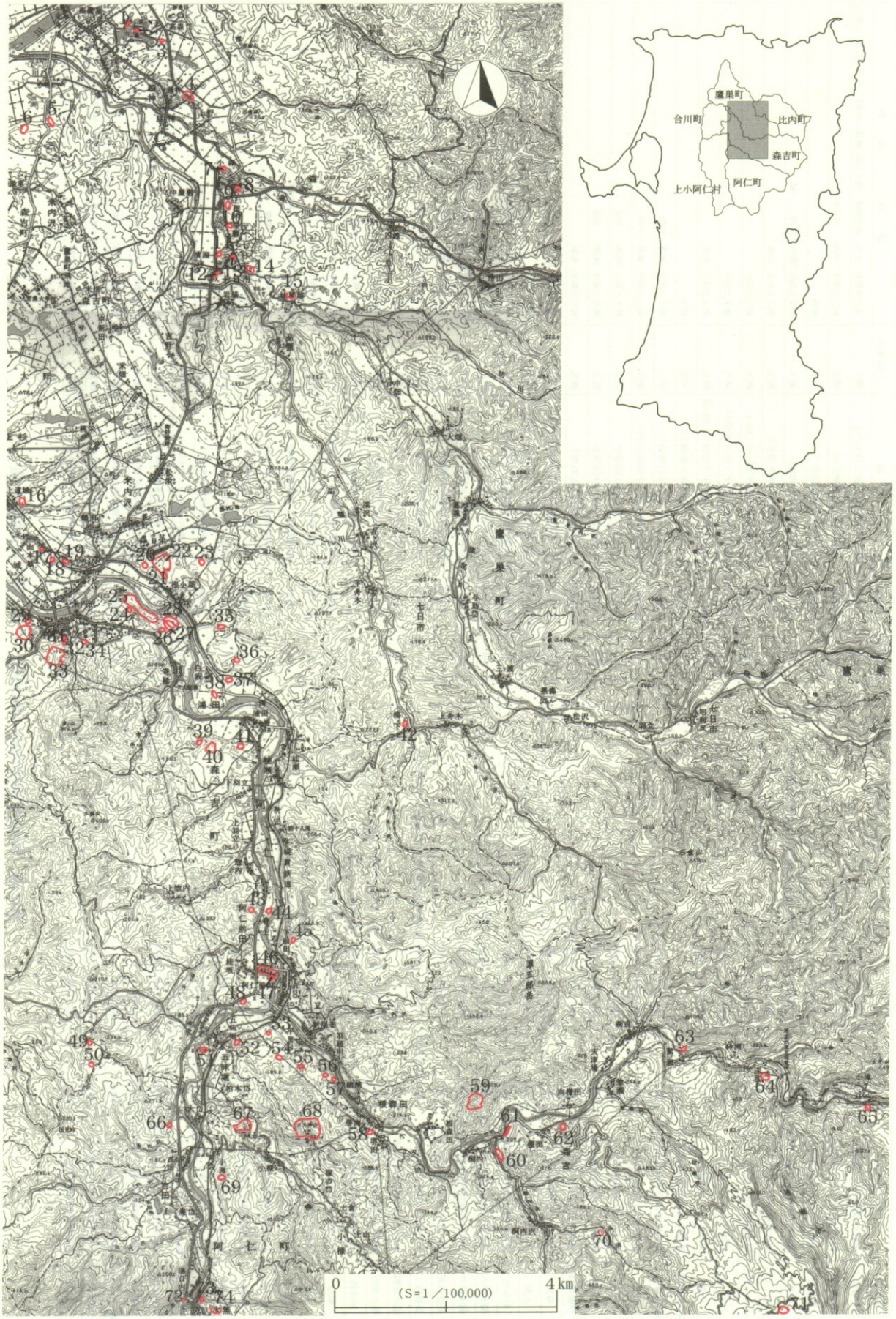
森吉町教育委員会　『上悪戸Ｄ遺跡発掘調査報告書～比内・森吉線地方道改良工事に係る発掘調査～』　1997（平成９）年

秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981（昭和56）年

秋田県教育委員会　『白坂遺跡発掘調査報告書－県営圃場整備に係る埋蔵文化財発掘報告－』
秋田県文化財調査報告書第244集　1994（平成６）年

秋田県教育委員会　『桂の沢遺跡発掘調査報告書－小滝阿仁前田停車場線地方道改良事業に係る埋蔵文化財発掘報告－』
秋田県文化財調査報告書第247集　1994（平成６）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第270集　1997（平成９）年



第５図　周辺の遺跡分布図

地図番号	遺跡名	所在地	主な時代	遺構・遺物
1	石の巻岱Ⅰ	鷹巣町脇神字石の巻岱60	縄文	縄文土器片（晩期）
2	石の巻岱Ⅱ	鷹巣町脇神字石の巻岱65	縄文	縄文土器片（後期）、香炉形土器
3	高森岱	鷹巣町脇神字高森岱16	縄文	縄文土器片（前期・中期）
4	藤株	鷹巣町脇神字藤株塚ノ岱43-4	縄文	竪穴住居跡、Tピット、縄文土器(前期・後期・晩期)、土製品、石器、石製品
5	からむし岱Ⅰ	鷹巣町脇神字からむし岱21	続縄文	続縄文土器片
6	からむし岱Ⅱ	鷹巣町脇神字からむし岱93	続縄文	続縄文土器片、壺形土器
7	タモノ木	鷹巣町小森字タモノ木17	縄文	縄文土器片（中期）
8	小森	鷹巣町小森字小森88-1	縄文	縄文土器片（晩期）
9	根木屋敷岱Ⅰ	鷹巣町七日市字根木屋敷岱20	古代	土師器
10	根木屋敷岱Ⅱ	鷹巣町七日市字根木屋敷岱61	縄文	縄文土器片（後期・晩期）
11	山の上	鷹巣町七日市字山の上57	縄文	縄文土器片（中期）
12	囲の内	鷹巣町七日市字囲の内80	縄文	縄文土器片（後期）
13	石倉岱	鷹巣町七日市字石倉岱3-1	縄文	縄文土器片（中期）
14	伊勢堂岱	鷹巣町七日市字伊勢堂岱8-4	縄文	縄文土器片（前期・中期・後期）
15	野尻	鷹巣町七日市字野尻8-2	縄文	縄文土器片（後期）
16	大野	合川町上道城字大野1	縄文	縄文土器片（中期）
17	向本城	森吉町米内沢字本城向屋敷3	縄文	縄文土器片、石匙
18	桐木岱A	森吉町米内沢字桐木岱41～65	縄文	縄文土器片（晩期）、石器
19	桐木岱B	森吉町米内沢字桐木岱20～23	縄文	縄文土器片、土偶
20	長野岱Ⅱ	森吉町米内沢字長野岱346-1	縄文	縄文土器片（中期）
21	長野岱Ⅰ	森吉町米内沢字長野岱56-1	縄文・弥生・古代	円形ピット、組石群、縄文土器片(前期・中期)、弥生土器片、土師器、石器
22	根小屋館	森吉町米内沢字長野岱56-1	中世	空堀
23	根小屋岱	森吉町米内沢字根小屋1-34	縄文・古代	縄文土器片（前期・中期・後期）、土師器、石器
24	冷水岱	森吉町米内沢字冷水岱 77-1	縄文・古代	縄文土器片（前期・中期・後期）、土師器、石器
25	狐岱	森吉町米内沢字狐岱 88	縄文・古代	竪穴住居跡(縄文・古代)、土坑、配石墓、縄文土器片(前期・中期・晩期)、土師器
26	山崎	森吉町米内沢字山崎57-1	縄文	土坑、配石遺構、縄文土器片
27	吉野Ⅰ	森吉町米内沢字吉野13-1	縄文・弥生	土坑、縄文土器片、弥生土器片
28	吉野Ⅱ	森吉町米内沢字吉野5-1	古代	土師器片
29	御獄	森吉町米内沢字御獄62-1	古代	土師器片
30	御獄館	森吉町米内沢字高御獄2	中世	空堀、土塁
31	寺ノ上Ⅰ	森吉町米内沢字寺ノ上12-28	縄文	縄文土器片（晩期）、石鏃、石匙
32	寺ノ上Ⅱ	森吉町米内沢字寺ノ上27-1	古代	土師器片
33	米内沢城	森吉町米内沢字倉ノ沢出口99-5	中世	空堀、土塁、井戸跡
34	伊勢の森	森吉町米内沢字伊勢ノ森52-57	古代	土師器片
35	浦田うるし沢	森吉町浦田字うるし沢50-1	縄文	縄文土器片
36	比内道下山根	森吉町浦田字白坂山根92	縄文	縄文土器片（後期）
37	塚の岱	森吉町浦田字塚の岱80	縄文	縄文土器片（晩期）
38	白坂	森吉町浦田字白坂上岱19-22	縄文	竪穴住居跡、土坑、配石遺構、縄文土器（後期・晩期）、岩偶、石器、土製品
39	愛宕堂	森吉町浦田字稲荷沢40	縄文	縄文土器片（中期）、石器破片
40	浦田館	森吉町浦田字愛宕堂下44	中世	館跡
41	石倉坂	森吉町浦田字石倉坂3	縄文	縄文土器片（前期・中期）、石器
42	若木岱	鷹巣町七日市字若木岱9-2	縄文	縄文土器片、石器
43	焼山	森吉町阿仁前田字道行沢136-1	縄文	縄文土器片
44	下野上野岱	森吉町阿仁前田字下野上野岱345	縄文	縄文土器片
45	下前田下山根	森吉町阿仁前田字下前田下山根36	縄文	縄文土器片・石器
46	前田館	森吉町阿仁前田字八幡森1-1	中世	館跡
47	八幡森	森吉町阿仁前田字八幡森1-1	縄文	縄文土器片（前期・中期）
48	陣場岱Ⅰ	森吉町阿仁前田字陣場岱40-1	縄文	縄文土器片（前期・中期）
49	冷水沢A	上小阿仁村仏社字冷水沢	縄文	縄文土器片（後期）、石器
50	冷水沢B	上小阿仁村仏社字冷水沢	縄文	縄文土器片（後期）、石器
51	五味堀	森吉町五味堀字五味堀1	縄文	縄文土器片、石器
52	ボサツ堂	森吉町五味堀字堂ノ前45-46	縄文	縄文土器片（晩期）
53	五味堀高屋敷	森吉町五味堀字下タ大久保岱174	縄文	縄文土器片
54	五味堀大久保岱	森吉町五味堀字大久保岱20	縄文	縄文土器片（後期）、独鈷石
55	小又小平里A	森吉町小又字涌坪74	縄文	縄文土器片（後期）、石器
56	小又小平里B	森吉町小又字上岱9	縄文	縄文土器片（後期）、石器
57	片平館	森吉町根森田字片平館3	縄文	縄文土器片（後期）、石器
58	桂の沢	森吉町根森田字桂ノ沢13	縄文	土坑、縄文土器（早期～晩期）、石器
59	仲ノ又館	森吉町根森田字仲ノ又75	中世	空堀
60	桐内沢	森吉町森吉字桐内沢関下タ103	縄文	縄文土器片、石器
61	日廻岱A	森吉町森吉字日廻岱65、63-1外	縄文	土坑、縄文土器片、石器
62	様田	森吉町森吉字様田二重烏131	縄文	縄文土器片、石器
63	鷲ノ瀬	森吉町森吉字鷲ノ瀬31-1	縄文	縄文土器片（前期）
64	深渡	森吉町森吉字深渡家の前	縄文	縄文土器（前期～晩期）、石組炉
65	向小滝	森吉町森吉字向小滝上段613	縄文	縄文土器片（晩期）、石器
66	風張城	阿仁町吉田字寺屋布1-7	中世	空堀、井戸跡
67	花館	森吉町五味堀字野崎1-82	中世	空堀
68	天館	森吉町五味堀字天館101	中世	館跡
69	高田城	阿仁町小淵字山ノ内65-32	中世	空堀
70	桐内沢清兵衛岱	森吉町森吉字清兵衛岱46	縄文	縄文土器片（後期・晩期）
71	小又川	森吉町小又川国有林52林班る小班	縄文	縄文土器片（後期）、石器
72	熊堂	阿仁町水無字湯口内451-1	縄文	縄文土器片（中期）、石鏃
73	上岱Ⅰ	阿仁町水無字上岱104-2	縄文	竪穴住居跡、フラスコ状土坑、縄文土器（中期・後期）
74	上岱Ⅱ	阿仁町水無字上岱135-2	縄文	縄文土器片（中期）

第２表　秋田県遺跡地図（県北版）による周辺の遺跡一覧

―― 桐内沢遺跡 ――
(2KNZ)

第１章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

桐内沢遺跡は、森吉山北麓を流れる小又川と、その支流である桐内沢川の合流地点の南東、桐内沢川の右岸段丘上に立地する。本遺跡は南北に細長く形成された河成段丘上にあり、南北の距離がおよそ225m、東西が最大72mに及ぶ。遺跡内においてもいくつかの小段丘面に分かれ、南側が高い。標高は125～137mとかなりの標高差がある。西側は桐内沢川に向かい比高差およそ15m前後の段丘崖となっている。遺跡内にはいくつもの沢が入り込み、その内の一つから多数の遺物が出土している。なお、本遺跡の現況はほぼ全域が休耕田である。

1994（平成６）年度に秋田県教育委員会が対象面積28,000㎡の確認調査を実施し、今回の調査では遺跡総面積にあたる11,000㎡の調査を行った。

調査は遺跡内で段差や道路により遺跡範囲が分断されていたため、調査範囲を便宜的にＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ区に分けて行った。調査方法としては、確認調査の結果を基に、遺構・遺物の検出が予想される箇所については全面調査を行い、遺構・遺物の検出が期待されない箇所、Ｂ区東半とＣ区については東西のグリッド杭に沿った２ｍ幅のトレンチ調査を行った。なお、Ｃ区北東部の一画は沢が入り込み現在でも常時水がたまる箇所で、遺構の検出も予想されないことから、実際に調査は行わなかった。

第２節　調査の方法

１　野外調査

調査はグリッド法で行った。対象面積全域にグリッドを設定するため、建設省打設の３級水準点№９を原点の基準杭とした。この基準杭を通る国家座標第Ｘ系の南北方向に南北基準線Ｙ軸を設定した。また、基準杭から南下した任意の点を設定し、原点とした。その地点でこの基準線と直交する線を東西基準線Ｘ軸とし、これらＸ・Ｙ両軸に４ｍ×４ｍの方眼メッシュを割り付けた。その原点をＭＡ50とし、東西方向には、Ｘ軸上西に４ｍ進む毎にＭＢ・ＭＣ・ＭＤ・・・・と正順に、東に４ｍ進む毎にＬＴ・ＬＳ・ＬＲ・・・・と逆順に各々Ａ～Ｔまでの、２文字のアルファベットの組み合わせを付した。南北方向には、Ｙ軸を北に４ｍ進む毎に51・52・53・・・・、南に４ｍ進む毎に49・48・47・・・・と漸減する２桁のアラビア数字を付した。各グリッドの呼称は、南東隅の杭を通るＸ軸とＹ軸の組み合わせで、ＭＡ50・ＭＢ51・ＭＣ52・・・・のように呼ぶこととした。

遺構は種類別に略号を付し、検出順に連番で遺構番号を付けた。番号登録の後、遺構と断定することのできなくなったものは、これを欠番としている。原則として半截または十字に土層断面観察用のベルトを残して、２または４分割法による精査を行った。遺物は、原則的にグリッド単位で取り上げ、グリッド名、出土した層位、種別、年月日を記録した。遺構内の遺物は簡易遣り方測量によって計測・記録して取り上げた。記録した項目は、１．遺物番号、２．出土グリッド、３．出土層位、４．種別、５．Ｘ座標、６．Ｙ座標、７．Ｚ座標、８．取り上げ年月日である。平面図および断面図は、

原則として1/20で作成し、土器埋設遺構や炉跡などは細部状況を表すために適宜1/10の縮尺で作成し、それぞれにレベルを記入した。作図にあたっては、基本的にはグリッド杭を基準とする簡易遣り方測量によったが、調査範囲やコンター図はトータルステーションによる機械測量を行った。断面図には土色・土性・しまり・粘性・混入物等を注記し、必要に応じてエレベーション図も作成した。

写真撮影は、遺跡や遺構・遺物を対象とする地上撮影を行い、発掘終了の際には全景撮影のためにローリングタワーを使用した。写真は、35㎜カメラにモノクロ、カラーリバーサル（スライド用）フィルムを装着し、必要に応じてネガカラーも加えている。

2　室内整理

各遺構については、現場で作成した平面図・断面図を第１原図とし、トータルステーションを用いて計測したものはデジタル処理した。使用したプログラムは（株）シン技術コンサル「遺跡管理システム」である。この第１原図をスキャニングし、Adobe社「Photoshop5.5」・Adobe社「Illustrator8.0」を使用し、トレースまでの作業を行った。遺物については、洗浄・注記の後、報告書に記載する遺物の選別を行い、その後基本的に1/1で実測図を作成した。遺物についても遺構の処理と同様、デジタル処理を行った。報告書に掲載するにあたっての縮尺変更の作業も同様である。図にはスケールを入れて示してある。また、土器片などは拓影図の作成をあわせて行い、これらの作業の後、写真撮影を行っている。なお、各記録をデジタル処理後に、挿図に関しては、データ入稿を行った。

第３節　調査の経過

発掘調査は、平成12年５月12日から７月14日まで実施した。

第１週（５月12日）本日より調査開始。調査事務所周辺の整備、発掘器材の運搬・整理を行った。

第２週（５月15日～19日）先週と同様に調査前の準備作業、重機による表土除去を行いながら、排土置き場・調査方法などの再確認を行った。Ａ・Ｃ区の粗掘り・精査を開始。Ｃ区について東西に２ｍトレンチを設定して掘り下げた。下は岩盤で、遺構・遺物は検出されなかった。同時にＡ区北部について精査を開始し、最北部の農道に接する部分で小規模な沢を確認。掘り下げたところ、多量の土器片・石器が検出された。15日森吉山ダム工事事務所小林専門職来跡。

第３週（５月22日～26日）Ａ区の粗掘り・精査を行った。重機によりＢ区の表土除去を行った。Ａ区で確認された沢の精査を進めたところ、遺物の出土範囲が広がったため、遺物出土状況の写真撮影を行い、取り上げを行った。Ａ区南部についても粗掘りを開始。

第４週（５月29日～６月２日）Ａ・Ｃ区の精査を行った。Ａ区中央部、ＬＦ24グリッドにて焼土を確認し、ＳＮ05とし精査を行った。またＬＨ24グリッドにおいて土器埋設遺構を確認、ＳＲ06として精査を行った。

第５週（６月５日～９日）Ａ・Ｃ区の精査、Ｂ区の粗掘りを行った。Ａ区については、沢部分の精査・遺物取り上げを継続。ＳＲ06の精査を終了。Ｂ区については、東半に２ｍトレンチを設定し、掘り下げた。耕作土の下が粘土層となり、遺物も検出されないことから、遺構はないものと判断し、この部分の調査を終了。７日、森吉山ダム工事事務所小林専門職来跡。作業の安全について指導を受けた。

第６週（６月12日～６月16日）Ａ区の精査、Ｂ区の粗掘りを行った。ＳＮ05を精査したところ、中央部分に堅くしまった焼土を確認。これを炉とみなし、竪穴住居跡に変更。Ｂ区については、南西から北東に流れる２本の沢を確認。北側の沢からは遺物が検出されないが、南側の沢からは遺物が検出された。12日、発掘作業員健康診断。14日、文化財保護室大和谷室長・谷地学芸主事、埋蔵文化財センター船木副所長来跡。

第７週（６月19日～23日）ＳＩ05について精査を進めたところ、中央に直径13cmの埋設土器とその周辺に焼土を確認。床面を精査したが、柱穴ははっきりせず。Ｂ区の沢の精査を行った。Ｄ区についても粗掘りを開始。19日、文化財保護室谷地学芸主事来跡。22日より７月７日まで、調査担当吉田が琴丘町狐森遺跡調査の応援に出向いた。

第８週（６月26日～30日）ＳＩ05の精査を進め、貼床であることが判明。Ａ区沢部分の遺物の取り上げを終了。Ｂ区の精査を進めるが、遺構は検出されず。Ｄ区の粗掘り・精査を開始したが遺物は検出されなかった。

第９週（７月３日～７日）ＳＩ05を完掘し、平面図を実測して終了。Ａ区沢部分の断面を実測。この断面は基本土層を兼ねる。ＬＭ36グリッドにおいてフラスコ状土坑を確認。ＳＫＦ07とし、精査を進めた。

第10週（７月10日～14日）Ａ区において、ＬＩ27・28・ＬＪ27・28グリッドで焼土を伴う４m程度のプランを確認。ＳＩ09として精査を進めるが、掘り下げたところ、炉・柱穴は確認できず、ＳＫＩ09として精査を終了。ＬＩ26グリッドで土器埋設遺構を確認。ＳＲ08として精査を終了。ＳＫＦ07の精査を終了。Ａ・Ｂ・Ｄ区について精査を終了、コンターを作成し、全景撮影を行った。14日、発掘作業を終了した。

第２章　調査の記録

第１節　基本層位

河成段丘上に立地する調査区は東西に細長く、調査区内でもかなりの高低差があり、特にＡ区とＢ区の高低差は２～３ｍある。調査区全域が、昭和40年代後半の耕地整理により改変されている。本来は北から南への傾斜地だった地形を削平し、水田区画に改変したためか、かなりの範囲が地山面までの削平を受けている。そのため、第６図の等高線は調査終了時に計測した数値から作成したものであるが、本来の地形とは若干異なるものと思われる。また、調査区内には幾本もの大小の沢が入り込んでいる。特に調査区北側（Ｂ・Ｃ区）の標高の低い区域には比較的大きな沢が入り込み、自然礫が露出していた。遺構は遺跡南部の最も標高の高いＡ区で検出されている。この区域の北から南西にかけて沢が入り込み、その沢から多数の遺物が出土している。調査区の基本土層は、この沢部分の北西壁土層から観察した。層序は以下のとおりであるが、第Ⅲ層～第Ⅶ層までは沢部分の堆積土であるため、調査区全体の基本土層は第Ⅰ・Ⅱ・Ⅷ・Ⅸ層である。

第Ⅰ層　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　シルト　粘性弱、しまりやや強。表土（水田耕作土）。下部に酸化鉄が認められる。

第Ⅱ層　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　シルト　粘性やや弱、しまりやや強。径の小さい礫（１cm以下）を少量含む。遺物包含層。

第Ⅲ層　黒褐色土（10ＹＲ2/2）　シルト　粘性やや弱、しまりやや強。遺物が出土する。

第Ⅳ層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）　シルト～砂　粘性弱、しまり弱。褐色の砂を多量に含む。

第Ⅴ層　灰黄褐色土（10ＹＲ2/2）　シルト～粘土　粘性強、しまりやや強。
径大小の礫（１～30cm）を中量含む。遺物が出土する。

第Ⅵ層　黒褐色土（10ＹＲ2/3）　シルト～粘土　粘性強、しまり強。遺物が出土する。

第Ⅶ層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）　シルト～粘土　粘性強、しまりやや強。径大小の礫（１～60cm）を多量に含む。遺物が出土する。

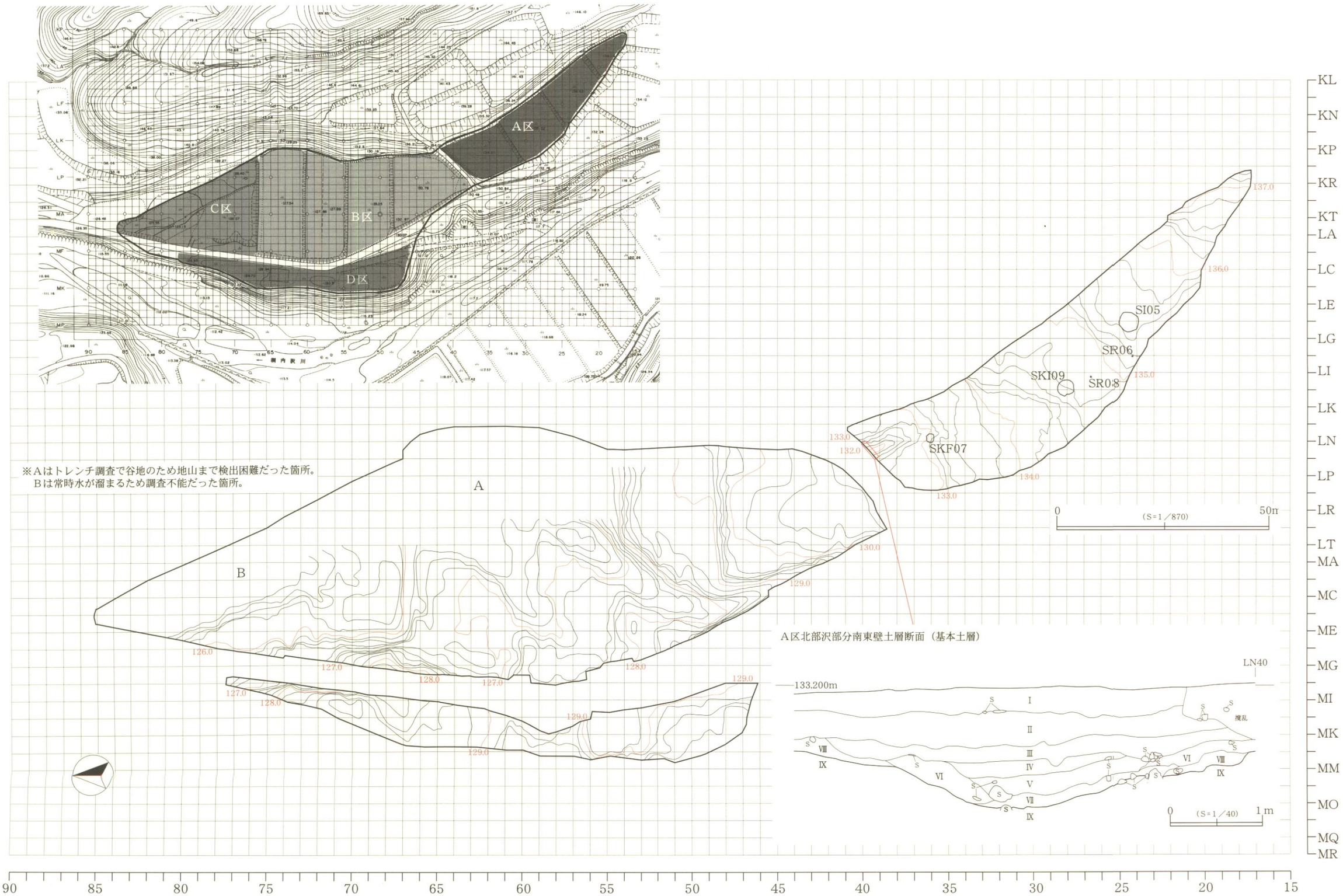
第Ⅷ層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）　シルト　粘性やや強、しまり強。地山粒混入。

第Ⅸ層　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）　シルト～細砂　粘性やや強、しまり強。
※部分的に径の大きな礫が露出。

第２節　検出遺構と出土遺物

１　概要

桐内沢遺跡発掘調査で検出された遺構は、竪穴住居跡１軒、土器埋設遺構２基、フラスコ状土坑１基、竪穴状遺構１基であった。各遺構の構築時期は、おおむね縄文時代中期に属する。遺構の分布は遺跡南部の最も標高の高い区域（Ａ区）に限られた。



第６図　遺跡範囲・遺構配置・基本土層図

２　遺構と出土遺物

（１）竪穴住居跡

ＳＩ05竪穴住居跡（第７～９図、図版２・３）

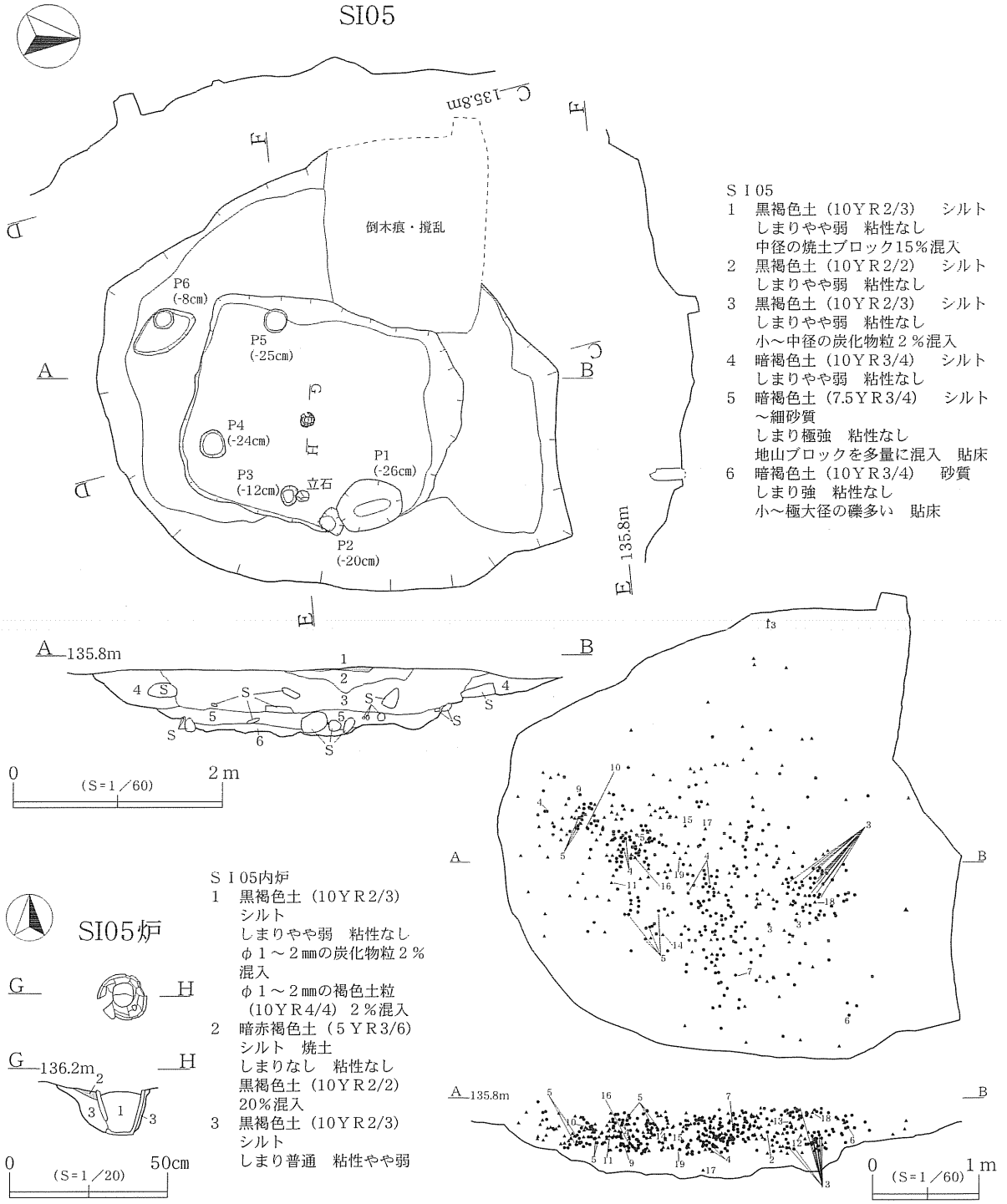
ＬＦ24グリッド（Ａ区）中央部において、Ⅱ層から地山にかけて精査中、不定形の黒褐色プラン内に焼土を検出した。黒褐色土と併せて半截するが焼土層が薄く、土層も不明瞭なため、さらに半截の範囲を暗褐色土まで広げ調査したところ、直径約４ｍの半円状となりＳＩとして調査を進めた。他の遺構との重複はないが、北西部において倒木による撹乱のため遺構の一部が切り取られている。

プランは不正な円形を呈し、規模は長軸（東―西）4.45ｍ×短軸（北―南）4.12ｍである。壁高は南側で約28㎝～33.5㎝、北側で約20.5㎝～27.5㎝であり、中央の一段低い平坦面から急に立ち上がり、いったんテラス状の平坦面を形成し、さらになだらかに立ち上がる。床面は、中央部、テラス部ともにほぼ平坦である。覆土は６層に分層された。５・６層は地山ブロックの混合層であり、非常に堅く締まっていることから、貼床と思われる。６層は小礫が多く混じる。貼床面東側で立石が検出された。大きさ約32㎝、径12㎝でほぼ垂直に立てられていた。石質は頁岩で、全体に粗い剥離が施され、整形されたようである。ピットは６基検出されたが、規模も不規則で上屋のかかる柱穴かは不明である。炉としては貼床面中央部に土器埋設炉を検出した。土器を中心に直径約35㎝の範囲で焼土が検出され、また範囲内にある礫には熱を受けた跡がはっきり残っている。土器埋設炉内部からは、少量であるが炭化物が検出された。

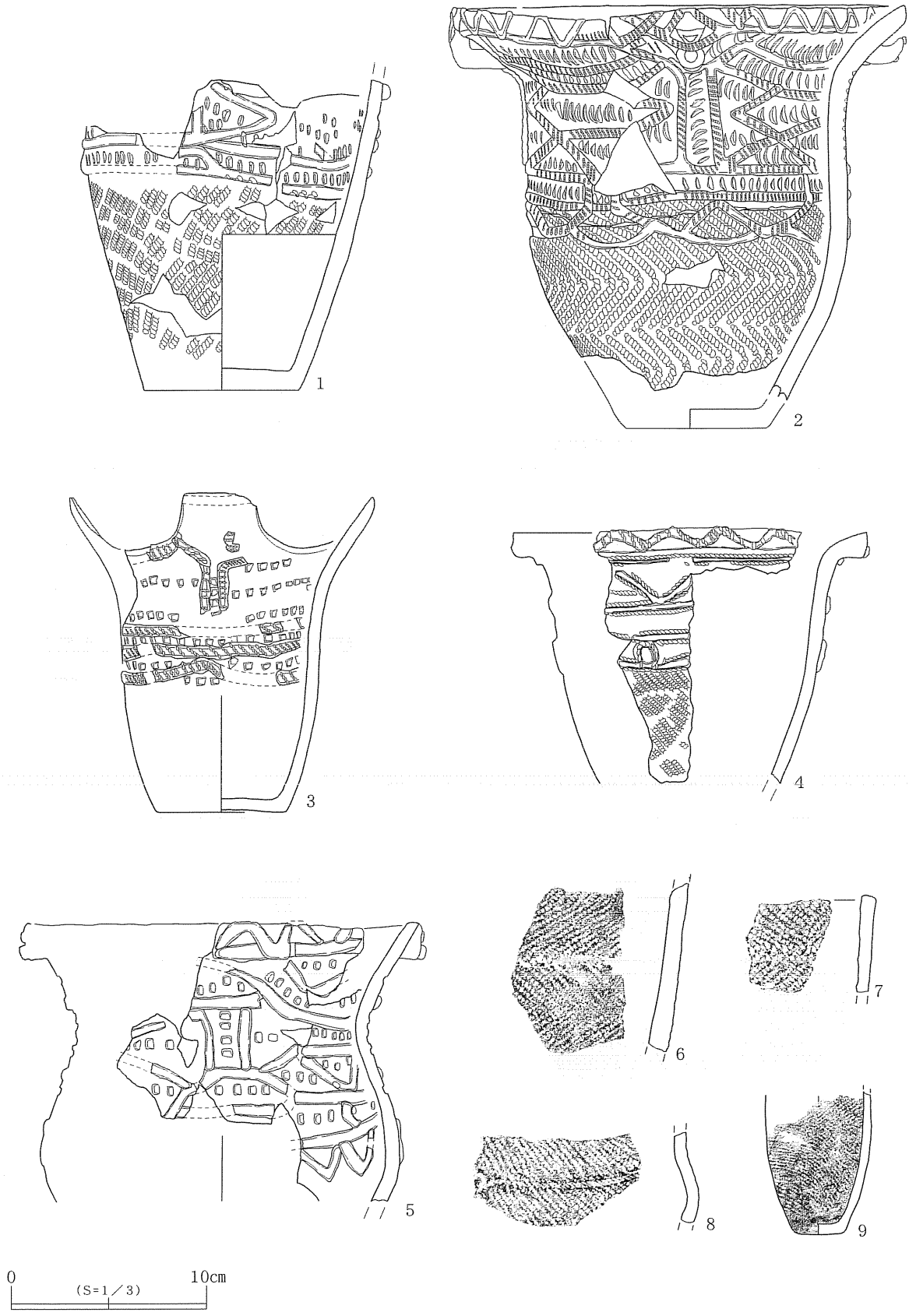
この住居跡からは多量の遺物、土器409点、石器166点が出土した。遺物の出土位置は覆土上位から下位までまんべんなく出土しているが、貼床中からはほとんど出土していない。土器はいずれも中期前葉に属する。

炉体土器として、１の口縁部が欠損した中期前葉の深鉢形土器が埋設されている。胴上部には菱形、もしくは弧状に隆帯が貼り付けられ、その下方には２条の隆帯が平行している。貼り付けた隆帯は部分的にはがれ落ちている。隆帯に沿って、棒状工具による角押文列が施される。胴下部にはＬＲ縄文が施される。２は底部が欠損した深鉢形土器である。器形は底部から胴部下半はやや丸みをもって緩やかに、胴部上半はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部は極端に外反する。平行・波状・三角形に隆帯を貼り付け、その間に竹菅状工具により連続した刺突が施される。隆帯上にはＲＬ縄文の側面圧痕が施される。口縁部下には円形の貼り付けをもつ把手が４単位付く。胴部下半には結節羽状縄文が施される。３は深鉢形土器であり、器形は底部からやや丸みをもって緩やかに、胴部上半はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部にかけては緩やかに外反しながら大きく開く。口縁は４単位の波状口縁である。水平方向に数条隆帯が貼り付けられ、口縁と対応して隆帯が垂下する。隆帯に沿って、棒状工具による角押文列が施される。胴部下半は無文である。４は深鉢形土器の口縁部である。口縁部は強く外反し、波形に隆帯が貼り付けられて、隆帯上にはＲＬ縄文の側面圧痕が施される。胴部上半にも水平・波状に隆帯が貼り付けられる。隆帯に沿ってＲＬ縄文の側面圧痕が施される。胴部下半にはＬＲ縄文が施される。５は深鉢形土器の口縁部である。器形はキャリパー形を呈し、口縁部は厚く張り出す。器面には水平・波状・三角状・弧状・Ｈ字状に隆帯が貼り付けられ、その間を角押文列で充填している。６・７は結節羽状縄文が施される。８は体部にＬＲ縄文が施され、横位に１条の原体側面圧痕が施される。一部渦巻き状になる。９は深鉢形のミニチュア土器で全面にＬＲ縄文が施される。

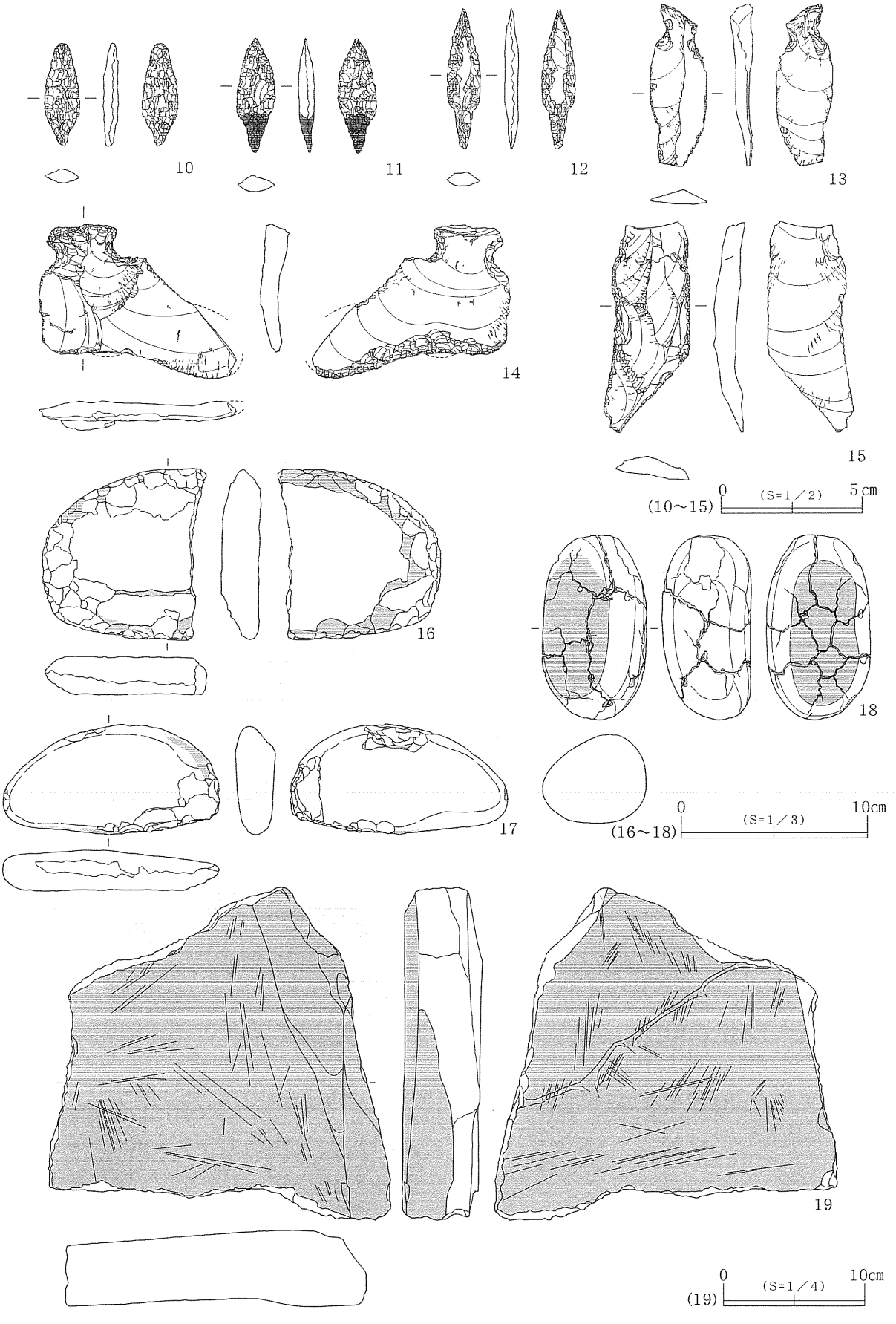
10～12は凸基有茎鏃であるが、いずれも基部が不明瞭で、長身で厚みがある。11には基部にアスファルトが付着している。13・14は石匙である。いずれも薄手の剥片を素材とし、打面側につまみ部を作出している。15はスクレイパーで剥片素材表面の両側縁に二次加工を施し刃部を作出している。16・17は半円状扁平打製石器である。16は右半分が欠損していて不明であるが、残りの縁辺全てに剥離を加えている。17は扁平な礫の一部にのみ剥離を加え刃部を作出している。18は磨石で、両面に磨痕がある。19は石皿である。両面に磨痕がみられる。



第７図 SI 05竪穴住居跡



第８図　SI 05出土遺物（１）土器



第９図　SI 05出土遺物（２）石器

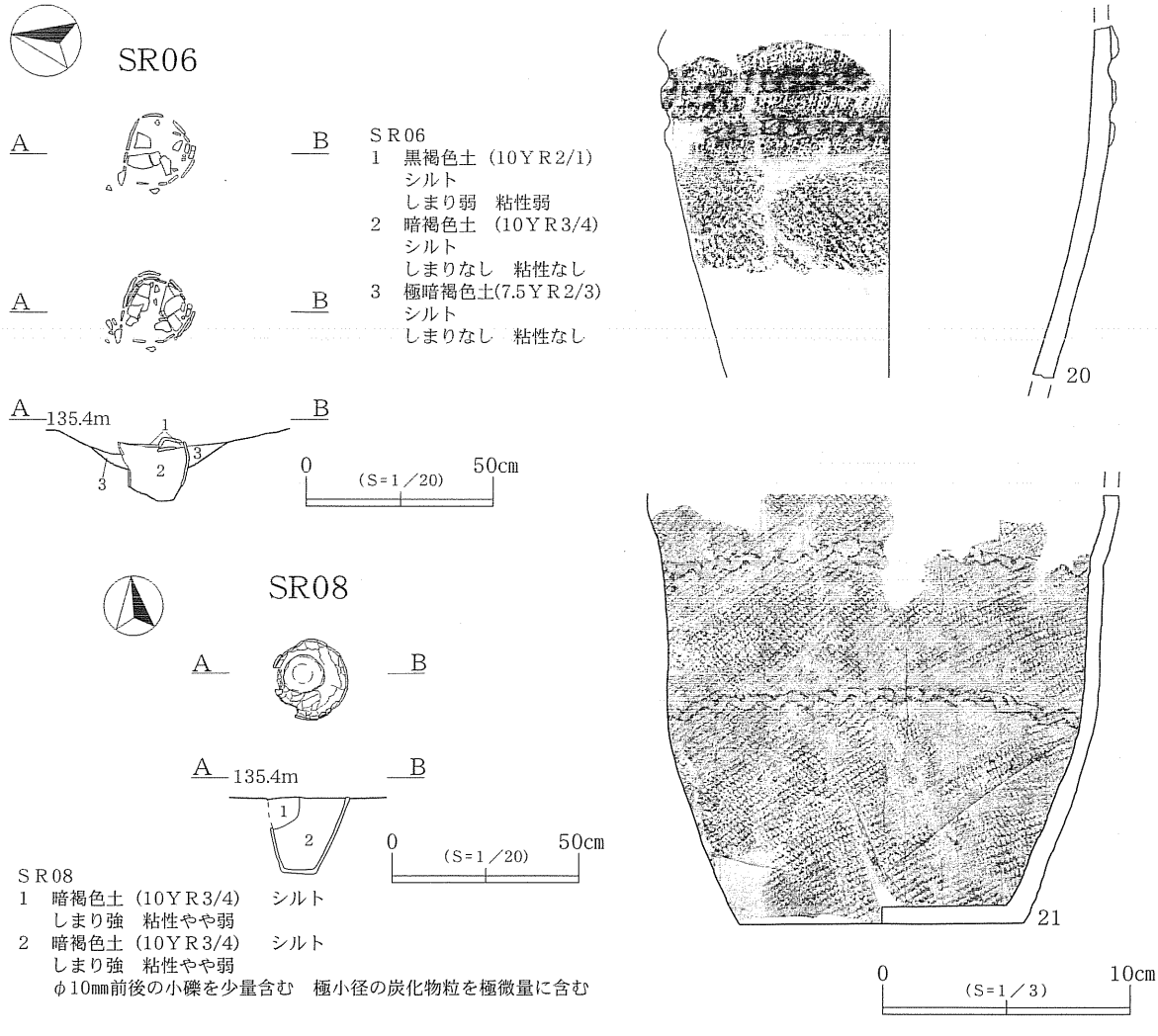
（２）土器埋設遺構

ＳＲ06土器埋設遺構（第10図、図版２・３）

ＬＨ24グリッド（Ａ区西側）において、Ⅱ層からⅧ層にかけて精査中に確認した。確認面での掘り込みははっきりしないが、断面から推察すると長径（東―西）で約37.0cmの不整な楕円形を呈していたと思われる。深さは6.5cmで土器壁面に接している。埋設土器は底部がなく、掘り込み中央に正位に埋められている。埋設土器内の覆土は１層のみである。炭化物の検出はない。20は埋設されていた深鉢形土器で、口縁部・底部を欠いている。横位に平行な隆帯を貼り付け、その間を棒状工具による角押文で充填している。胴部には結節羽状縄文が施される。

ＳＲ08土器埋設遺構（第10図、図版２・３）

ＬＩ26グリッド（Ａ区西側）において、Ⅷ層を精査中に確認した。掘り方は土器の規模とほぼ同程度であり、掘り込み中央に土器が正位に埋められている。覆土は２層に分層され、微量に炭化物が検出された。21は埋設されていた深鉢形土器で、口縁部を欠いている。全面にＬＲ縄文が施され、結節文様が横走する。



第10図　SR06・SR08土器埋設遺構

（3）フラスコ状土坑

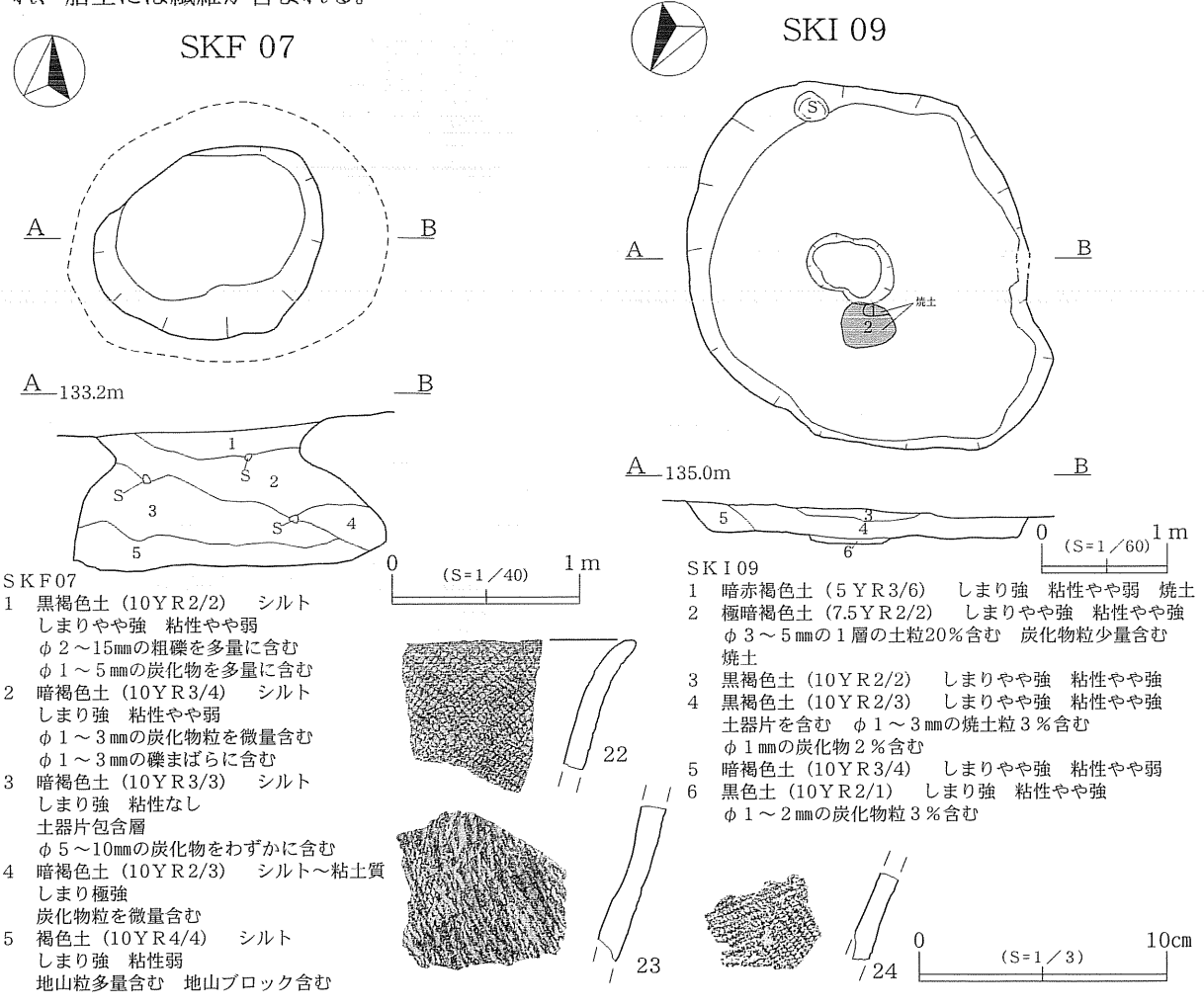
ＳＫＦ07フラスコ状土坑（第11図、図版２）

ＬＭ36グリッド（Ａ区西側）において、Ⅷ層精査時に確認。規模は底部で直径146cm、１番広いところで直径162cm、頸部で直径102cm、口縁部で直径112cmとなり、全体に不整な円形を呈する。壁面は頸部までは内湾気味に、頸部からは外傾して立ち上がる。底部より約10cm上位で最大径となる。底面は平坦であり、固く締まっている。覆土は５層に分層された。遺物は覆土中から点々と出土し、土器115点、剥片31点が出土した。土器片は摩滅した小片がほとんどである。22は口縁部片で、羽状縄文が施される。23は撚糸文が施され、胎土に繊維を含む。

（4）竪穴状遺構

ＳＫＩ09竪穴状遺構（第11図、図版２）

ＬＩ27・28・ＬＪ27・28グリッド（Ａ区西側）において、地山面精査中に焼土層を確認、周辺を更に精査し、プランを確認した。平面形は不整な楕円形を呈す。長軸340cm、短軸275cmである。壁面の立ち上がりはやや不明瞭であるが、壁高は、20cm～12.5cmである。底面は平坦である。覆土は６層に分層された。また、焼土は２層に分類されたが、層が極めて薄かったため、断面図には記録できなかった。遺物の出土は少なく、縄文土器片が９点、剥片が１点出土した。24は羽状縄文が施され、胎土には繊維が含まれる。



ＳＫＦ07
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）　シルト
　しまりやや強　粘性やや弱
　φ２～15㎜の粗礫を多量に含む
　φ１～５㎜の炭化物を多量に含む
2　暗褐色土（10ＹＲ3/4）　シルト
　しまり強　粘性やや弱
　φ１～３㎜の炭化物粒を微量含む
　φ１～３㎜の礫まばらに含む
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）　シルト
　しまり強　粘性なし
　土器片包含層
　φ５～10㎜の炭化物をわずかに含む
4　暗褐色土（10ＹＲ2/3）　シルト～粘土質
　しまり極強
　炭化物粒を微量含む
5　褐色土（10ＹＲ4/4）　シルト
　しまり強　粘性弱
　地山粒多量含む　地山ブロック含む

ＳＫＩ09
1　暗赤褐色土（５ＹＲ3/6）　しまり強　粘性やや弱　焼土
2　極暗褐色土（7.5ＹＲ2/2）　しまりやや強　粘性やや強
　φ３～５㎜の１層の土粒20％含む　炭化物粒少量含む
　焼土
3　黒褐色土（10ＹＲ2/2）　しまりやや強　粘性やや強
4　黒褐色土（10ＹＲ2/3）　しまりやや強　粘性やや強
　土器片を含む　φ１～３㎜の焼土粒３％含む
　φ１㎜の炭化物２％含む
5　暗褐色土（10ＹＲ3/4）　しまりやや強　粘性やや弱
6　黒色土（10ＹＲ2/1）　しまり強　粘性やや強
　φ１～２㎜の炭化物粒３％含む

第11図　SKF07フラスコ状土坑・SKI09竪穴状遺構

第３節　遺構外出土遺物

１　土器

遺構外から出土した遺物は、縄文時代前期・中期・後期のものであり、そのほとんどが遺跡南部（Ａ区）の沢部分からの出土である。遺構外出土土器についての記述は、文様などから分類し、時期別に分類した。

第Ⅰ群土器（第12図１～11、図版４）

縄文時代前期に比定される土器である。いずれも胎土に繊維を含む。

１類（１）：口唇部に指頭による押圧が施される土器である。口縁部文様帯には縄文原体先端による押圧文が、胴部には撚糸文が施される。

２類（２～５）：頸部文様区画帯に低い隆帯と爪形文列が施される土器である。胴部はほぼ真っ直ぐに立ち上がり、口縁部で外反する。２・３は口縁部片で、いずれも口縁部文様帯には結節羽状縄文が横位に施される。頸部文様区画帯には２列の爪形文列が施される。２の胴部文様帯は縦位に結節羽状縄文が施される。４・５は３列の爪形文列が施される。５は口縁部文様帯に原体側面圧痕が施される。

３類（６・７）：頸部文様区画帯に原体側面圧痕もしくは沈線が施される土器である。６は口縁部胴部ともにＲＬ単節縄文が施される。７は口縁部文様帯に羽状縄文が施される。

４類（８～10）：胴部に羽状縄文を施す土器である。８・９は横位、10は縦位に展開する。

５類（11）：口唇部に押圧縄文を施した土器である。口縁部文様帯は無文であり、頸部文様区画帯には原体側面圧痕、胴部にはＬＲ単節縄文が施される。

第Ⅱ群土器（第12～13図12～22、図版４）

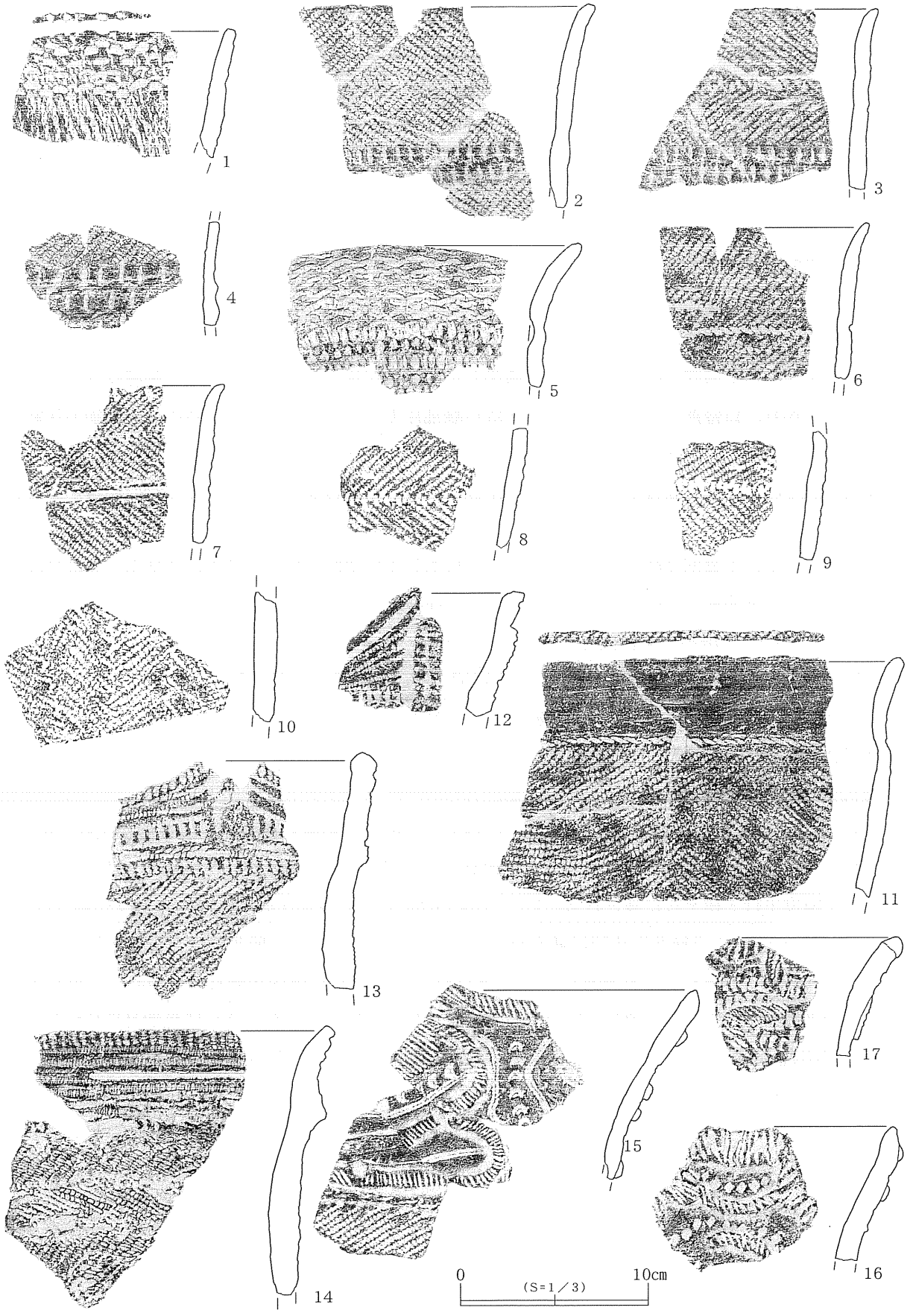
縄文時代中期前葉に比定される土器である。

１類（12～14）：二叉の小突起を持ち、口唇部・口縁部文様帯に絡条体圧痕を施す土器である。小突起からは縦位に装飾された隆帯を持つ。頸部には横位に隆帯が施される。口縁部文様帯には絡条体圧痕が横位平行・梯子状に施される。12・13は頸部隆帯に絡条体圧痕が、14は爪形文が施される。

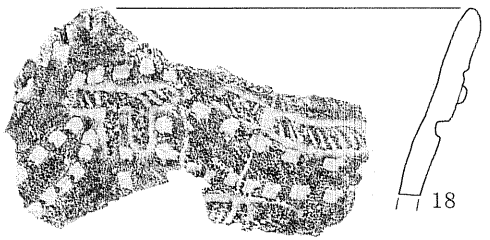
２類（15～19）：口縁部文様帯に隆帯を貼り付けて文様を構成し、隆帯間を角押文列等により充填した土器である。隆帯には撚糸押圧文が施される。15は弧状に隆帯が貼り付けられ、口唇部・隆帯に撚糸押圧文が施される。隆帯に沿ってＬＲ縄文の側面圧痕が施され、さらに爪形文に似せたＣ字状の原体側面圧痕が充填される。16～19は、水平・波状・三角状・弧状・Ｈ字状に隆帯が貼り付けられ、隆帯に沿って角押文列が充填される。

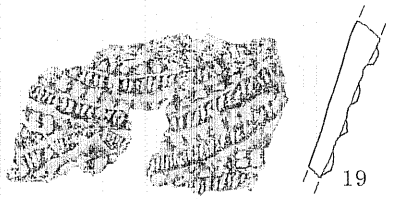
３類（20・21）：２類と類似するが、隆帯には板状の工具による刻みが施される。21は大型の深鉢形土器の胴部上半である。口縁部は４単位の波状口縁であり、突起部には大きな円形のボタン状突起と２個１対の孔がある。水平・波状・三角状・弧状・Ｈ字状に隆帯が貼り付けられ、隆帯に沿って角押文列が充填される。

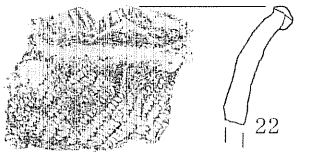
４類（22）：口唇部に鋸歯状に細い隆帯が貼り付けられる土器である。隆帯にはＬＲ単節縄文が施される。

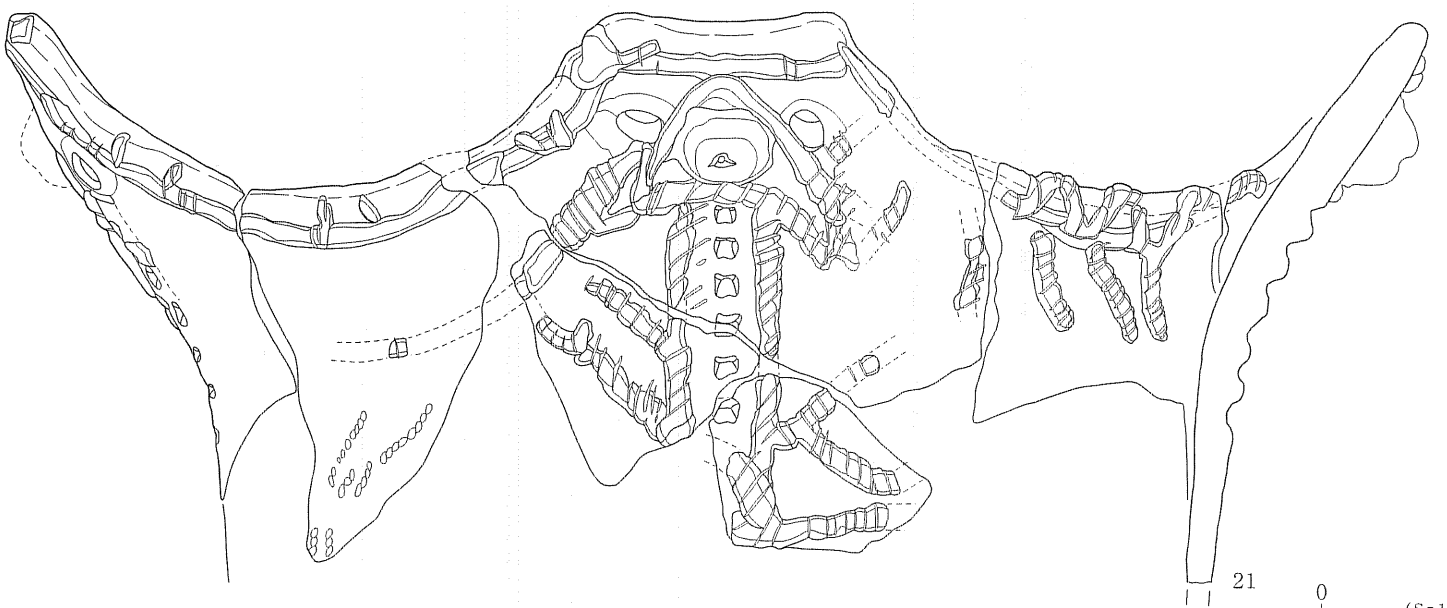


第12図　遺構外出土遺物（1）土器









第13図　遺構外出土遺物（２）土器

第Ⅲ群土器（第14～15図23～52、図版５）

縄文時代後期に比定される土器である。

１類（23～30）：沈線によって区画された磨消文様帯を有する土器である。23～26は平行沈線が横走し、幅広の磨消帯（無文帯）・縄文帯が展開する。23・24は口縁部で強く外反し、口縁部下が無文帯となる。26は深鉢形土器の上半である。頸部が括れ、胴上部が極端に張り出す。口縁部は広く無文帯である。27・28は平行沈線と曲線によって区画し、磨消帯が展開する。しかし、磨消帯と文様帯の区別が明瞭ではなく、沈線で区画されていない部分もある。29・30はクランク状に文様が展開する。30は底部が欠損した深鉢形土器で、胴部がやや張り出し、頸部が括れて口縁部にかけて外反する。６単位の波状口縁である。

２類（31～34）：地文として単節縄文が施された後に沈線によって施文された土器である。31は口縁部に沿った平行沈線と波頂部から斜め方向の平行沈線が施される。32は曲線による入り組み文が施文される。33・34は直線と曲線の組み合わせで施文される。

３類（35～40）：地文として撚糸文が施された後に沈線によって施文された土器である。35～37はやや条間の開いたＬの撚糸文を施文した後、沈線により直線・曲線・波状線が施文される。38・39は波状口縁部の波頂部で、縦方向に撚糸文を施文した後、沈線が垂下・もしくは斜めに降りる。40は斜め方向の区画内に連続した円形の刺突が施される。

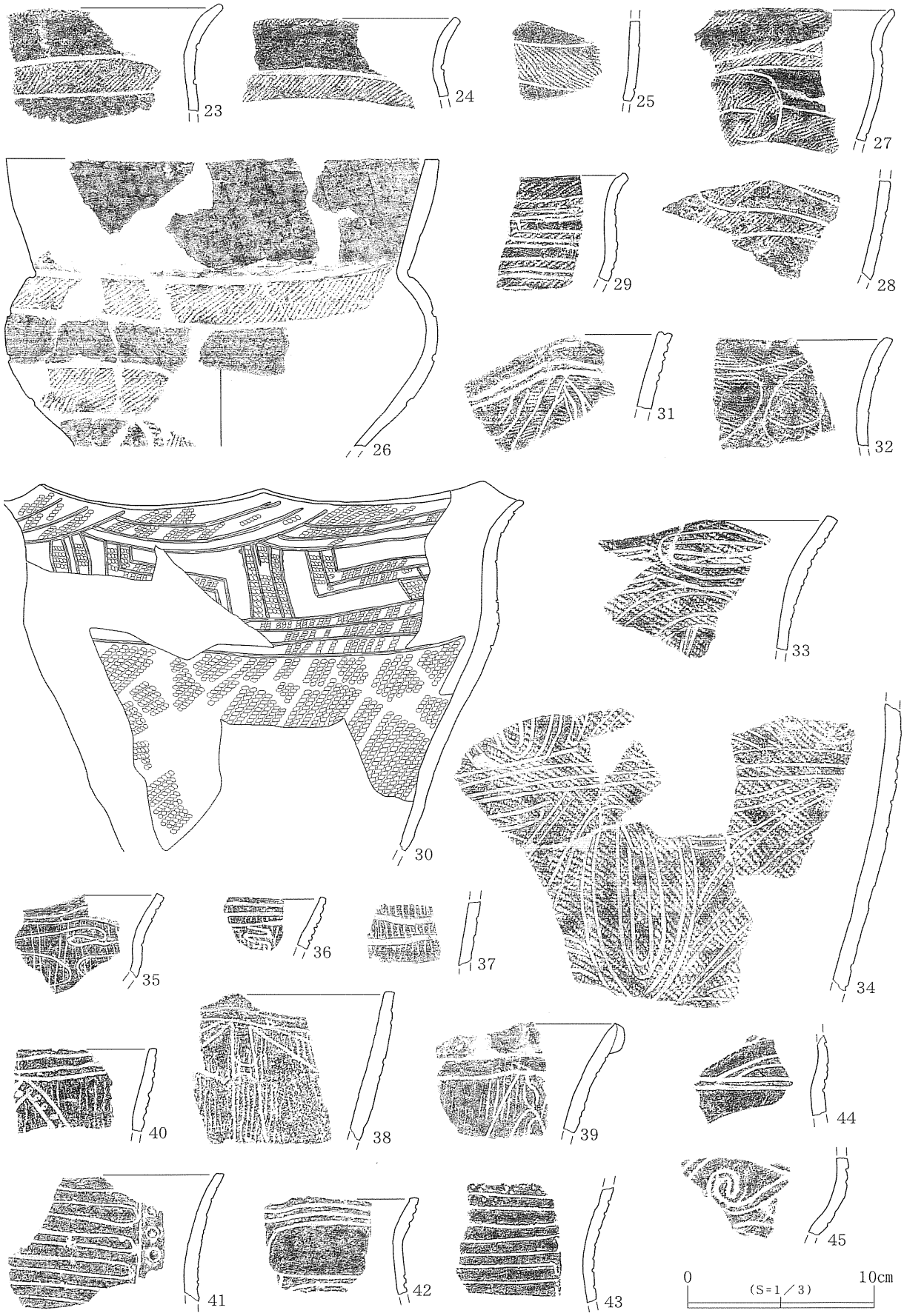
４類（41～47）：細い沈線によって平行直線・曲線・渦巻・Ｓ字状などの入組文が施文される土器である。41は横長の楕円文が重層し、縦位に円形文が連続する。42・43は横位に平行沈線が連続する。45は渦巻文が施文される。46は深鉢形土器の上半で、３条１組の横位の平行沈線によって頸部文様帯が区画され、４条１単位の波形文が連続する。胴部は無文である。47は鉢形土器で、上部と下部に紐を通す用途と思われる穴が空けられる。胴部には曲線による入組文が施文され、部分的に赤色顔料が付着している。

５類（48・49）：口縁部、あるいは平行沈線の間に刻目が施される土器である。49はボタン状の突起が欠損した痕跡がある。

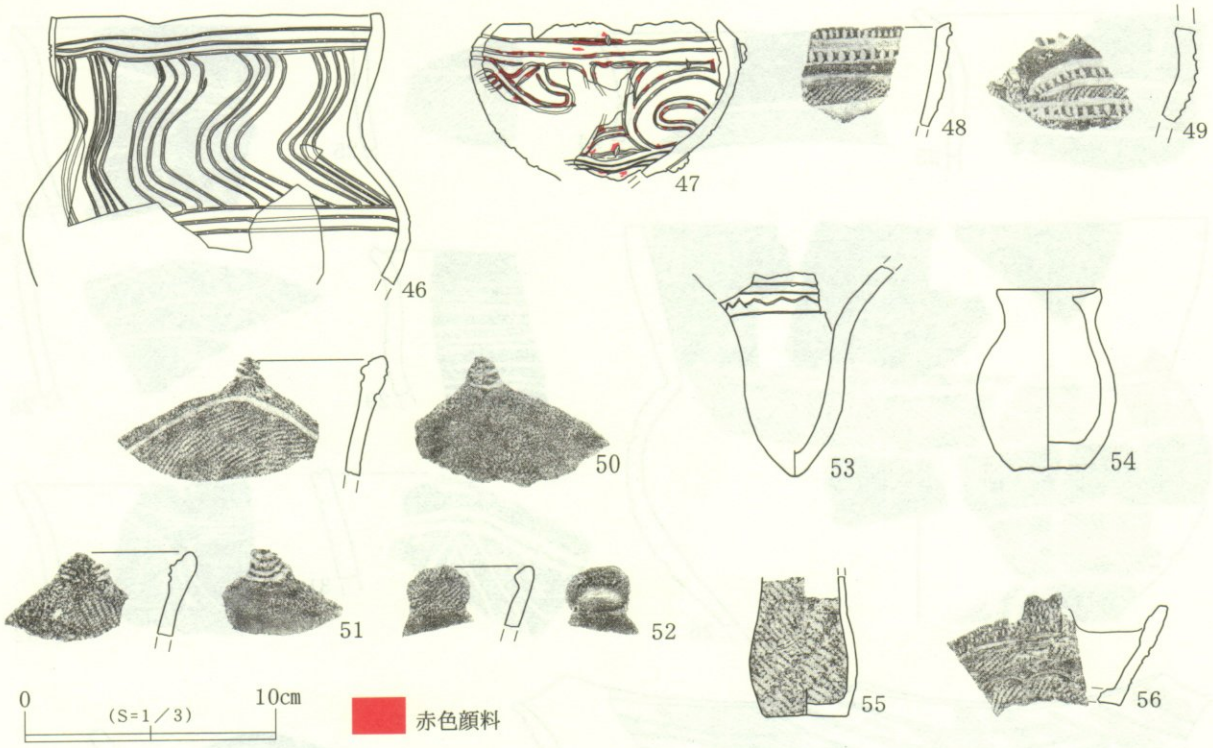
６類（50～52）：口縁部に小突起が付し、突起裏側に装飾が施される土器である。50・51は小さく尖った突起で、裏には数条の沈線が横位に施される。52は裏面が指で押したように窪む。

第Ⅳ群土器（第15図53～56、図版５）

ミニチュア土器である。53は丸底で口縁が極端に外反する深鉢形をしている。口縁部には平行沈線と鋸歯状文が展開する。54は壺形で、頸部から口縁にかけて極端に厚みを増す。55も壺形であるが胴部がほとんど膨らまない。胴部にはＲＬ縄文が施される。56は口縁が楕円形、底部が隅丸方形となる鉢形を呈する。口縁部には細かい刺突が施され、沈線が横走する。胴部にはＲＬ縄文が施される。口縁部には底部の隅と対応する突起がある。



第14図　遺構外出土遺物（３）土器



第15図　遺構外出土遺物（4）土器

2　石器

遺構外から出土した石器は全部で349点である。剥片および二次加工のある剥片は含まない。その内訳は、石鏃４点、石錐18点、石槍22点、石匙108点、スクレイパー89点、石箆41点、半円状扁平打製石器32点、磨製石斧10点、磨石類15点、石皿８点であった。

これらの石器はそのほとんどが、遺跡南部（A区）の沢部分からの出土である。

石鏃（第16図１・２）

４点出土した。いずれも表裏ともに丁寧な調整加工が施される。１は平基有茎鏃で、非常に薄手、小型である。２は凸基有茎鏃で、基部が欠けている。他の器種と比較して、出土数が非常に少ない。

石錐（第16図３～５）

18点出土した。形態から以下の３つに分けられる。

A：（第16図３）：薄手の小型剥片の一端を尖らせ錐部を作出したもの。11点出土した。

３は素材縁辺に調整を加え、素材末端に錐部を作出している。

B：（第16図４・５）：断面三角形の細長い剥片の尖る側に錐部を作出したもの。５点出土した。

４は素材表面の両側縁に調整を加え、錐部を作出している。つまみ部はほとんど加工されず、不明瞭である。５は比較的大きく細長い剥片の末端部分に調整を加え、錐部を作出している。つまみ部は両側より抉りが入り、石匙のような形状になる。

C：中型剥片の一端に小さな錐部を作出したもの。２点出土した。

石槍（第16図６～14、図版６）

22点出土した。主に両面加工によって尖頭部と基部を作出したものを一括した。形態により以下の４つに分けられる。

Ａ：（第16図６～９）：基部が丸みをもち、薄手のもの。幅広のものが多い。８点出土した。

６・７は比較的小型で、柳葉形を呈する。９は尖頭部が欠損している。

Ｂ：（第16図10～12）：基部が丸みをもち、厚手のもの。細身のものが多い。８点出土した。

Ｃ：（第16図13・14）：尖頭部・基部ともに尖るもの。2点出土した。13は基部側の両端がやや抉れている。14は横長剥片を素材としている。

Ｄ：尖頭部・基部いずれかが欠損して不明のもの。４点出土した。

石匙（第17・18図15～35、図版６）

108点出土した。つまみ部を通る軸線と刃部の位置関係により以下の３つに分けられる。

Ａ：（第17図15～25）：縦型。主に縦長の剥片を素材とし、その両縁、もしくは片縁に刃部を作出したもの。全周に刃部を作出したものもこれに含む。61点出土した。刃部の位置と調整のあり方をみると、縦長剥片の両側縁に片面から調整を加えたもの（15～20）が最も多く、36点出土した。次いで、全周の片面調整（22・23）が７点。ほとんど二次加工のないもの７点。片側縁の片面調整（21）６点。両側縁を両面と片面からの調整（25）３点。両側縁の両面調整１点。全周の両面加工（24）１点となる。両側縁に加工が施されるものの中には、先端が尖るもの（18～21）も10点みられた。つまみ部が作出される位置を見ると、ほとんどが、打点側につまみ部がみられ、54点を占める。次いで、器端側にみられるのが４点、横方向にみられるものが２点、不明が１点であった。

Ｂ：（第18図26～28）：横型。主に横長、もしくは幅広の剥片を素材とし、その末端縁に刃部を作出したもの。9点出土した。刃部の位置と調整のあり方をみると、片面からの調整（26）が６点、両面からの調整（27・28）が２点、二次加工がほとんどないものが１点となる。つまみ部の位置は不明なものが２点ある他はすべて打点側に作出される。

Ｃ：（第18図29～35）：斜型。素材剥片の両側縁もしくは末端縁に刃部が作出され、つまみ部の軸線と刃部が斜めに交差するもの。21点出土している。素材形態の規則性がない。つまみ部の作出位置を見ると、打点側に多いが、そのほとんどがやや斜めにずれている。ほとんどが片面からの調整で刃部が作出されている。

Ｄ：欠損のため不明のもの。17点出土した。

スクレイパー（第19図36～47）

89点出土した。刃部の位置と二次加工のあり方により、大きく６つに分けられる。

Ａ：（第19図36・37）：素材剥片片面（表面）の全周に二次加工を施し、刃部を作出したもの。11点出土している。その形態によりさらに丸形（36）５点と楕円形（37）６点に分けられる。丸形のものはすべて厚みがあり、刃角が急である。楕円形のものは細長く薄手の剥片を利用している。

Ｂ：（第19図38～40）：素材剥片片面（表面）の両側縁および末端縁に二次加工を施し、刃部を作出したもの。20点出土している。その形態によりさらに角形（38）５点と丸形（39・40）15点に分けられる。角形は末端部が真っ直ぐで３辺を有するが、丸形は先端が細いものも多く末端に明瞭な辺がみられない。

C：（第19図41～43）：素材剥片片面（表面）の片側縁および末端縁に二次加工を施し、刃部を作出したもの。17点出土している。そのほとんどの刃部が弧状になる。

D：（第19図44・45）：素材剥片片面（表面）の両側縁に二次加工を施し、刃部を作出したもの。16点出土している。

E：（第19図46）：素材剥片片面（表面）の一側縁に二次加工を施し、刃部を作出したもの。24点出土している。

F：（第19図47）：素材剥片片面（表面）の末端縁に二次加工を施し、刃部を作出したもの。２点出土している。

石箆（第20図48～55）

41点出土した。二次加工のあり方により、大きく３つに分けられる。

A：（第20図48・49）：主要剥離面を大きく残し、表面全体に二次加工を施すもの。20点出土している。形態をみると、器端が尖った二等辺三角形の形をしたものが９点と多い。

B：（第20図50～54）：両面全体に二次加工を施すもの。15点出土している。短冊形が多い。

C：（第20図55）：主要剥離面を大きく残すが、縁辺に二次加工を加えたもの。６点出土している。全般に薄手の剥片を用いている。55は末端部の刃部を裏面に施している。

半円状扁平打製石器（第21図56～60、図版６）

32点出土した。いずれも下辺が真っ直ぐで、上辺がアーチ状になるが、左右辺の形状が異なる。基本的には縁辺全周両面に二次加工が施される。左右の辺の形状は大きく４つに分けられる。A：ほぼ真っ直ぐ、B：抉れる、C：丸い、D：上辺のアーチの延長（辺なし）である。欠損のため不明のものもあるが、片辺が抉れるもの（56～58）が多い。また、下辺の刃部が摩滅するものも多い。56は片面に敲打痕がみられる。58は片面にアスファルトが付着している。

磨製石斧（第22図61～63）

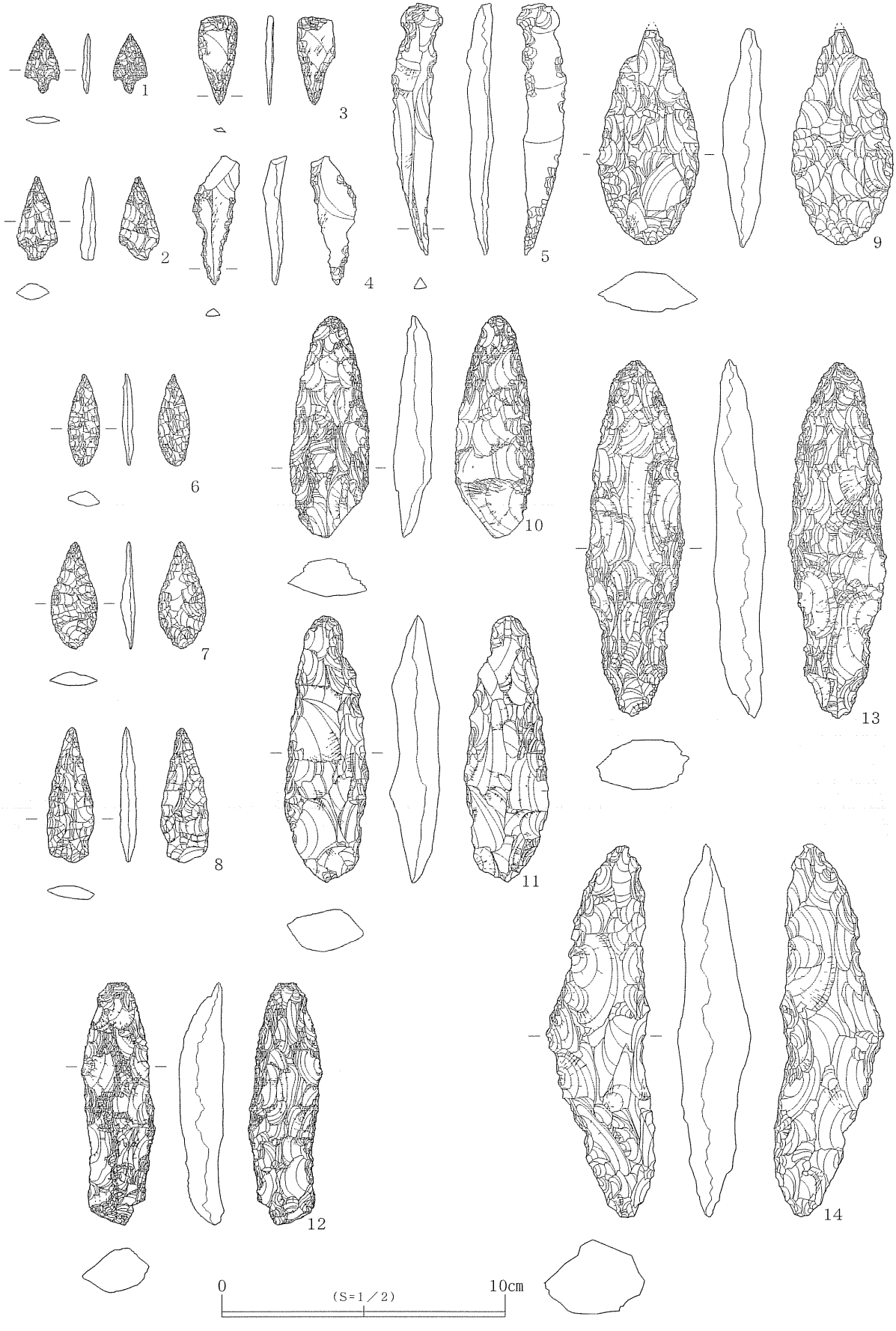
10点出土した。いずれも刃部は丸刃で、器端より刃部が幅広い。

磨石類（第22図64）

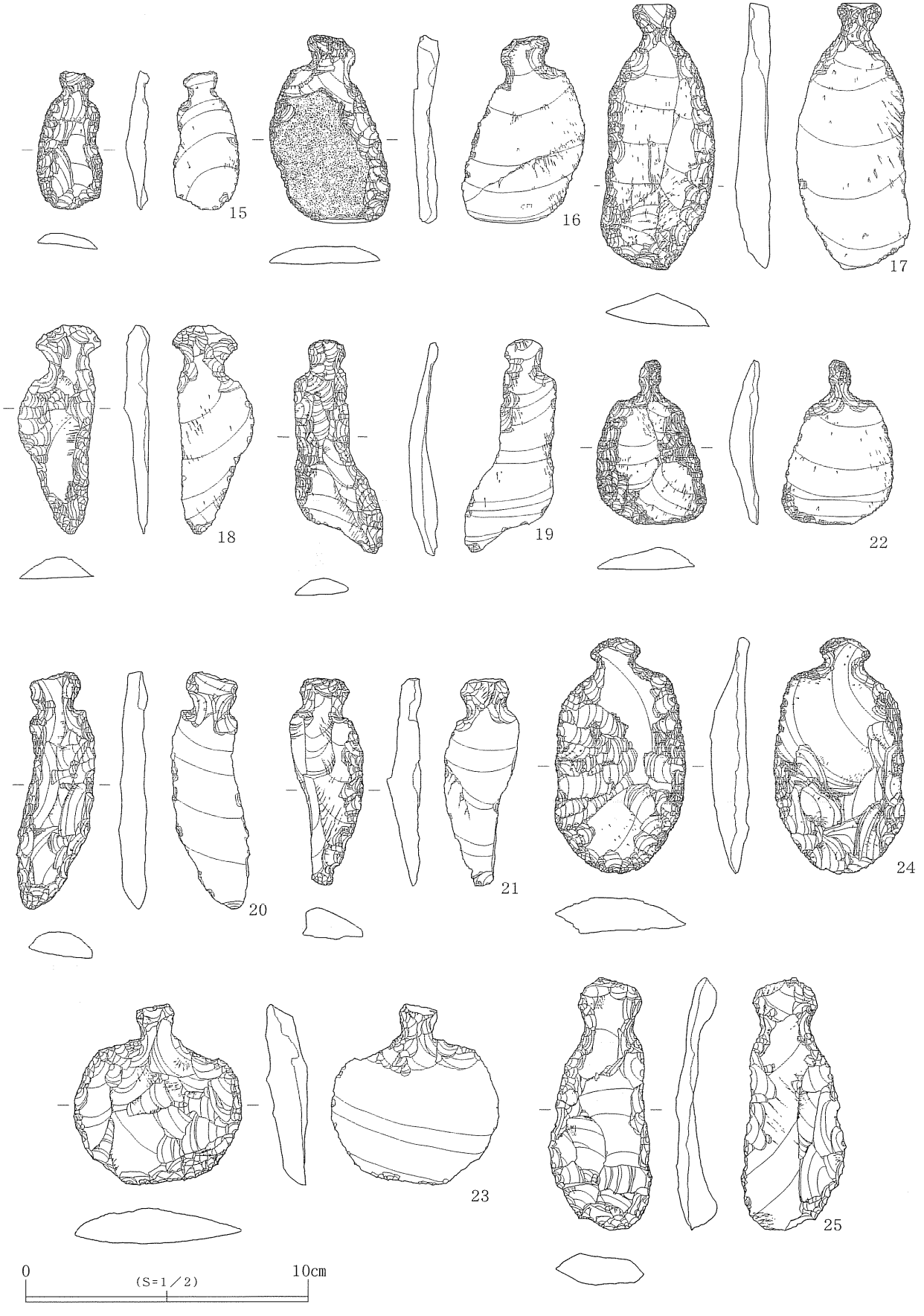
扁平あるいは球状の礫に磨痕・敲打痕がみられるもの。一般に磨石・凹石などと呼ばれるもの。15点出土している。64は敲打痕・磨痕両方がみられる。

石皿（第22図65）

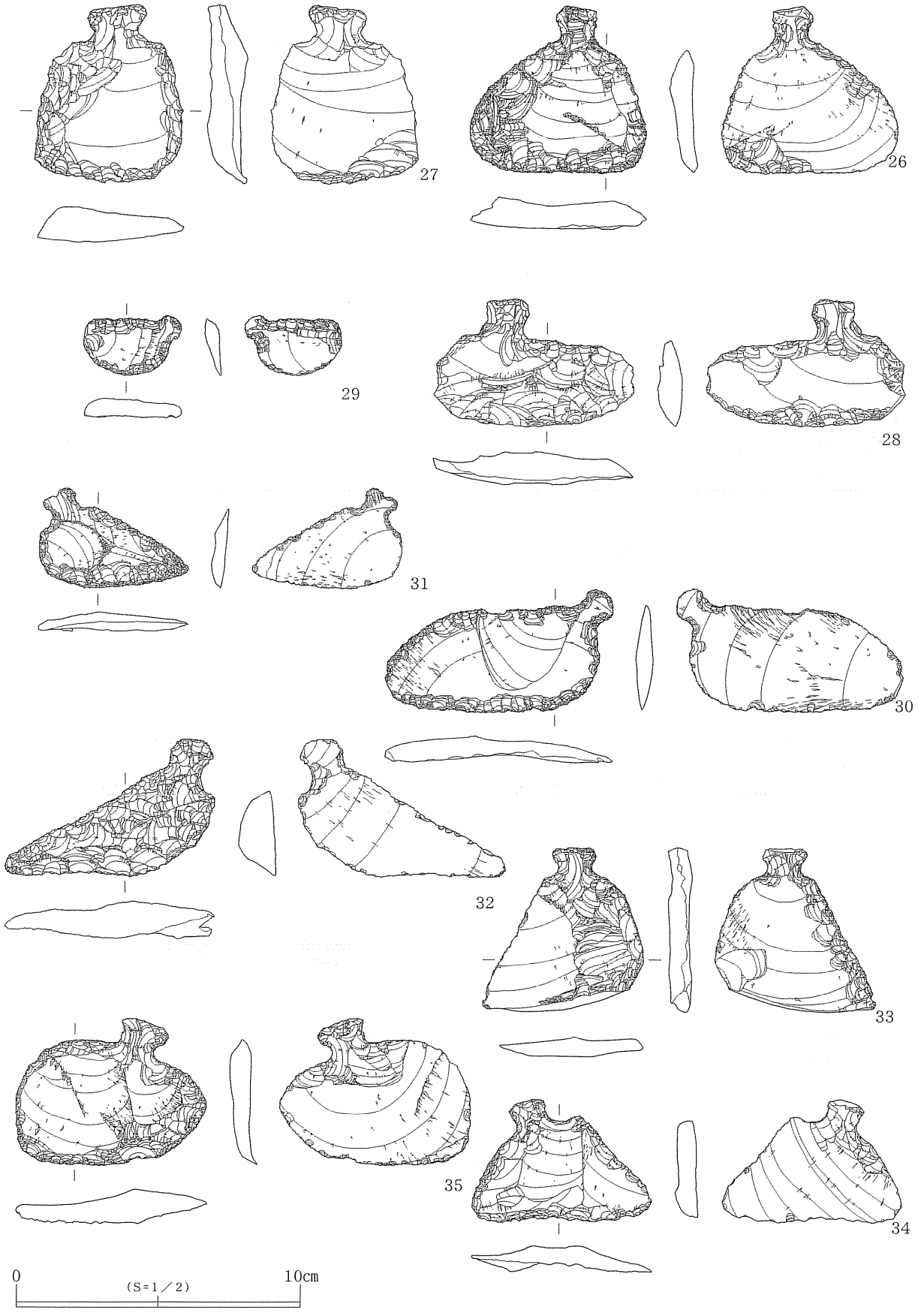
比較的大型扁平の礫の中央部に磨面がみられ、窪むもの。もしくは平坦なものを石皿とした。８点出土している。65は両面に磨痕があり、片面はやや窪んでいるが、もう片面は二次加工時の稜線が残っている。



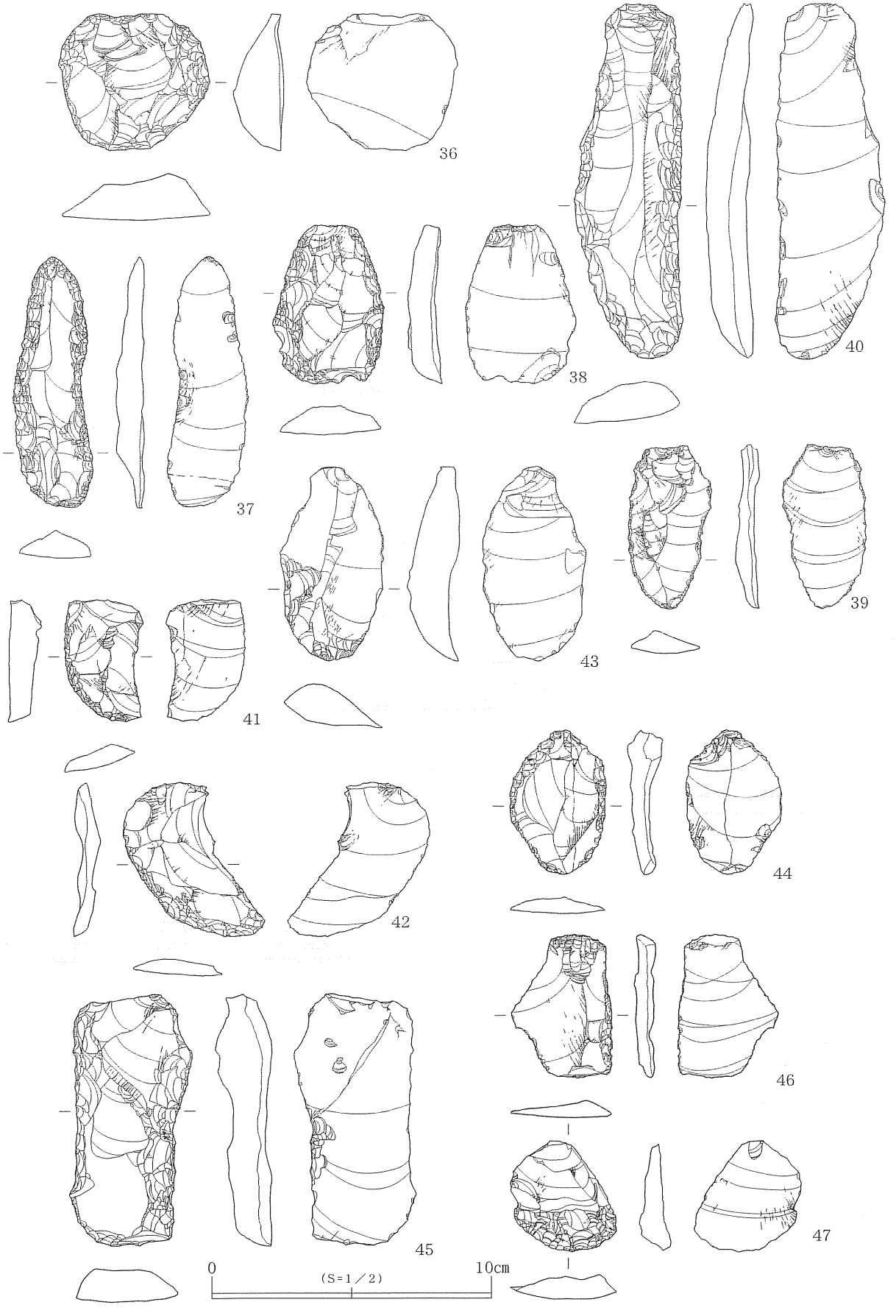
第16図　遺構外出土遺物（５）石器



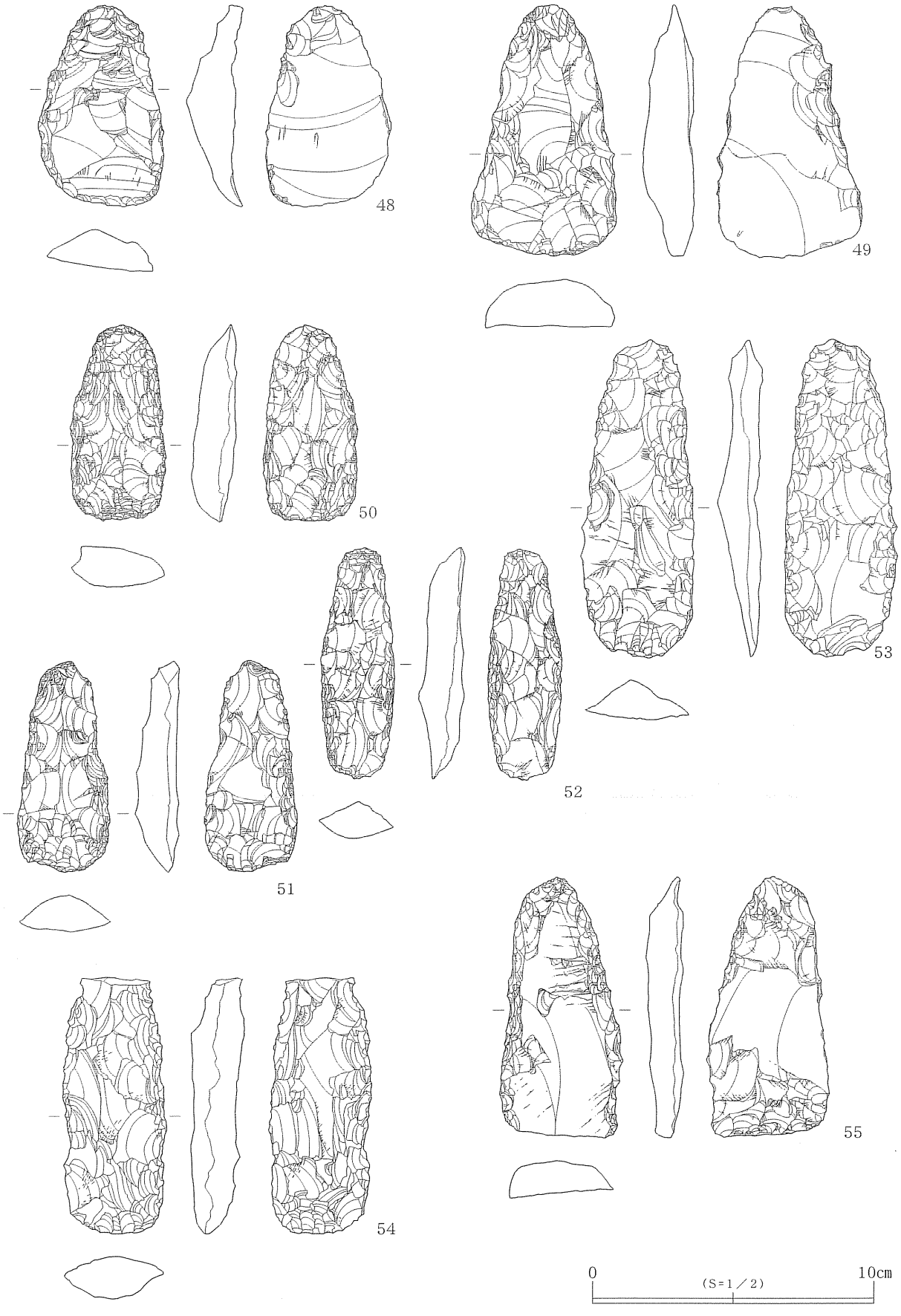
第17図　遺構外出土遺物（6）石器



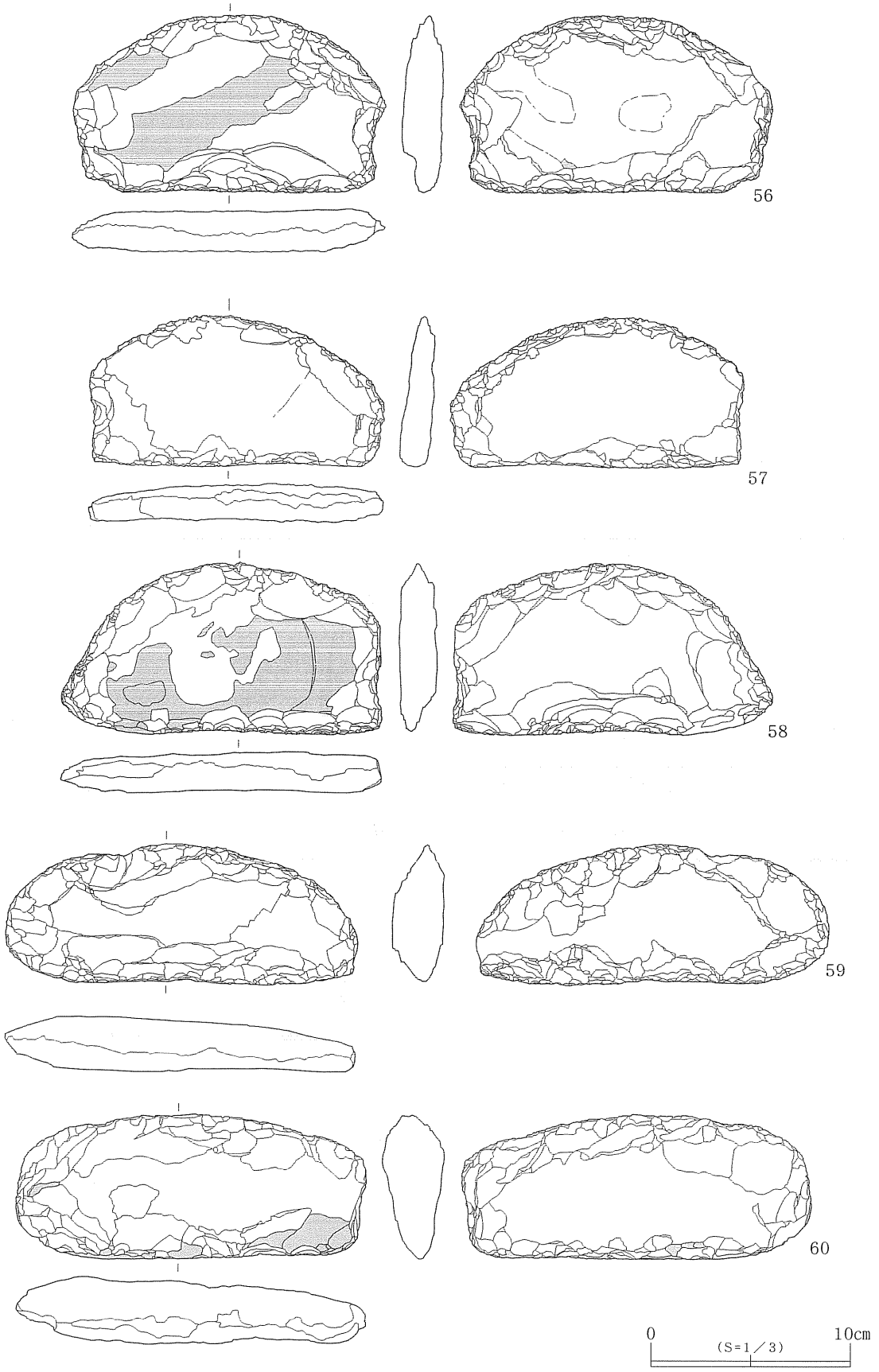
第18図　遺構外出土遺物（７）石器



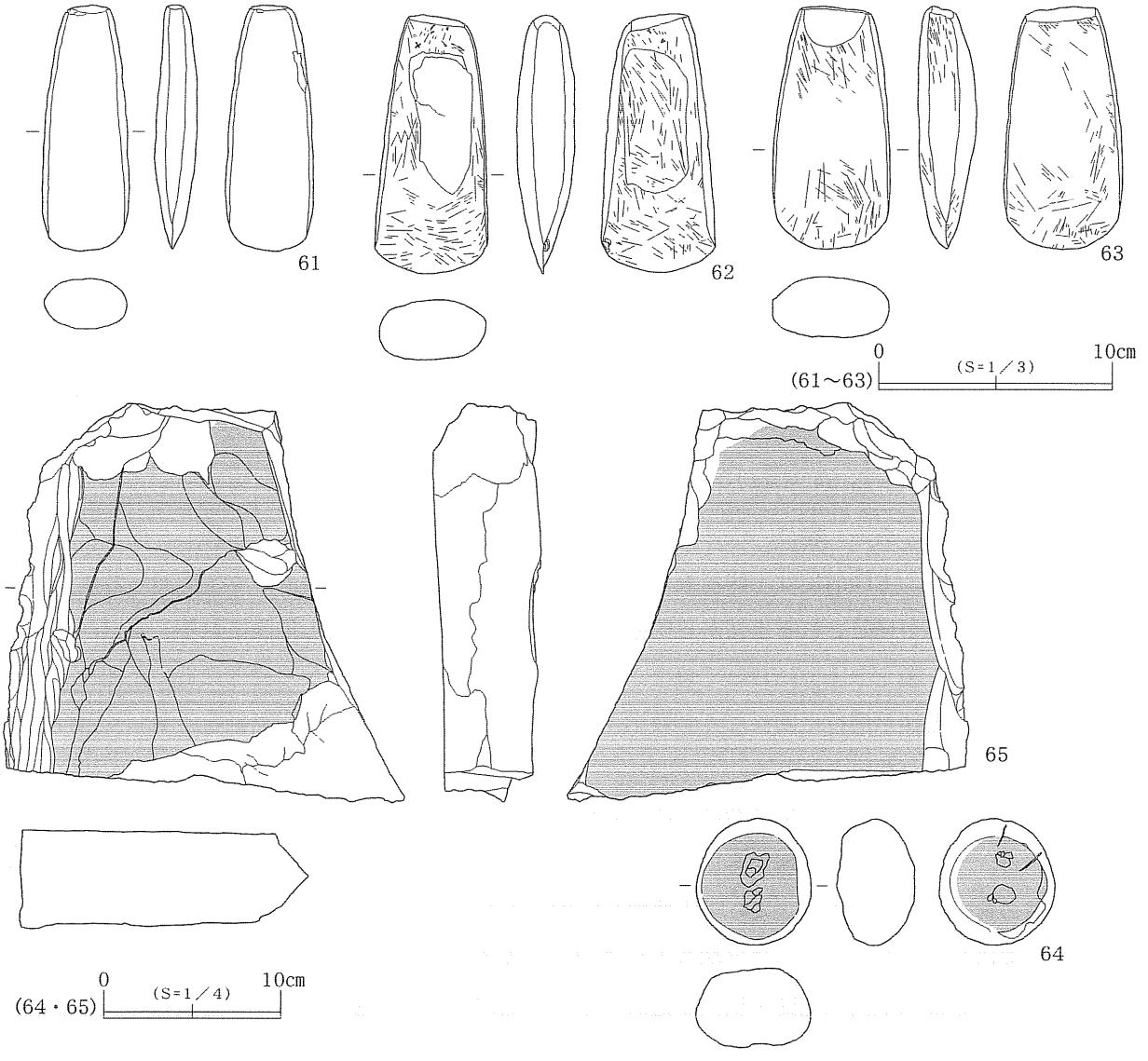
第19図　遺構外出土遺物（8）石器



第20図　遺構外出土遺物（９）石器



第21図　遺構外出土遺物（10）石器



第22図　遺構外出土遺物（11）石器

挿図番号	番号	出土地区	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
16	1	LL37	石鏃	21.0	12.0	2.5	0.6
16	2	MB52	石鏃	29.0	14.5	5.0	1.8
16	3	LL36	石錐	31.0	14.0	3.0	1.2
16	4	LN34	石錐	46.0	16.5	6.0	3.0
16	5	LT53	石錐	89.0	17.0	8.0	8.9
16	6	LL37	石槍	32.5	11.0	4.0	1.4
16	7	LK30	石槍	38.0	17.0	5.0	2.4
16	8	ME65	石槍	46.0	17.0	5.5	4.0
16	9	LJ31	石槍	(76.0)	36.0	15.0	33.2
16	10	LL35	石槍	79.0	28.5	13.5	25.7
16	11	LM35	石槍	95.0	30.0	17.5	41.8
16	12	LJ30	石槍	86.0	26.5	16.0	32.4
16	13	LM34	石槍	127.0	34.5	17.5	67.0
16	14	LL34	石槍	132.0	39.0	21.0	105.2
17	15	LJ30	石匙	49.5	23.0	7.0	6.0
17	16	LK35	石匙	67.0	43.0	7.5	21.3
17	17	LN35	石匙	95.0	41.0	12.0	41.4
17	18	LG24	石匙	74.5	29.0	9.0	13.9
17	19	LM33	石匙	75.5	31.5	9.0	13.1
17	20	LL35	石匙	85.0	27.0	9.5	23.5
17	21	LK30	石匙	74.0	27.0	12.0	16.3
17	22	ME67	石匙	58.0	39.0	8.5	16.8
17	23	表採	石匙	65.0	59.0	14.0	45.5
17	24	LM39	石匙	84.5	46.5	13.0	47.9
17	25	LM38	石匙	90.0	37.0	12.0	38.9
18	26	LL36	石匙	59.0	62.0	10.5	30.5
18	27	LJ31	石匙	64.0	52.0	13.0	41.0
18	28	LM34	石匙	44.5	(70.5)	10.5	24.5
18	29	LM39	石匙	11.0	34.0	6.5	4.2
18	30	LI30	石匙	43.5	(79.5)	7.5	20.6
18	31	LL36	石匙	35.5	53.0	4.5	7.9
18	32	LJ32	石匙	49.0	73.5	12.5	26.3
18	33	LM39	石匙	58.0	56.0	8.0	22.9
18	34	LL37	石匙	43.5	64.0	7.0	16.6
18	35	LK35	石匙	52.0	67.5	12.0	31.8
19	36	LJ31	スクレイパー	49.5	54.5	18.5	48.2
19	37	LO36	スクレイパー	90.0	29.5	11.0	23.2
19	38	LL36	スクレイパー	57.5	39.5	10.5	28.7
19	39	LL34	スクレイパー	58.5	30.0	8.5	12.4
19	40	LL34	スクレイパー	102.5	31.0	12.0	39.2
19	41	表採	スクレイパー	43.5	28.5	11.5	11.6
19	42	LL35	スクレイパー	55.5	51.0	7.5	17.3
19	43	LO36	スクレイパー	56.5	30.0	12.0	14.7
19	44	LI25	スクレイパー	52.0	34.5	12.5	17.7
19	45	LL37	スクレイパー	91.0	44.0	20.5	74.9
19	46	LL36	スクレイパー	52.0	36.0	7.0	11.8
19	47	LM34	スクレイパー	40.0	38.0	10.0	10.4
20	48	LL36	石篦	72.0	45.0	17.5	47.8
20	49	LL38	石篦	89.0	52.0	19.0	83.4
20	50	LJ30	石篦	70.5	35.0	14.5	34.9
20	51	LM38	石篦	75.0	33.5	15.0	35.3
20	52	LK35	石篦	83.0	26.5	16.0	32.2
20	53	LK28	石篦	94.5	33.5	11.0	34.6
20	54	LL35	石篦	(92.0)	36.5	18.5	70.4
20	55	MD70	石篦	93.0	44.0	12.0	59.6
21	56	LM38	半円状扁平打製石器	88.0	156.0	21.0	317.1
21	57	LN34	半円状扁平打製石器	75.0	148.0	18.5	230.4
21	58	LJ31	半円状扁平打製石器	85.5	160.0	19.0	311.1
21	59	LJ31	半円状扁平打製石器	71.5	152.5	27.0	381.0
21	60	LP41	半円状扁平打製石器	73.0	175.0	31.5	505.7
22	61	LJ31	磨製石斧	105.5	37.0	17.5	145.8
22	62	MI54	磨製石斧	111.0	48.5	24.0	222.0
22	63	MH49	磨製石斧	104.0	51.0	25.0	232.1
22	64	LN35	凹石	95.0	87.5	59.0	668.0
22	65	LM38	石皿	304.0	304.5	79.0	8900.0

第３表　遺構外出土石器計測表

第３章　まとめ

桐内沢遺跡における発掘調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡１軒・土器埋設遺構２基・フラスコ状土坑１基、竪穴状遺構１基を検出した。また、遺物では縄文時代前期から後期にかけての土器・石器などが出土した。桐内沢遺跡は縄文時代の小規模な居住地であることが判明した。遺構はすべて中期に属するが、出土した遺物は前期から後期にわたっている。調査区内の大部分で耕地整理のために削平を受けており、本来は当該期の遺構が存在した可能性は否定できない。同じく、検出遺構がすべて遺跡南部のＡ区にあること、また、ほとんどの遺物がこのＡ区の沢部分からの出土であることも同様の理由が考えられる。

桐内沢遺跡において検出した竪穴住居跡は一軒であるが、明瞭な貼床や立石を有する点で、当該地においては稀な例である。特に、この立石は細長い頁岩に部分的に大きな剥離を施し、簡単ではあるが整形をしている。方向的には土器埋設炉の真東に当たり、貼床の土で垂直に立て固められていることから、この住居が構築される当初から明確な意図を持って立てられたと推測される。また、遺構確認の段階、つまり覆土の上位において焼土が検出されたことや、覆土中から完形に近い土器や、石皿や磨石などの石器類が層位に関係なく多数出土していることなどから、住居廃絶後、もしくは廃絶に伴う何らかの行為が想定されうる。

桐内沢遺跡出土の土器は中期前葉のものが最も多く、出土範囲もＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ区と、全体から出土している。次いで後期の土器が多いが、Ａ区沢部分以外ではほとんど見られなかった。その他Ｃ区では前期の遺物が多く、場所により出土遺物の時期が異なるという傾向がある。

桐内沢遺跡の西部対岸の段丘には桐内沢川を挟んで桐内地区の遺跡群が近接して存在する。これら桐内地区の４遺跡（桐内Ａ遺跡・桐内Ｂ遺跡・桐内Ｃ遺跡・桐内Ｄ遺跡）はすでに調査を終了している。桐内Ａ遺跡は縄文時代後期、桐内Ｃ遺跡・桐内Ｄ遺跡は早期末～晩期、桐内Ｂ遺跡は晩期の遺物が出土しており、連続性が看取され、桐内沢遺跡もその連続性の中でとらえられるものと推測される。また、桐内地区で検出した時期の特定できる住居跡は、桐内Ａ遺跡で６軒（中期中葉１・後期後葉５）、桐内Ｃ遺跡（中期中葉１・後期前葉５）、桐内Ｄ遺跡で２軒（中期末葉～後期初頭２）である。桐内沢遺跡において単独で検出した竪穴住居跡は縄文時代中期前葉に帰属し、この一帯で、小規模な居住地が各時期ごとに変化していたと推測される。

参考文献

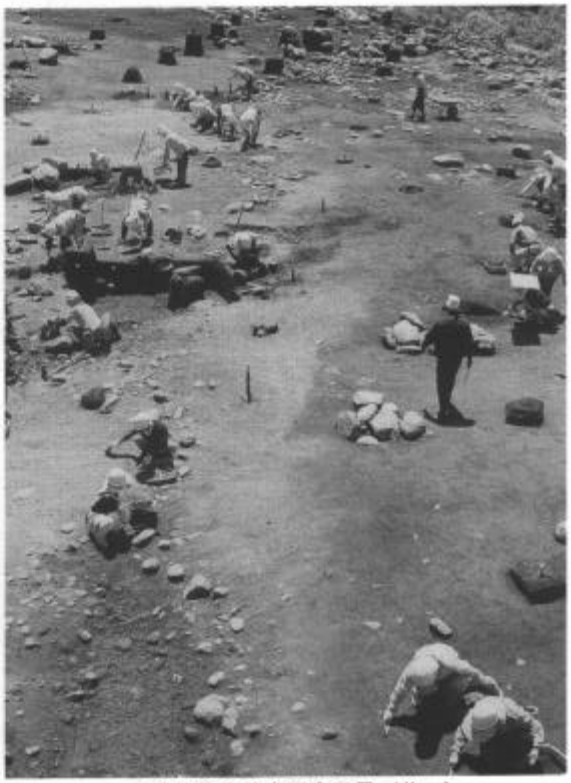
秋田県教育委員会　『桐内Ｂ遺跡・桐内Ｄ遺跡　―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ―』
秋田県文化財調査報告書第318集　2001（平成13）年
秋田県教育委員会　『桐内Ｃ遺跡　―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ―』
秋田県文化財調査報告書第299集　2000（平成12）年
秋田県教育委員会　『姫ヶ岱Ｄ遺跡　―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ―』
秋田県文化財調査報告書第300集　2000（平成12）年
秋田県埋蔵文化財センター　『秋田県埋蔵文化財センター年報18』　2000（平成12）年
秋田県埋蔵文化財センター　『秋田県埋蔵文化財センター年報19』　2001（平成13）年

図版1

桐内沢地区空撮（北→）

遺跡遠景（西→）

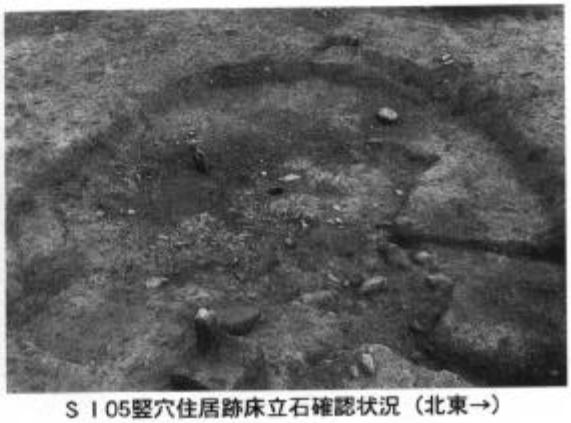
A区近景（南西→）



A区遺物集中地点調査風景（北→）

図版2

基本土層（A区）（南→）



S I 05竪穴住居跡床立石確認状況（北東→）

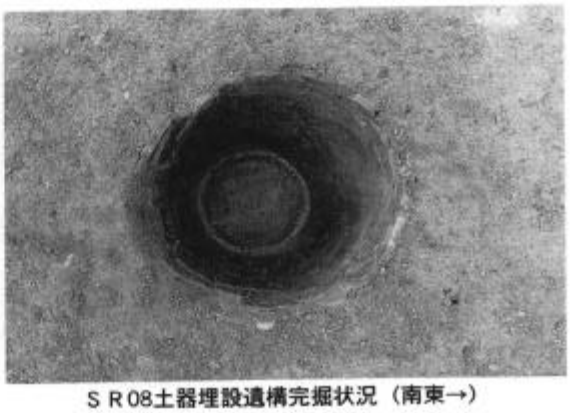
S I 05土器埋設炉完掘状況（南→）

S I 05竪穴住居跡完掘状況（北東→）

SKF07フラスコ状土坑完掘状況（南→）

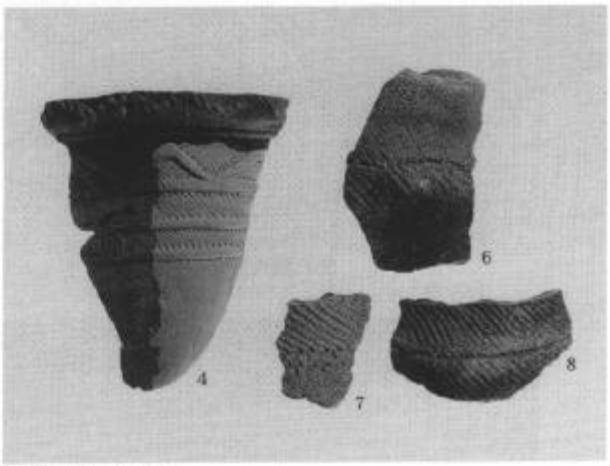
SKI09竪穴状遺構完掘状況（南西→）

SR06土器埋設遺構土層断面（南東→）



SR08土器埋設遺構完掘状況（南東→）

S I 05土器埋設炉炉体土器

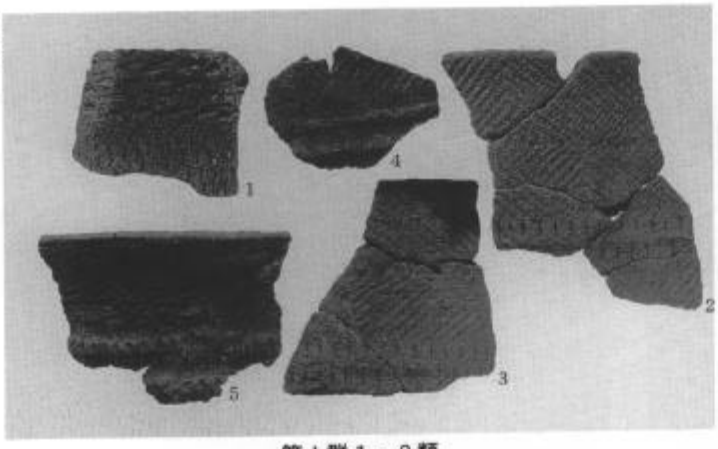


S I 05竪穴住居跡出土土器

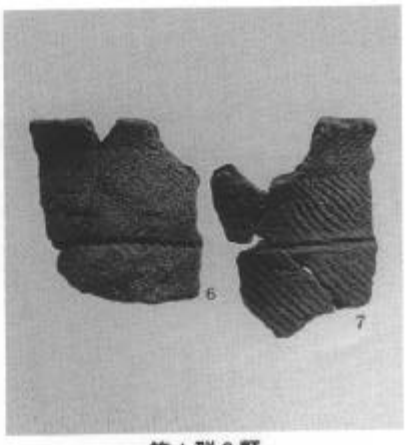
S R 06埋設土器

S R 08埋設土器

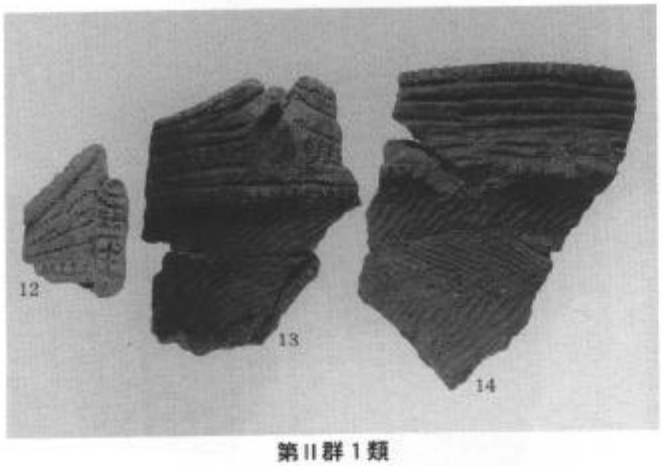
図版4



第Ⅰ群1・2類

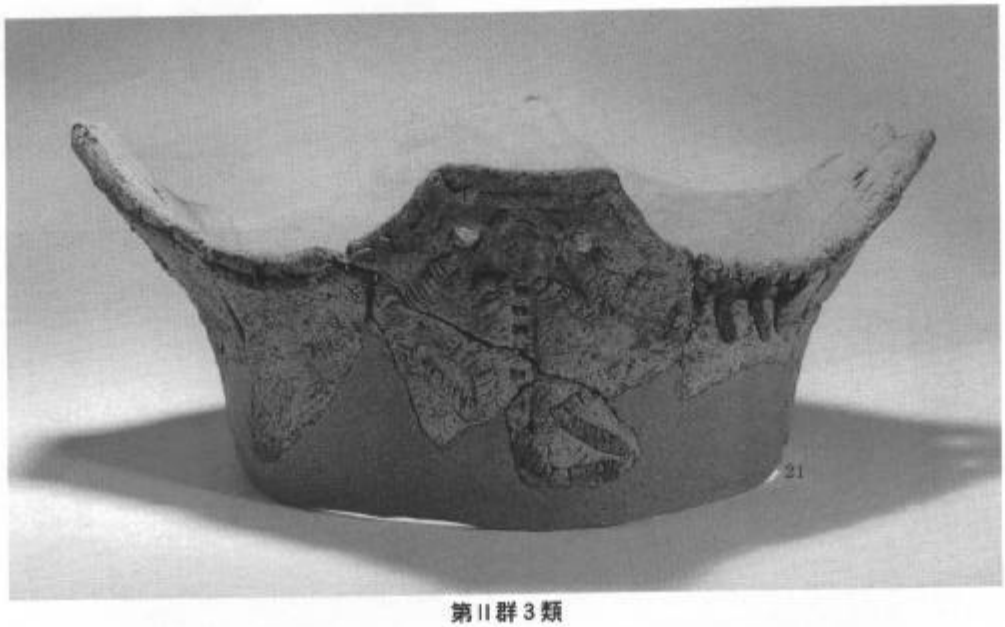


第Ⅰ群3類



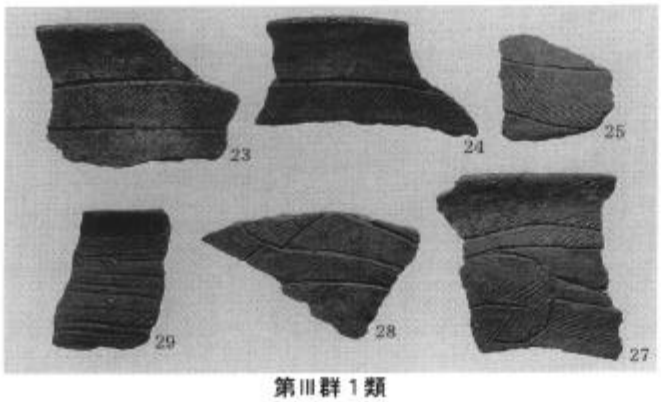
第Ⅱ群1類

第Ⅱ群2類



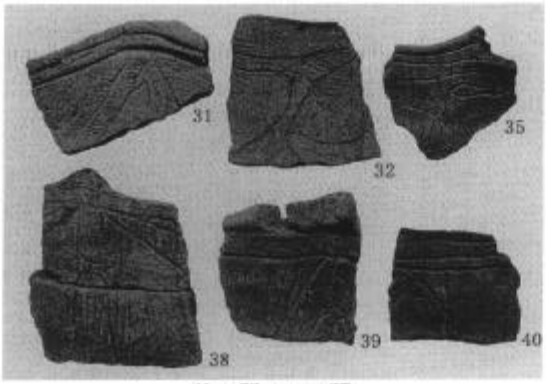
第Ⅱ群3類

遺構外出土土器（1）



第Ⅲ群１類

第Ⅲ群１類



第Ⅲ群２・３類

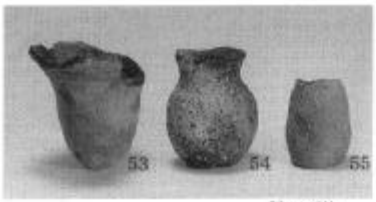
第Ⅲ群１類

第Ⅲ群４類

第Ⅲ群４類

第Ⅲ群５・６類

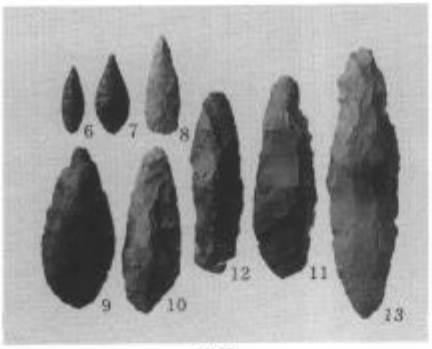
第Ⅲ群４類



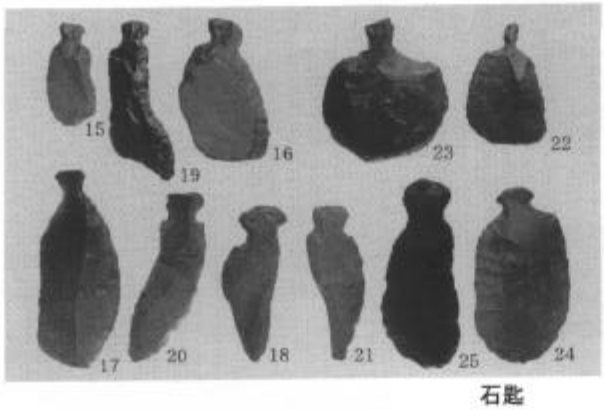
第Ⅳ群

遺構外出土土器（２）

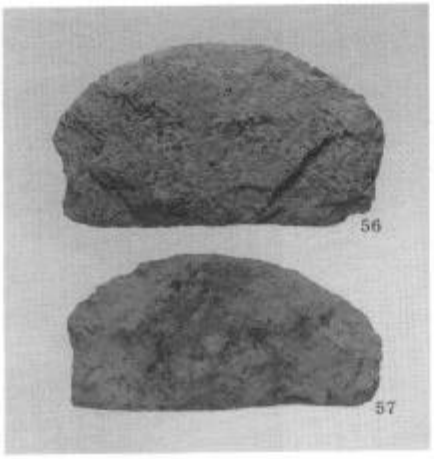
図版6

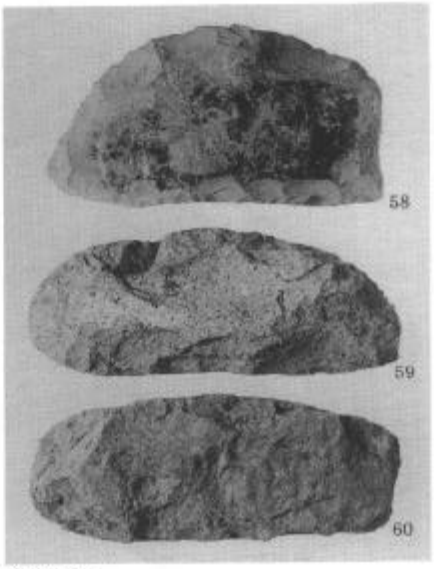


石槍



石匙





半円状扁平打製石器

遺構外出土石器

—— 日廻岱A遺跡 ——
(2HMTA)

第１章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

日廻岱Ａ遺跡は、森吉山北麓を流れる小又川の左岸段丘面上に立地する。遺跡のある段丘面は南北の長さ約540m、東西の幅約140mを測り、北側が高く、南に向かって緩く傾斜している。遺跡はこの段丘面の南西部に位置し、標高は122～127mほどで、小又川に沿った長狭な形となっている。遺跡の現況はほぼ全域が休耕田である。

日廻岱Ａ遺跡については、1995（平成７）年に秋田県教育委員会が、日廻岱Ｂ遺跡と合わせ86,000㎡を対象に確認調査を実施し、工事区域内の調査対象面積を4,100㎡とした。また同年には、1998（平成10）年に開催された第12回日本ジャンボリーに伴う幹線道路造成のため、遺跡にかかる道路予定地について森吉町教育委員会が発掘調査を行っている。

調査区は道路と水路によって４つの地区に分断されていたため、各地区をＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ区と便宜的に呼称している（第25図）。調査はグリッドに沿う形でトレンチを設定し、土層を観察しながら掘り下げを行った。この結果、Ａ・Ｃ区並びにＢ区北半の大部分において、耕地整理の際の掘削が地山まで達していることが判明し、遺物の出土量も少なく、遺構が残存している可能性は低いものと判断し、トレンチ調査のみで精査を完了した。

第２節　調査の方法

１　野外調査

調査はグリッド法で行った。建設省が打設した３級基準点No.１・No.３から、調査区のほぼ中央にあたる位置に、国家座標第Ｘ系の座標値に整合する点（Ｘ＝3,839.000m、Ｙ＝－31,238.000m）を求め、これを原点（ＭＡ50）とし、原点から座標北方向に南北基準線を設け、この基準線に直交する４ｍ×４ｍの方眼を設定した。グリッド杭には東から西に向かって昇順するＡ～Ｔのアルファベット２文字と、南から北に向かって昇順する２桁のアラビア数字を組み合わせた記号を付した。各グリッドの呼称は南東隅の杭の記号を用いた。なお磁北は座標北から西に8°10′00″偏している。

遺構は検出した順に、種別毎の略号と、01からの通し番号を付けた。なお番号を登録した後、遺構と認定できなくなったものについては欠番とした。遺構は原則的に半截もしくは土層観察用のベルトを残して精査を行った。遺物は、遺構内出土のものについては、遺跡名・出土遺構・出土層位・遺物番号・出土年月日を記録し、遺構外出土のものは、遺跡名・出土グリッド・出土層位・出土年月日を記入した耐水性荷札を付けて取り上げた。

調査の記録は主として図面と写真によった。遺構の実測は、グリッド杭を基準とした簡易遣り方測量と、トータルステーションによる機械測量を併用して行った。平面図・断面図ともに基本的には１／20で図化したが、遺物出土状況など微細なものについては１／10で図化した。写真撮影には、35㎜判カメラにモノクロ・リバーサルフィルムを装填し、必要に応じてネガカラーフィルムも使用した。

２　室内整理

遺構については、現場で図化した平面・断面図より第２原図を作成し、これをトレースした。遺物は洗浄・注記の後、土器の接合復元作業を行った。その後報告書に掲載する遺物を選別し、実測図・拓影図の作成に取りかかった。これらの作業の後に遺物の写真撮影を行った。

第３節　調査の経過

発掘調査は、平成12年７月31日から９月14日まで実施した。

第１週（７月31日～８月４日）調査開始。初日は調査事務所周辺の整備と併行して、Ａ区北端から粗掘りを開始した。粗掘りはグリッド杭に沿う形で東西方向のトレンチを２ｍ置きに設定し、土層を観察しながら掘り下げた。トレンチ壁面を観察した結果、Ａ区はほぼ全域において地山まで相当の削平を受けていることが判明した。出土遺物も少く、遺構が検出される見込みが薄いと判断し、Ａ区についてはトレンチ調査のみ行うこととし、この週で精査を完了した。31日、森吉山ダム工事事務所川村調査設計課長・小林専門職来跡。１日、芳賀所長来跡。

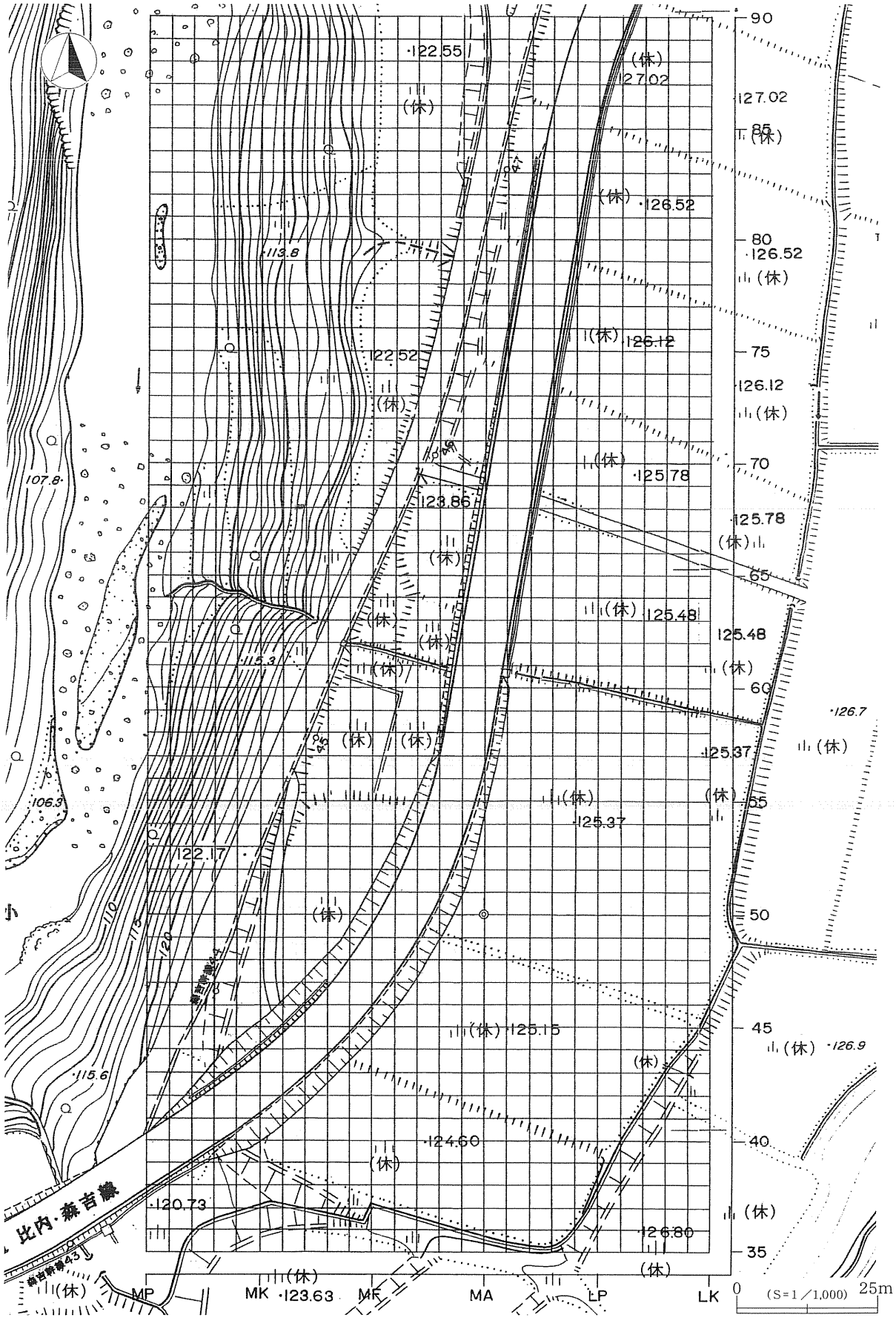
第２週（８月７日～11日）粗掘りをＡ区から水路を挟んで南側のＢ区に移行して進めた。Ｂ区も北側においてはＡ区同様地山までの削平を受けていたが、ＭＡ51グリッド以南では、道路に沿った形で遺物包含層と考えられる黒褐色土が削平を免れ残存していた。この部分について全面を調査対象とし、掘り下げを行ったところ、縄文時代後期の板状土偶や、晩期の浅鉢形土器等が出土した。粗掘りを更に南側に進めていくと、Ｂ区の南端において土坑や柱穴等の遺構数基を確認した。次週よりお盆休みを迎えるため、検出遺構の上にシートを張り、機材の撤収を行った。

第３週（８月21日～25日）調査再開。粗掘りはＢ区から道路を挟んで西側のＤ区に移行し、これと併行してＢ区南東側の遺構確認と精査を続行した。ＭＥ42・43グリッド周辺で黒褐色土を掘り下げたところ、人頭大の礫や縄文時代晩期の土器とともに炭化種実が多量に出土した。これをＳＸ02（性格不明遺構）とし、微細図をとりながら精査を進めた。また調査区南端の沢状地形をなす箇所では、縄文時代後期後葉の土器を主体に、多数の遺物が出土したため、これをＳＴ07（捨て場）とし、遺物の取り上げを開始した。24日、（株）パリノ・サーヴェイ辻本氏・千葉氏来跡。

第４週（８月28日～９月１日）Ｄ区の粗掘りと遺構確認作業、Ｂ区南側の遺構精査を継続して行った。Ｄ区は地山まで削平された箇所が少なく、遺物も縄文時代前期と後期の土器を中心に一定量出土していたため、全面を対象として精査を進めたが、遺構は確認されなかった。Ｂ区南側の遺構精査では、ＳＫ06から赤色塗彩の施された晩期の壺形土器が出土した。

第５週（９月４日～８日）粗掘りはＤ区からＣ区に移り、５本のトレンチ掘削を行った。Ｃ区では削平が地山深くまで及んでおり、トレンチ調査にて精査を完了した。Ｂ区の遺構はピット群の精査を中心に行い、これらの一部は掘立柱建物跡２棟を構成することが確認された。５日、縣北新聞豊村記者と秋田魁新報社安藤記者来跡、日廻岱Ａ遺跡についての取材を受ける。８日、秋北新聞社工藤記者、芳賀所長来跡。この週から作業員の一部を向様田Ａ遺跡に移した。

第６週（９月11日～14日）作業員の大半を向様田Ａ遺跡に移した。残る遺構の精査を完了し、調査を終了した。



第23図　グリッド設定図

第２章　調査の記録

第１節　基本層位

前章で述べたとおり調査区の大部分は耕地整理の際に地山まで削平を受けている。基本層位はこの削平が地山まで及ばないＢ区の南側において、45ラインに設定したトレンチの壁面を観察し、以下のとおり分層した（第24図）。なお遺構はその大部分をⅣ層上面で確認した。

Ⅰ層　表土。暗褐色を基調とするⅠａ層と、灰黄褐色を基調とするⅠｂ層に細分される。Ⅰａ層は地山土を主体とする盛土で、近年の道路造成に伴うものと判断する。Ⅰｂ層は水田耕作土であり、直下層との層界には鉄分の沈着が顕著である。

Ⅱ層　遺物包含層。黒褐色を基調とし、粘性や硬度、混在する炭化物の多寡等からⅡａ層・Ⅱｂ層・Ⅱｃ層に細分する。ただし本層の細分から、遺物の時期差等を捉えることはできなかった。

Ⅲ層　地山漸移層。暗褐色を基調とする。Ⅲａ層・Ⅲｂ層に細分される。

Ⅳ層　地山。褐色を基調とするシルト～細砂質土である。

第２節　検出遺構と出土遺物

１　概要

先述したとおり調査区は道路と水路によって４つの地区に分断されているが、このうち遺構を検出したのはＢ区のみであり、なおかつその分布域は南端に限られている。ただしこの遺構分布域から外れた地区、特にＡ区・Ｂ区の北半・Ｃ区では耕地整理の削平が地山まで及んでおり、本来存在した遺構が消滅した可能性を否定できない。今回の調査で確認した遺構の分布域は、遺跡の中でも比較的低位に位置しており、耕地整理の影響が少なかったものと推定する。

検出した遺構は、掘立柱建物跡２棟、柱穴様ピット40基、焼土遺構１基、土坑５基、溝跡１条である（第25図）。これらの遺構のうち所属時期の明確なものは、縄文時代晩期の焼土遺構１基と土坑１基、近世の掘立柱建物跡２棟であり、この他の柱穴様ピット・土坑・溝跡は所属時期が明確でない。なお検出遺構のうち掘立柱建物跡・焼土遺構・土坑・溝跡については種別毎の一覧を第４表に示し、柱穴様ピットの一覧は別掲の第９表に示した。

２　縄文時代

（１）焼土遺構

ＳＮ02焼土遺構（第26～30図、第5～7表、図版７・10）

ＭＥ42・43グリッドにおいてⅡ層掘り下げ中に、20～30cm大の礫とともに縄文時代晩期土器等の遺物が集中して出土した。さらに掘り下げを行ったところ焼土を確認し、これを単独の焼土遺構と判断した。他遺構との切り合い関係はないが、本遺構の東側に倒木痕を確認した。

焼土は地山漸移層であるⅢａ層の上部に形成され、長径0.46m、短径0.24mの楕円形平面をなし、厚さは最大で６㎝を測る。焼土検出面より上位の土は黒褐色を基調とし、径５㎝未満の炭化物や、径１～２㎝ほどの炭化種実を多く含む。この炭化種実は外見上の特徴からクリの炭化子葉と判断するもので、本遺構周辺において完形の例に限っても2,001.9ｇに相当する1,953点が出土した。このような炭化種実を特徴的に含む土は、焼土を中心とする直径約３ｍの略円形の範囲に広がっていた。

炭化物及び炭化種実の散布範囲とほぼ重なる範囲において、晩期の深鉢形土器２点、台付鉢形土器１点、浅鉢形土器１点のほか、詳細の不明な縄文土器小破片60点、石器は、微細剥離痕のある剥片（Ｕ．Ｆ.）１点、石核１点、剥片11点、砕片２点、敲磨器類２点、石皿１点、礫54点が出土した。これらの遺物は、特に焼土の周囲で出土した土器の接合状況から、おおよそ埋没直後の状態を保っていると判断され、概ね本遺構に伴うものと考える。図示した土器の中でも浅鉢形土器（第27図４）は、半肉彫的手法による雲形文や口縁部の列点文の表出から、大洞Ｃ$_1$式に比定可能であろう。同じく台付鉢形土器と深鉢形土器（１～３）もほぼ同時期の所産と考える。出土した50点の礫のうち、半数以上にあたる34点に被熱の痕跡を認めた。これらの被熱した礫の中でも、特に被熱の程度が強いものは、焼土に近い位置に分布する。大形の礫は本来焼土の周囲にあって、掘り込みは伴わないものの簡略に組まれていたと推定する。なお出土石器のうち石皿（第30図15）は、遺跡全体でも２点しか出土しておらず、敲磨器類（第29図10・11）とともに、本遺構の性格に関わる遺物と考える。

本遺構は精査開始当初竪穴住居跡である可能性も考慮していたが、焼土検出面に前後したレベルで明瞭な床面を確認し得なかったこと、同様に壁面を確認し得なかったこと、さらに焼土周辺で柱穴が未検出であることから、竪穴住居跡であると断定できない。よって現段階では、地山漸移層まで到達する程度のごく浅い掘り窪みの上に形成された単独の焼土遺構と判断する。ただし周辺に分布する礫の被熱した状況を考慮すると、周囲に簡略な石組みを伴っていた可能性もある。本遺構の時期は焼土の周辺から出土した土器から、ほぼ大洞Ｃ$_1$式期に帰属すると考える。

（２）土坑

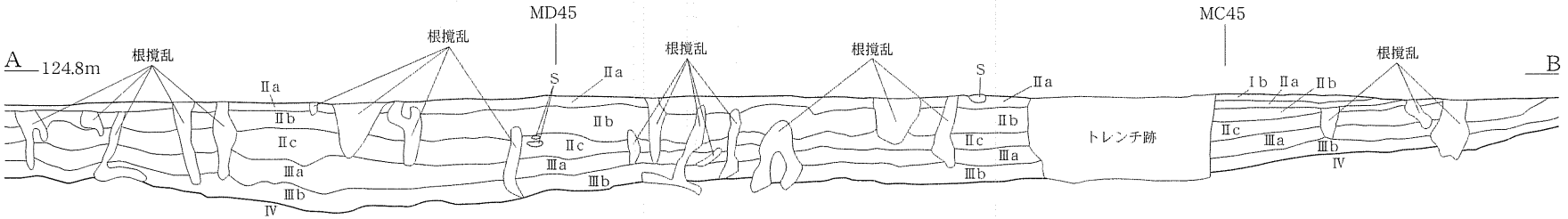
ＳＫ06土坑（第26～30図、第5～7表、図版７・10）

ＭＤ43グリッドに位置し、地山上面で確認した。長径2.06m、短径1.92mの円形平面をなし、確認面から底面までの深さは約0.70mを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、開口部に向かって緩やかに外傾し、断面形は椀状を呈す。覆土は全体に炭化物と地山土粒を少量含むが、覆土中位には地山に由来する暗褐色土の堆積が顕著であり、人為堆積を示すものと判断する。

覆土からは晩期の壺形土器１点のほか、詳細不明な縄文土器小破片52点、石器は剥片10点・砕片１点・不定形石器２点・敲磨器類３点・礫器２点・礫39点が出土した。壺形土器（第27図５）は本遺構の下位から出土している。全体に赤色塗彩が施され、頸部には２本の隆帯と一体となったＢ字状突起が３単位で付く。大洞Ｃ$_1$式に比定可能であろう。礫は主として本遺構の南西側に平面的な分布をもち、底面から下位にかけて出土した。礫とともに、敲磨器類（第29図12～14）や礫器（第30図16・17）もあり、扁平な礫の一端に刃部を設るこの種の礫器は本遺構からの出土に限られる。これらの壺形土器や礫及び礫石器類は、葬送儀礼に関わる遺物群であると判断する。

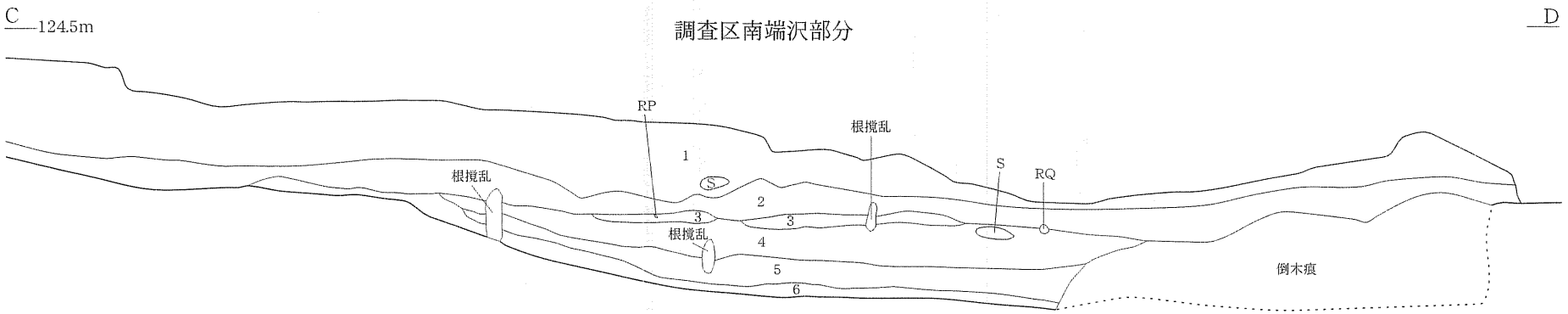
本遺構は、覆土の堆積状況及び出土遺物から、大洞Ｃ$_1$式期に帰属する土坑墓であると考える。

基本土層



Ⅰa層　10YR3/3暗褐色土　しまり強　粘性弱　シルト～細砂質
　　Ⅰb層との層界は明瞭
Ⅰb層　10YR4/2灰黄褐色土　しまりやや強　粘性普通　シルト質
　　Ⅱa層との層界は明瞭
Ⅱa層　10YR2/2黒褐色土　しまりやや強　粘性やや強　シルト質
　　炭化物(径2～5mm)5%混入　Ⅱb層との層界は不明瞭
Ⅱb層　10YR2/2黒褐色土　しまりやや強　粘性やや強　シルト質
　　炭化物粒(径1～2mm)3%混入　Ⅱc層との層界は比較的明瞭
Ⅱc層　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　　炭化物粒(径1～2mm)1%混入　Ⅲa層との層界は不明瞭
Ⅲa層　10YR3/3暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　　Ⅲb層との層界は不明瞭
Ⅲb層　10YR3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　シルト質
　　Ⅳ層との層界は不明瞭
Ⅳ層　10YR4/4褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　シルト～細砂質

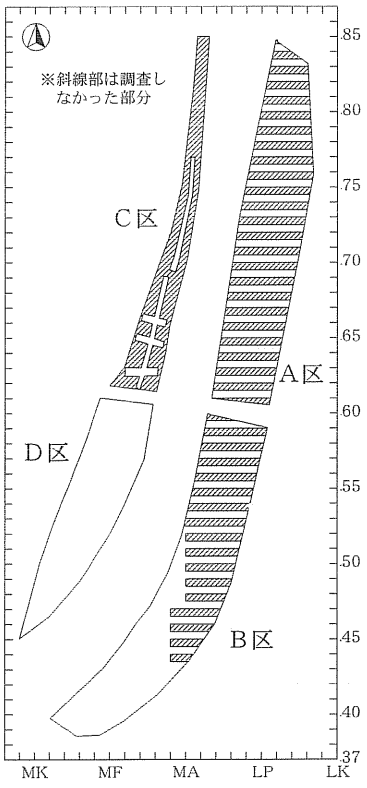
調査区南端沢部分



1　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　　炭化物(径1mm)5%混入　基本土層Ⅰa層に対応
2　10YR3/3暗褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト質
　　炭化物(径1～5mm)15%混入　基本土層Ⅰb層に対応
3　10YR2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト質
　　炭化物(径1～10mm)3%混入
4　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性強　シルト質
　　炭化物(径1～5mm)20%、地山土粒(径1～5mm)5%混入
5　10YR2/2黒褐色土　しまり普通　粘性強　シルト質
　　炭化物(径1～7mm)5%、地山土粒(径1～5mm)3%混入
6　10YR3/3暗褐色土　しまりやや強　粘性強　シルト質
　　基本土層Ⅲ層に対応

0　(S=1／40)　2m

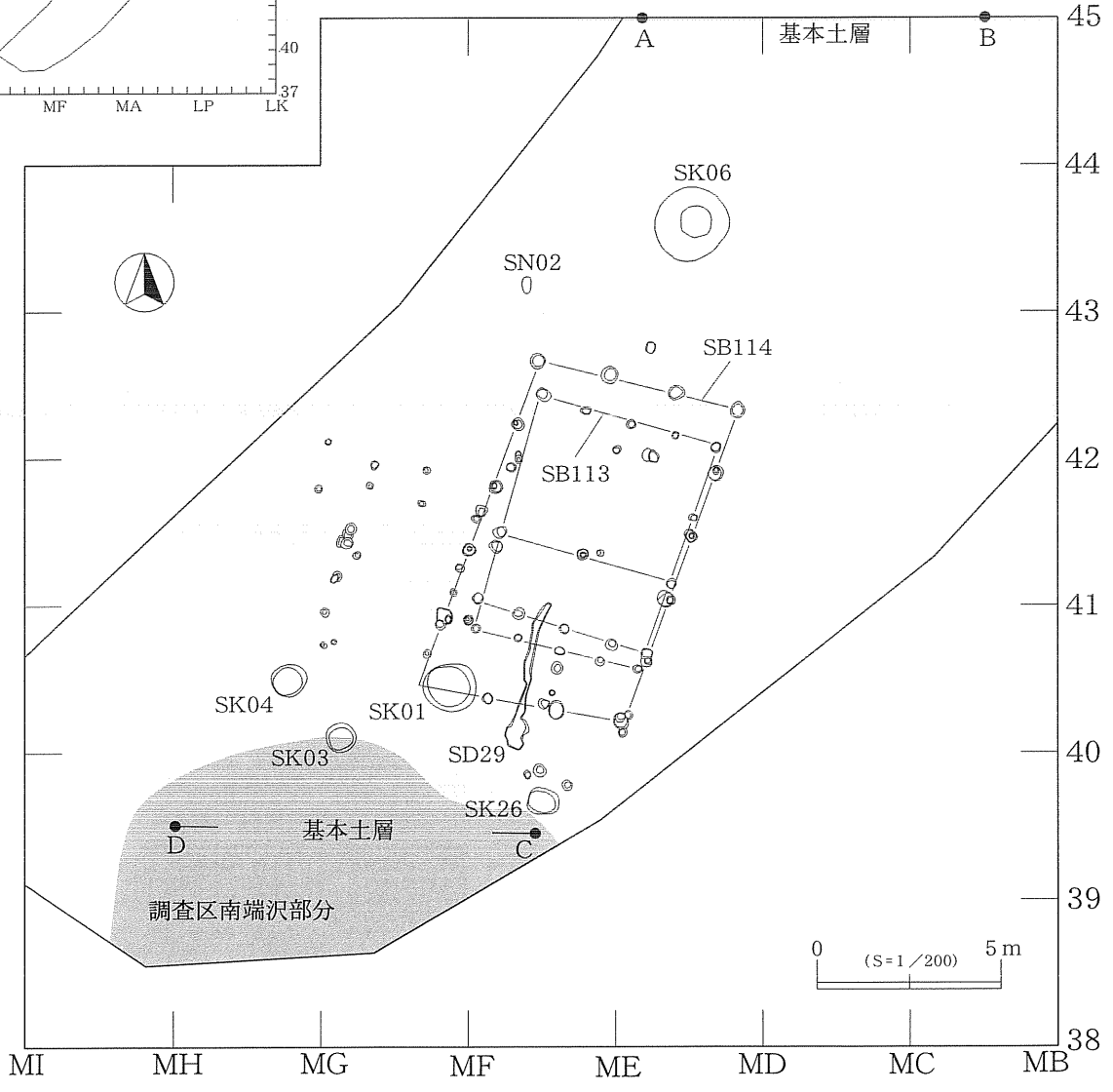
第24図　基本土層図



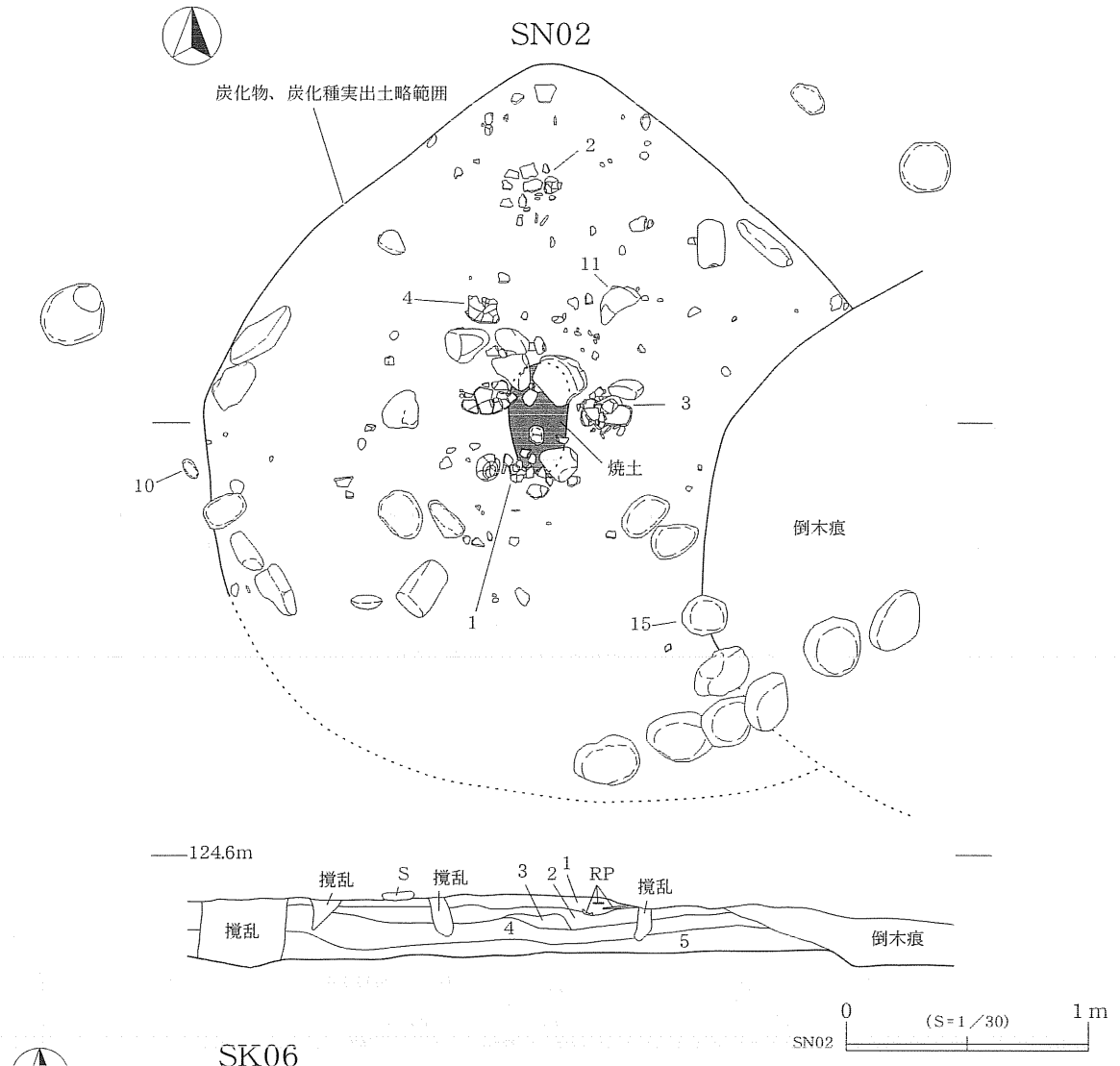
第４表　検出遺構一覧

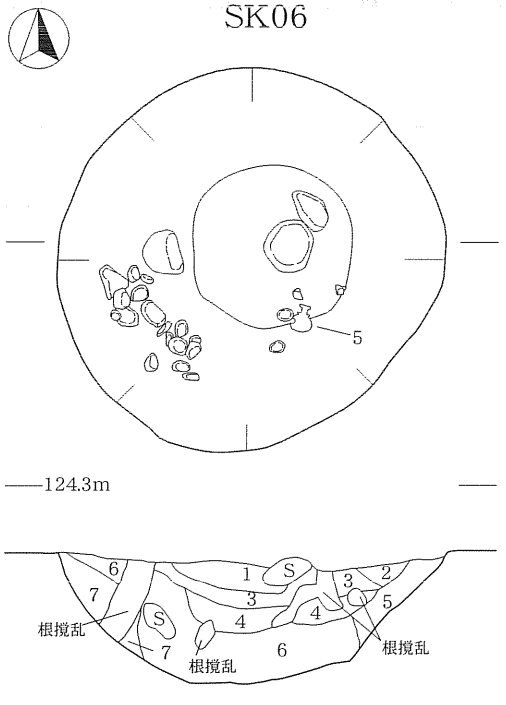
掘立柱建物跡（２棟）				
記号	番号	グリッド位置	時代	挿図番号
ＳＢ	113	ＭＤ40・41・42、ＭＥ40・41・42	近世	31～33
ＳＢ	114	ＭＤ40・41・42、ＭＥ40・41・42 ＭＦ40・41	近世	34～36
焼土遺構（１基）				
記号	番号	グリッド位置	時代	挿図番号
ＳＮ	02	ＭＥ42・43	縄文時代	26
土坑（５基）				
記号	番号	グリッド位置	時代	挿図番号
ＳＫ	01	ＭＥ・ＭＦ40	不明	37
ＳＫ	03	ＭＦ40	不明	37
ＳＫ	04	ＭＧ40	不明	37
ＳＫ	06	ＭＤ43	縄文時代	26
ＳＫ	26	ＭＥ39	不明	37
溝跡（１条）				
記号	番号	グリッド位置	時代	挿図番号
ＳＤ	29	ＭＥ40・41	不明	37

※番号の05・07・09・12・13・17～24・30～34・37・41・45～47・50～55・57～59・61・62・64～67・70～83・91・97～101・103～106・110～112は欠番



第25図　調査範囲・遺構配置図



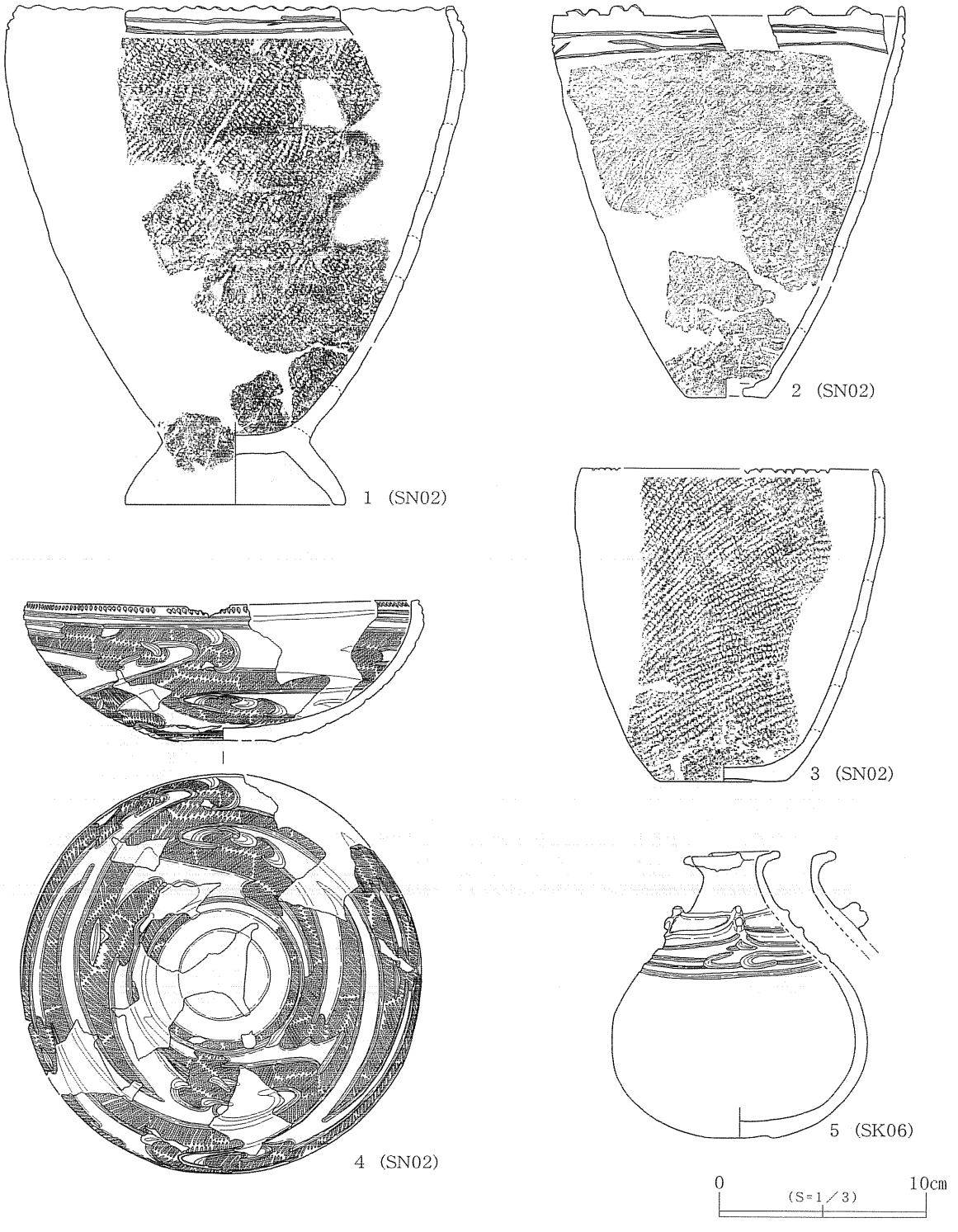


SN02
1　10YR2/1黒色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　炭化物(径1～20mm)7%、炭化種実10%、地山土粒(径1～3mm)3%混入
2　10YR2/2黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　炭化物(径1～10mm)5%、炭化種実5%、地山土粒(径1～10mm)5%混入
3　5YR3/4暗赤褐色土　しまり強　粘性弱　シルト質
　4層が焼土化したもの
4　10YR3/3暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　基本土層のⅢa層に対応する地山漸移層
5　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　基本土層のⅢb層に対応する地山漸移層

SK06
1　10YR2/2黒褐色土　しまり普通　粘性強　シルト質
　炭化物(径1～2mm)5%混入
2　10YR2/2黒褐色土　しまり強　粘性強　シルト質
　炭化物(径1～3mm)3%、地山土粒(径1～2mm)1%混入
3　10YR3/3暗褐色土　しまり弱　粘性強　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1～2mm)3%混入
4　10YR2/2黒褐色土　しまり普通　粘性強　シルト質
　炭化物(径1～2mm)2%、地山土粒(径1mm)1%混入
5　10YR2/2黒褐色土　しまり弱　粘性強　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土塊(径10～20mm)40%混入
6　10YR2/3黒褐色土　しまり強　粘性強　シルト質
　炭化物(径1mm)3%混入
7　10YR3/4暗褐色土　しまり弱　粘性強　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土塊(径5～10mm)15%混入

0　(S=1／40)　1m
SK06

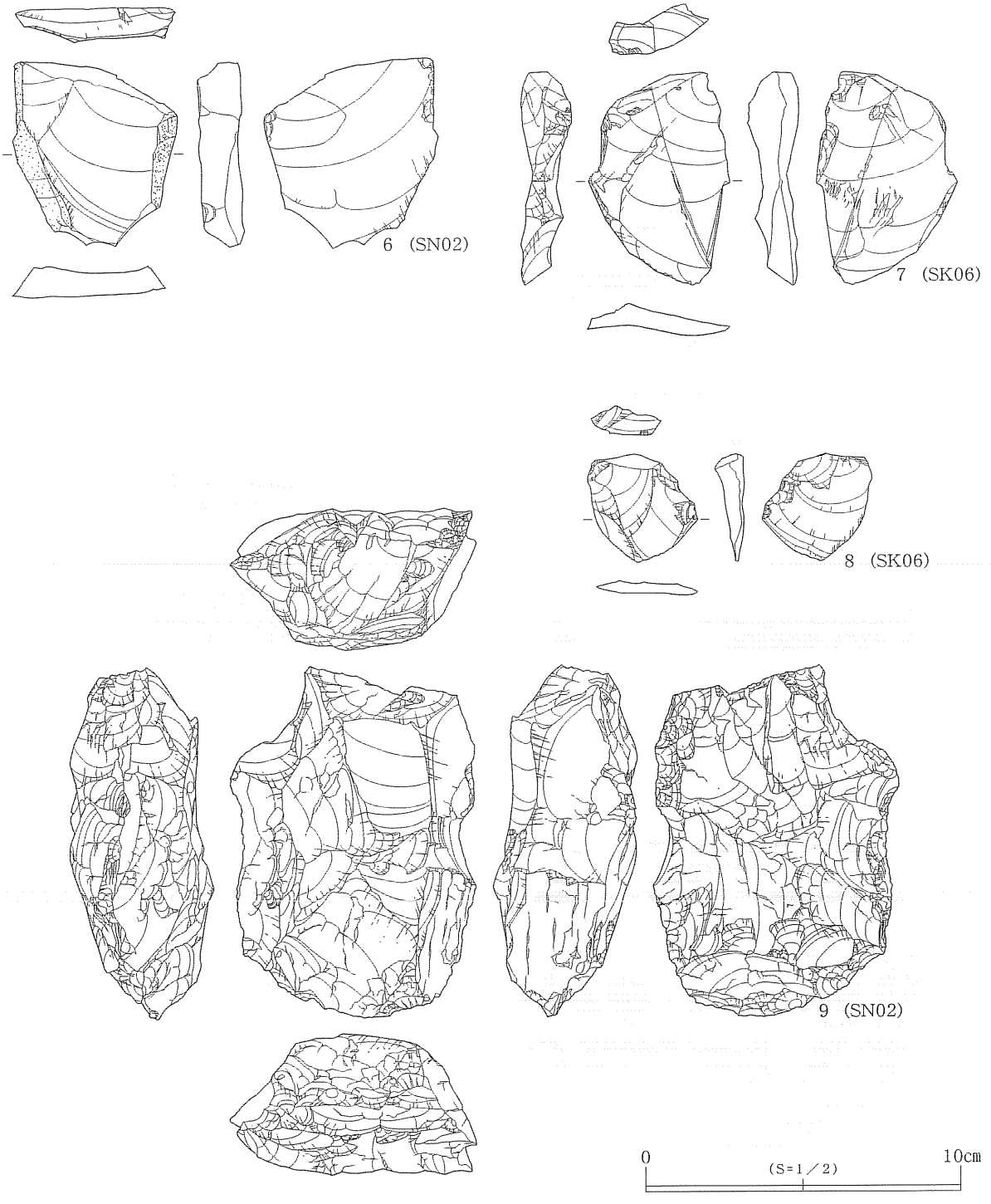
第26図　ＳＮ02焼土遺構・ＳＫ06土坑



第27図　遺構内出土土器

第５表　遺構内出土土器観察表

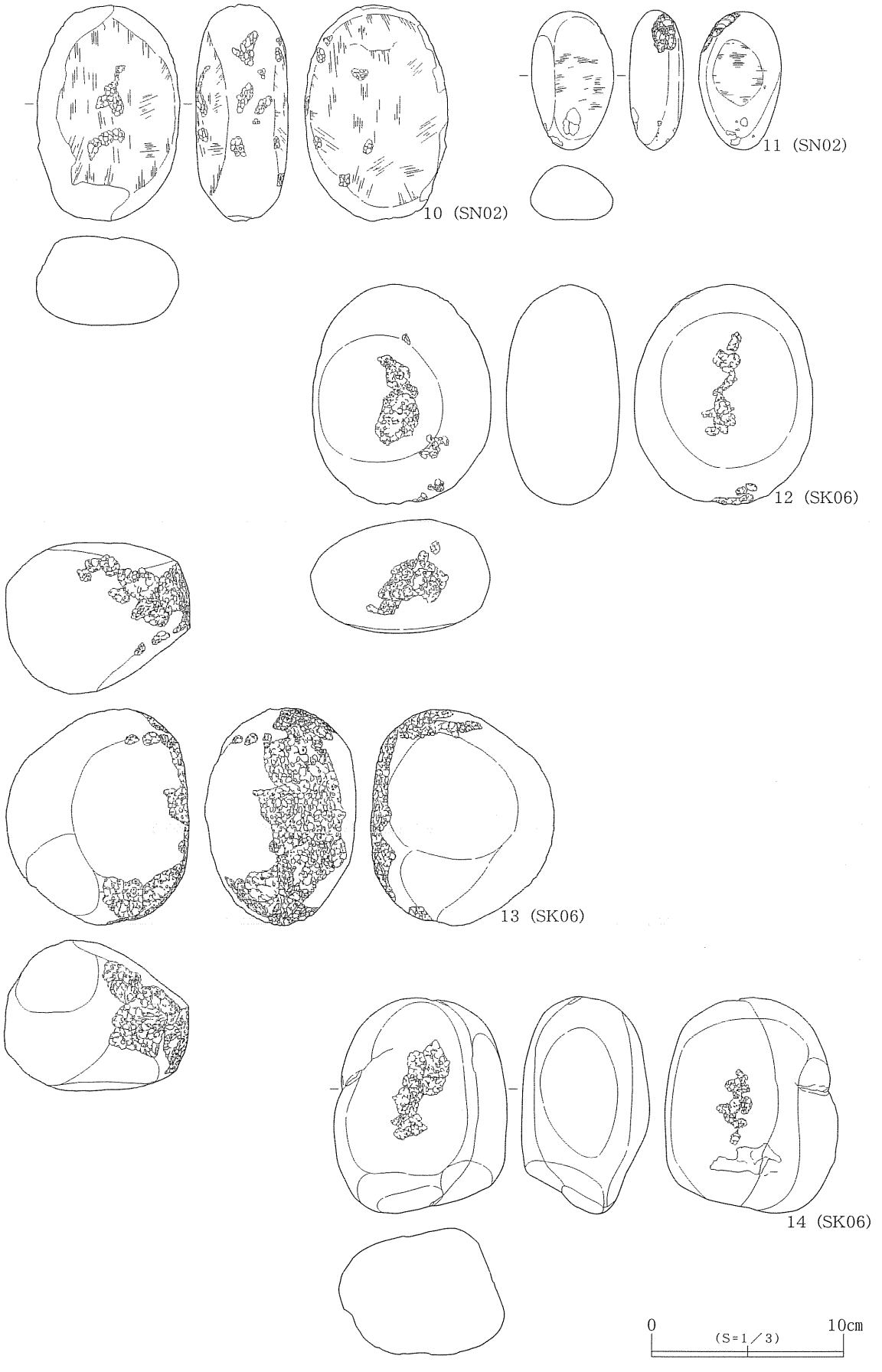
番号	出土遺構	器形	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	文様等の特徴
1	SN02	台付鉢	(210)	106	(241)	小波状口縁、口縁部：平行沈線、胴部：縄文(ＬＲ横)
2	SN02	深鉢	(170)	(40)	(190)	口唇部：Ｂ字状突起・Ａ字状突起、口縁部：平行沈線、胴部：縄文(ＬＬ横)
3	SN02	深鉢	143	60	151	口唇部：刻み、胴部：縄文(ＬＲ横)
4	SN02	浅鉢	188	46	69	口縁部：列点文・平行沈線、胴部：縄文(ＬＲ横)→磨消雲形文
5	SK06	壺	46	30	139	頸部：隆帯・Ｂ字状突起・平行沈線、外面：赤色塗彩



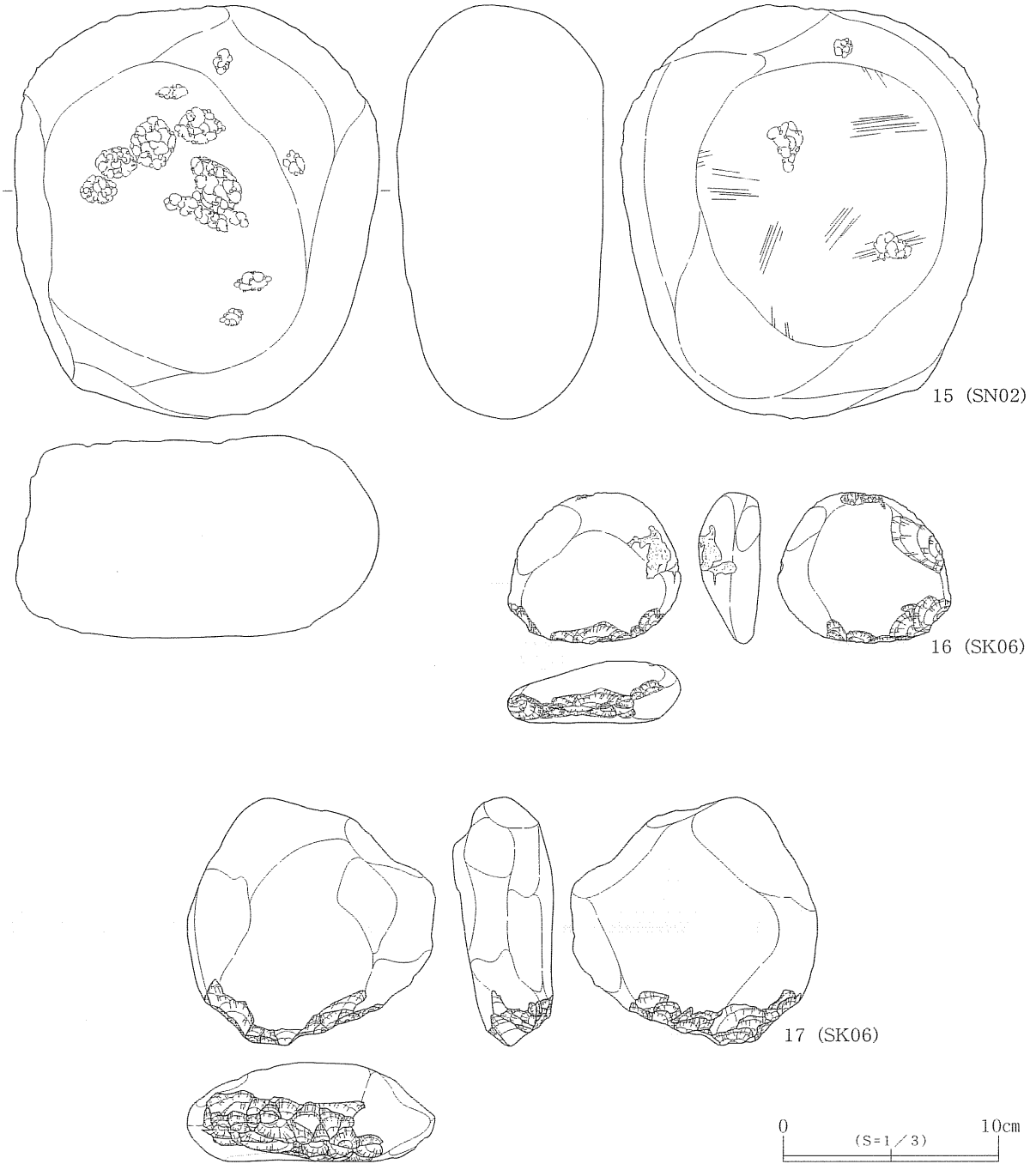
第28図　遺構内出土石器（１）

第６表　遺構内出土石器観察表（１）

番号	出土遺構	器種	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	備考
6	SN02	U.F.	頁岩	60	53	10	39	被熱痕跡有り
7	SK06	不定形石器	頁岩	66	45	8	37	不定形石器２ａ類
8	SK06	不定形石器	頁岩	34	35	5	8	不定形石器２ｆ類
9	SN02	石核	頁岩	113	79	43	401	



第29図　遺構内出土石器（２）



第30図　遺構内出土石器（3）

第７表　遺構内出土石器観察表（２）

番号	出土遺構	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
10	SN02	敲磨器類	花崗岩	111	76	48	620	磨面２面、平坦部片面・側縁敲打
11	SN02	敲磨器類	頁岩	71	43	29	108	磨面２面、端部敲打、被熱痕跡有り
12	SK06	敲磨器類	凝灰岩質安山岩	116	95	60	860	磨面２面、平坦部両面・端部敲打
13	SK06	敲磨器類	凝灰岩質安山岩	115	95	81	1118	磨面２面、両端・側縁敲打
14	SK06	敲磨器類	砂岩	113	92	68	921	磨面２面、平坦部両面敲打
15	SN02	石皿	凝灰岩質安山岩	192	170	96	5000	磨面１面、平坦部敲打
16	SK06	礫器	凝灰岩質安山岩	69	80	32	201	
17	SK06	礫器	凝灰岩質安山岩	114	113	46	707	

３　近世

（１）掘立柱建物跡

近世の遺構は掘立柱建物跡２棟を検出した。この２棟の掘立柱建物跡は重複する位置関係にあり、主軸方位をほぼ同じくすることから、建て替えを行ったものと考える。なお掘立柱建物跡の周辺に分布する土坑・溝跡・柱穴も同時期に帰属するものと想定するが、明確ではない。

ＳＢ113掘立柱建物跡（第31～33図、第8表、図版８）

ＭＤ40・41・42、ＭＥ40・41・42グリッドに位置する。柱穴は全て地山上面で確認した。Ｐ15とＳＢ114Ｐ12の切り合い関係から、ＳＢ114掘立柱建物跡より新しいと判断する。建物の規模は、西側で6.7m、北側で5.0mを測り、面積は約33.5㎡である。桁行４間×梁行３間の直屋で南側に約0.7m離れて下屋が付き、棟通りに柱穴１基をもつ。建物方位は東側柱列で測ると、Ｎ－20°－Ｅである。

柱穴は径0.43～0.22mを測り、円形を基調とする。またほとんどの柱穴について柱痕跡は明瞭ではない。柱間寸法は桁行で1.00～1.35m、梁行で1.80～2.15mを測り、ややばらつきが目立つ。

柱穴覆土からは、Ｐ３より縄文土器小破片１点と寛永通寶１点、Ｐ14より陶器小破片１点が出土した。なお出土した寛永通寶は非常に脆弱な状態で、取り上げ時に破砕してしまったため、また陶器も産地と時期など詳細不明な小破片であるため、ここでは図示しない。

本遺構は柱穴の出土遺物や下屋柱の付く建物の構造などから、近世の掘立柱建物跡と考える。その時期は、周辺の遺構外出土陶磁器（第59図190・191）がほぼ18世紀後半にまとまっており、本遺構がこの時期に概ね並行すると仮定した場合、18世紀後半を上限とする可能性をもつ。重複するＳＢ114掘立柱建物跡との関係は、建物方位をほぼ同じくすることから、ＳＢ114掘立柱建物跡から規模をやや縮小し、建て替えを行ったと考える。

ＳＢ114掘立柱建物跡（第34～36図、第8表、図版８）

ＭＤ40・41・42、ＭＥ40・41・42、ＭＦ40・41グリッドに位置する。柱穴は全て地山上面で確認した。Ｐ12とＳＢ113Ｐ15の切り合い関係から、ＳＢ113掘立柱建物跡より古いと判断する。建物の規模は、東側で9.1m、北側で5.6mを測り、面積は約51㎡である。桁行３間×梁行５間の直屋であるが、下屋柱は確認していない。南西隅を欠くが、ほぼ重複した位置にあたるＳＫ01土坑を構築した際に消滅した可能性もあろう。建物方位は東側柱列で測ると、Ｎ－21°－Ｅである。

柱穴は径0.53～0.31mを測り、円形を基調とする。ほとんどの柱穴について明瞭な柱痕跡を観察することが可能である。さらに底部に径20㎝前後の小穴をもつものもあり、柱痕跡の平面的な位置はこれに一致する。柱間寸法は桁行で1.75～1.95m、梁行で1.75～1.95mを測り、ほぼ６尺に近似した数値にまとまる。桁行・梁行の柱筋は直交しないため、平面形は歪んでいる。

柱穴覆土からはＰ５より縄文土器小破片１点が出土したが、混入したものである。

本遺構はＳＢ113掘立柱建物跡と重複した位置関係にあり、柱穴の切り合い状況から、ＳＢ113より古い時期の近世の掘立柱建物跡と判断する。本遺構の時期は、ＳＢ113と同様に、18世紀後半を上限とする可能性をもつ。おそらくは大きく時期を隔てないうちに、ＳＢ113掘立柱建物跡へと建て替えたのであろう。

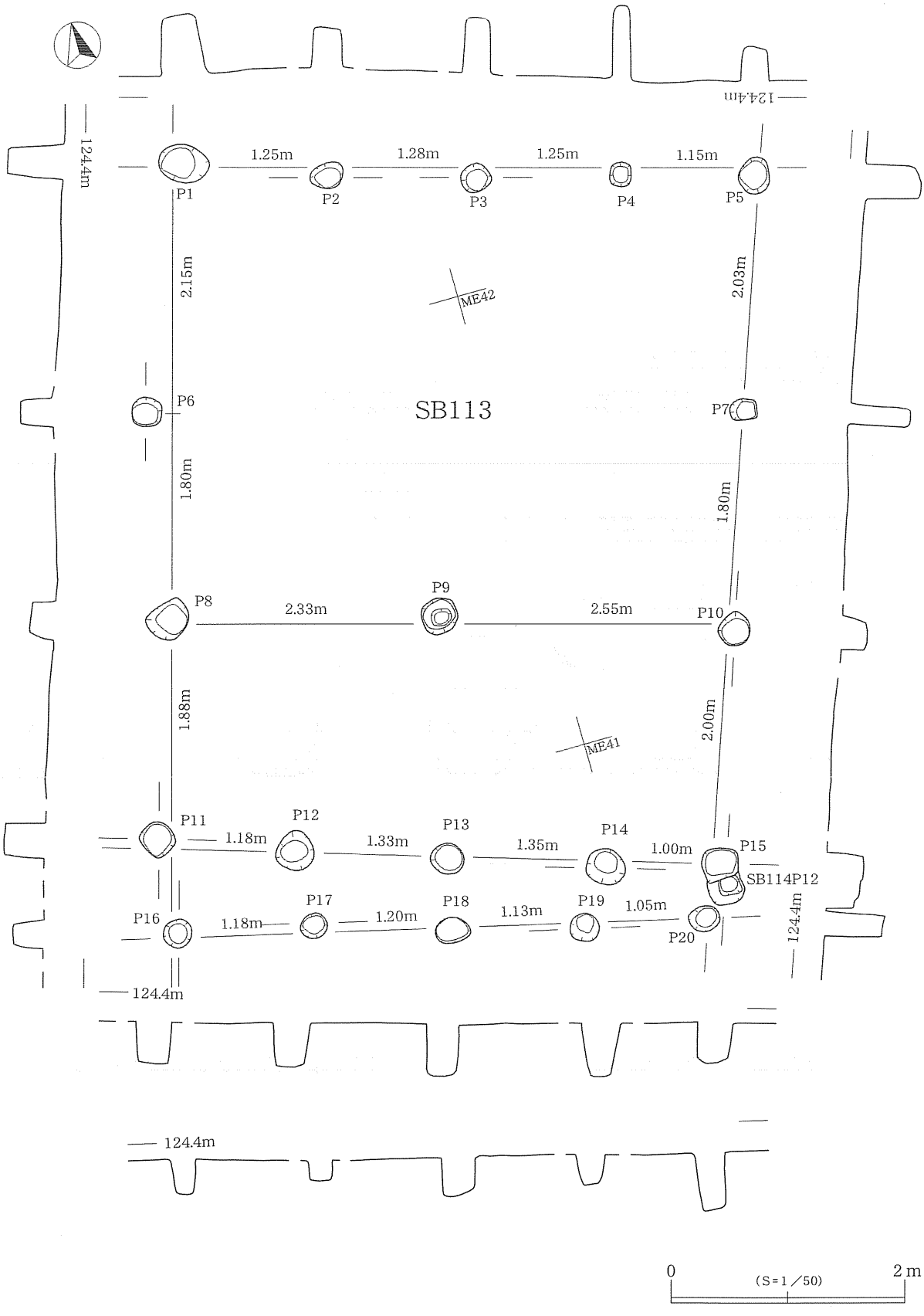
第８表　掘立柱建物跡柱穴一覧

ＳＢ113掘立柱建物跡柱穴

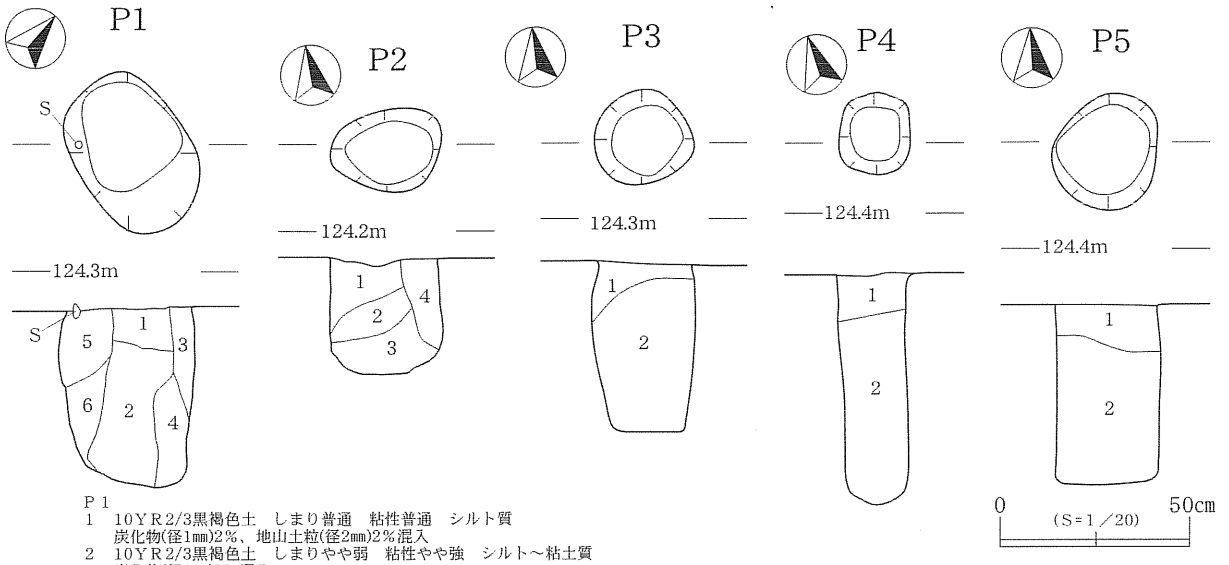
番号	位置	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考	挿図番号
Ｐ１	ME42	楕円形	43	30	47	123.73		31・32
Ｐ２	ME42	不整形	30	21	31	123.82		〃
Ｐ３	MD42	円形	26	24	46	123.73	縄文土器小破片１点、寛永通寶１点出土	〃
Ｐ４	MD42	円形	22	19	61	123.64		〃
Ｐ５	MD42	不整形	31	27	47	123.78		〃
Ｐ６	ME41	円形	28	26	32	123.83		〃
Ｐ７	MD41	不整形	24	18	44	123.80		〃
Ｐ８	ME41	不整形	38	31	22	123.92		〃
Ｐ９	ME41	円形	34	30	25	123.82		〃
Ｐ10	MD41	円形	30	27	24	123.93		〃
Ｐ11	ME41	円形	31	29	34	123.73		31・33
Ｐ12	ME40	円形	34	32	36	123.71		〃
Ｐ13	ME40	円形	29	27	42	123.67		〃
Ｐ14	MD40 ME40	円形	34	30	45	123.69	陶器小破片１点出土	〃
Ｐ15	MD40	不整形	35	27	33	123.84	SB114P12より新しい	〃
Ｐ16	ME40	円形	25	24	28	123.79		〃
Ｐ17	ME40	円形	24	22	17	123.89		〃
Ｐ18	ME40	楕円形	31	22	26	123.84		〃
Ｐ19	ME40	円形	26	24	31	123.83		〃
Ｐ20	MD40	不整形	27	23	49	123.66		〃

ＳＢ114掘立柱建物跡柱穴

番号	位置	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考	挿図番号
Ｐ１	ME42	円形	43	40	35	123.92		34・35
Ｐ２	MD42 ME42	円形	48	45	27	123.88		〃
Ｐ３	MD42	不整形	46	38	19	123.99		〃
Ｐ４	MD42	円形	45	38	32	123.90		〃
Ｐ５	ME42	円形	36	33	37	123.86	縄文土器小破片１点出土	〃
Ｐ６	MD41	不整形	43	39	33	123.92		〃
Ｐ７	ME41	不整形	39	35	31	123.85		〃
Ｐ８	MD41	不整形	39	29	35	123.88		〃
Ｐ９	ME41 MF41	円形	38	34	23	123.87		34・36
Ｐ10	MD40 MD41	不整形	52	44	29	123.91		〃
Ｐ11	MF40	円形	53	33	17	123.89	SKP38より古い	〃
Ｐ12	MD40	円形	33	30	33	123.83	SB113P15より古い	31・33
Ｐ13	ME40	楕円形	31	28	11	123.92		34・36
Ｐ14	ME40	楕円形	52	43	23	123.86		〃
Ｐ15	MD40 ME40	不整形	45	39	33	123.85	SKP08・10・11より古い	〃



第31図　ＳＢ113掘立柱建物跡



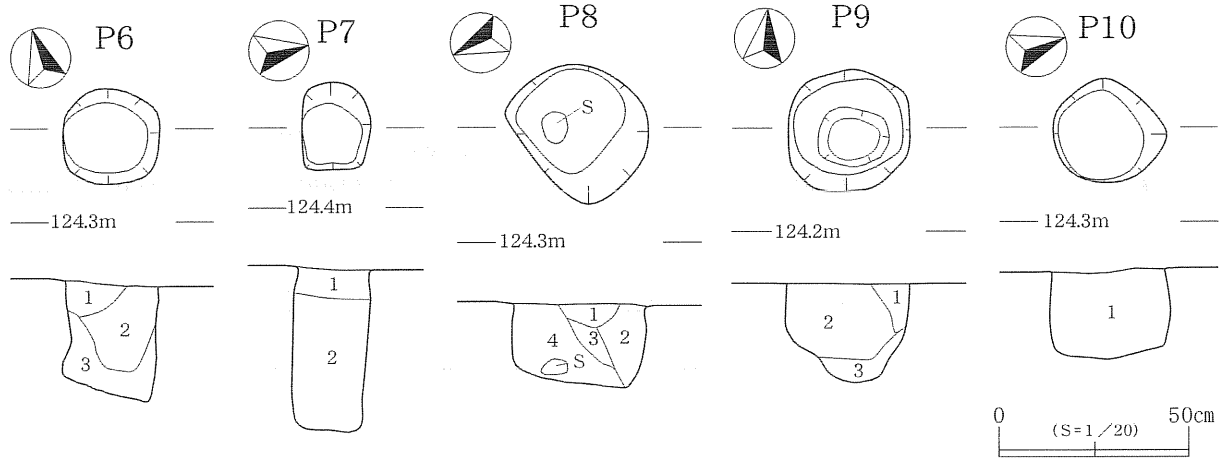
P１
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　炭化物(径1mm)2%、地山土粒(径2mm)2%混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)2%混入
3　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　炭化物(径2mm)2%、地山土塊(径10～20mm)30%混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1%、地山土塊(径10～20mm)30%混入
5　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　炭化物(径2mm)2%、地山土塊(径10～20mm)50%混入
6　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質

P２
1　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径2～10mm)10%混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり強　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土塊(径5～20mm)10%混入
3　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1mm)5%混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1mm)5%混入

P３
1　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土塊(径5～10mm)30%混入
2　10ＹＲ2/2黒褐色土　しまり弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～5mm)5%混入

P４
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)2%、地山土塊(径30mm)5%混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径2mm)5%混入

P５
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径2～5mm)1%、地山土粒(径2～5mm)3%混入
2　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまり弱　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径2～5mm)5%混入



P６
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)2%、地山土粒(径1mm)1%混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1mm)5%混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土塊(径50mm)20%混入

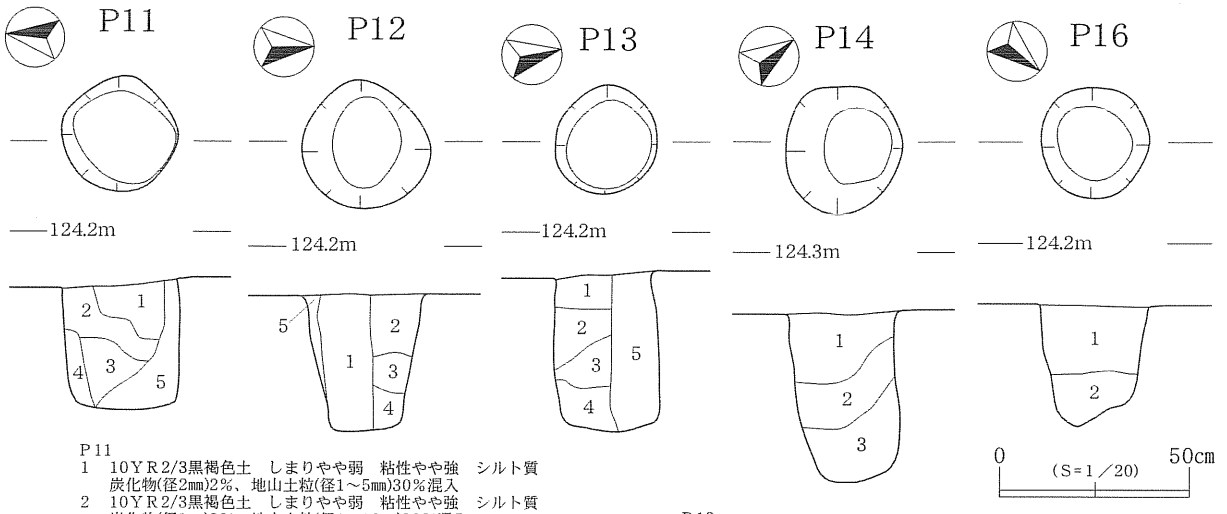
P７
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)1%、地山土塊(径10～20mm)20%混入
2　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1mm)1%混入

P８
1　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1～3mm)5%混入
2　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～5mm)30%混入
3　10ＹＲ4/6褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径10～20mm)1%混入
4　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1～5mm)10%混入

P９
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)2%、地山土粒(径5～10mm)20%混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1～3mm)5%、地山土粒(径1～5mm)5%混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)2%、地山土粒(径2～5mm)40%混入

P10
1　10ＹＲ2/2黒褐色土　しまりやや強　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径5～10mm)3%混入

第32図　ＳＢ113掘立柱建物跡柱穴（１）



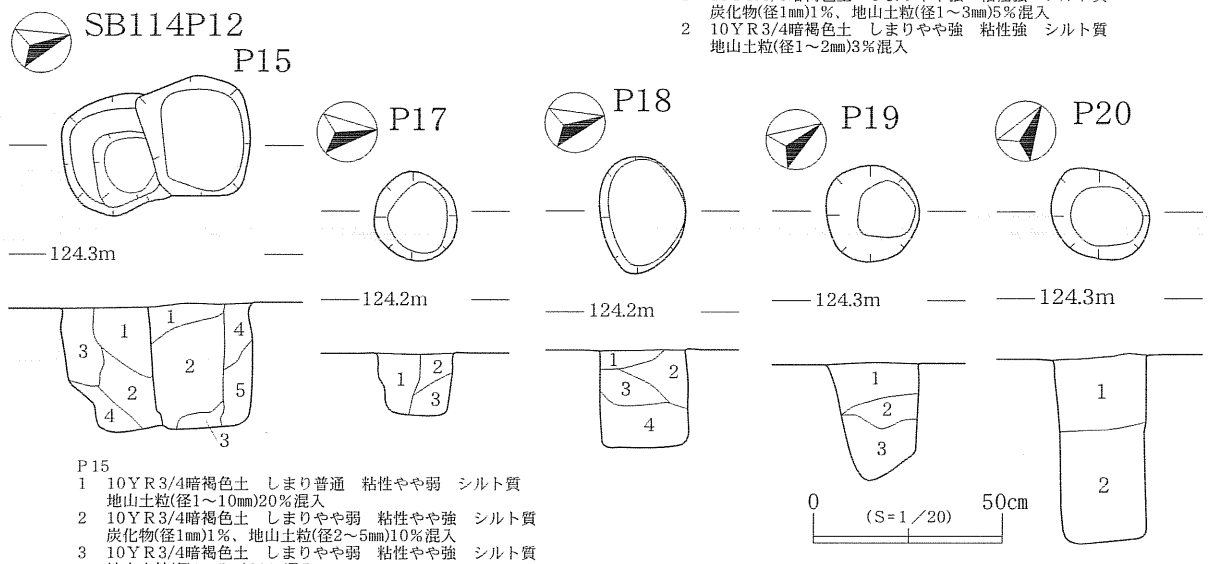
P11
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径2mm)2%、地山土粒(径1～5mm)30%混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1mm)2%、地山土粒(径1～10mm)30%混入
3　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)20%混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
5　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土塊(径5～20mm)50%混入

P12
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1～5mm)1%、地山土粒(径1～5mm)10%混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1～5mm)20%混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)10%混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)30%混入
5　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)50%混入

P13
1　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)10%混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)5%混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)10%混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり弱　粘性強　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)10%混入
5　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径5～20mm)40%混入

P14
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)5%混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)2%混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり弱　粘性強　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)50%混入

P16
1　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまりやや強　粘性強　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1～3mm)5%混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性強　シルト質
　地山土粒(径1～2mm)3%混入



P15
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～10mm)20%混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径2～5mm)10%混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)30%混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径2mm)1%、地山土粒(径1～10mm)30%混入
5　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径5～20mm)40%混入

P17
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土塊(径5～20mm)40%混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径5～20mm)10%混入

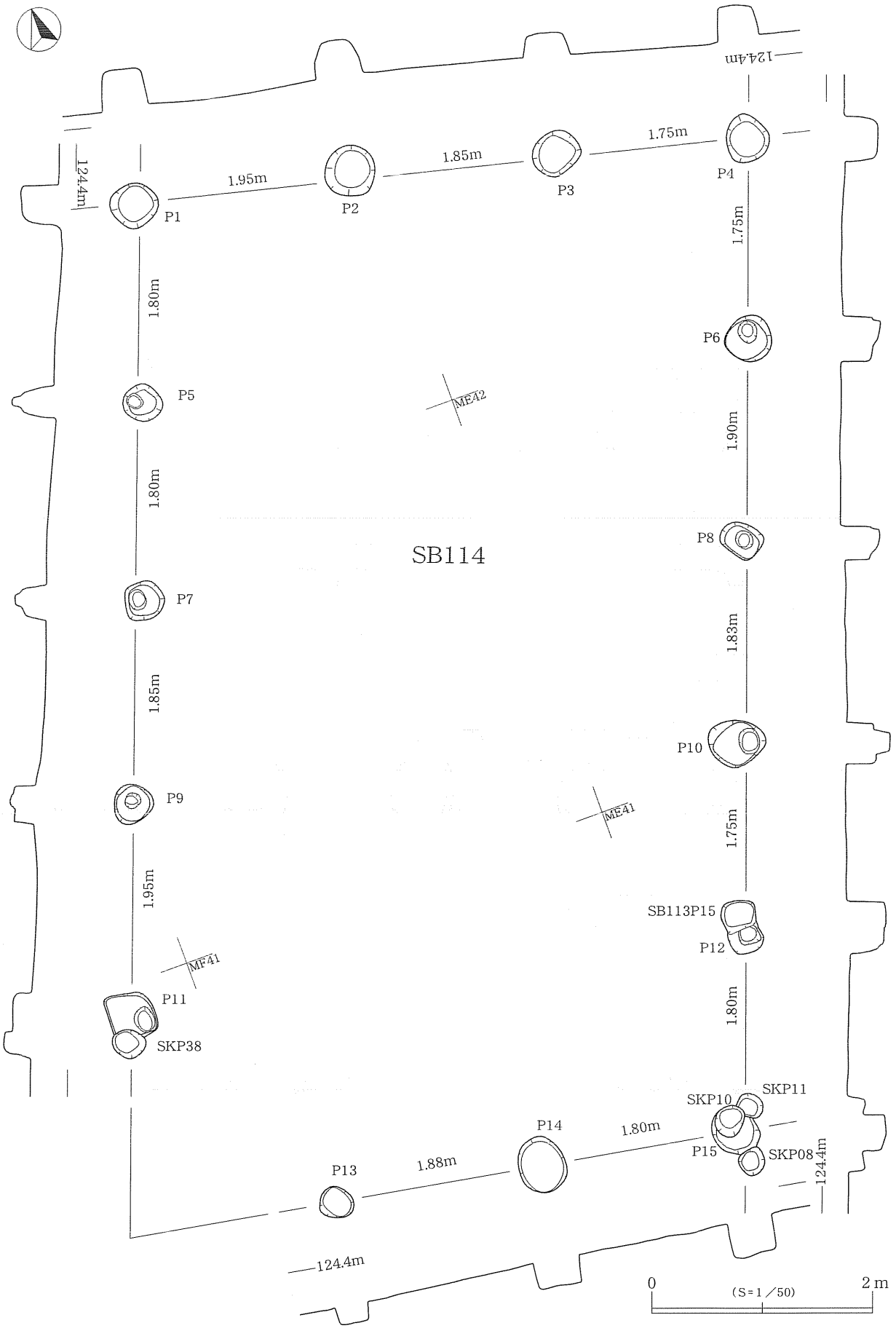
P18
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり強　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径5～20mm)40%混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径1～10mm)20%混入
3　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)20%混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり弱　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径5～20mm)50%混入

P19
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1～10mm)30%混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土塊(径5～10mm)15%混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土塊(径5～10mm)50%混入

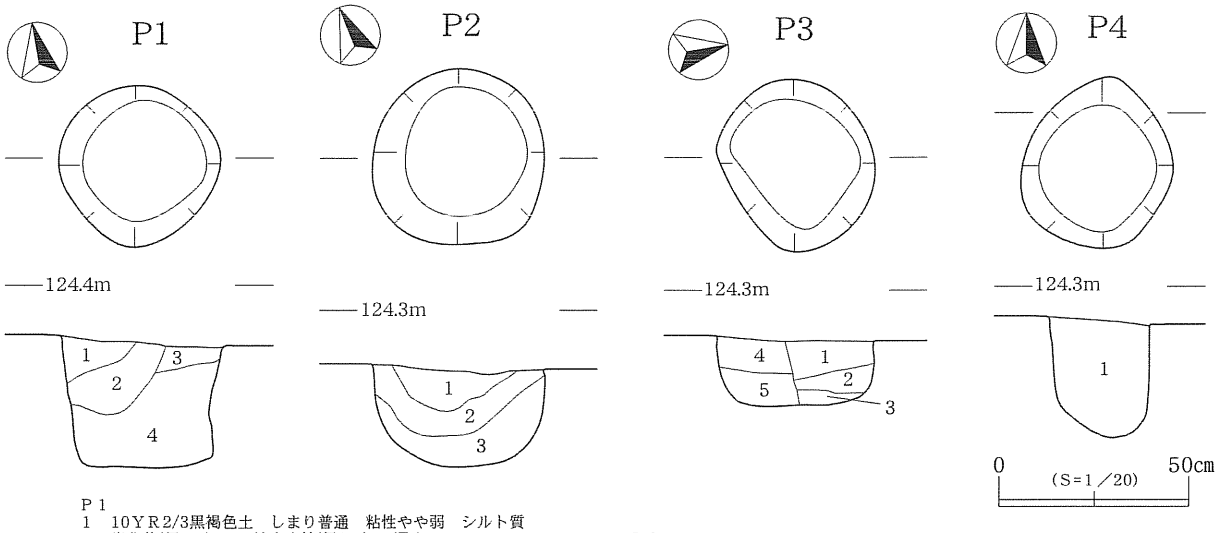
P20
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1～10mm)20%混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)30%混入

SB114P12
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径5～10mm)20%混入
2　10ＹＲ4/4褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径10～30mm)10%混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径5～10mm)20%混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土塊(径10～20mm)30%混入

第33図　ＳＢ113掘立柱建物跡柱穴（２）



第34図　ＳＢ114掘立柱建物跡

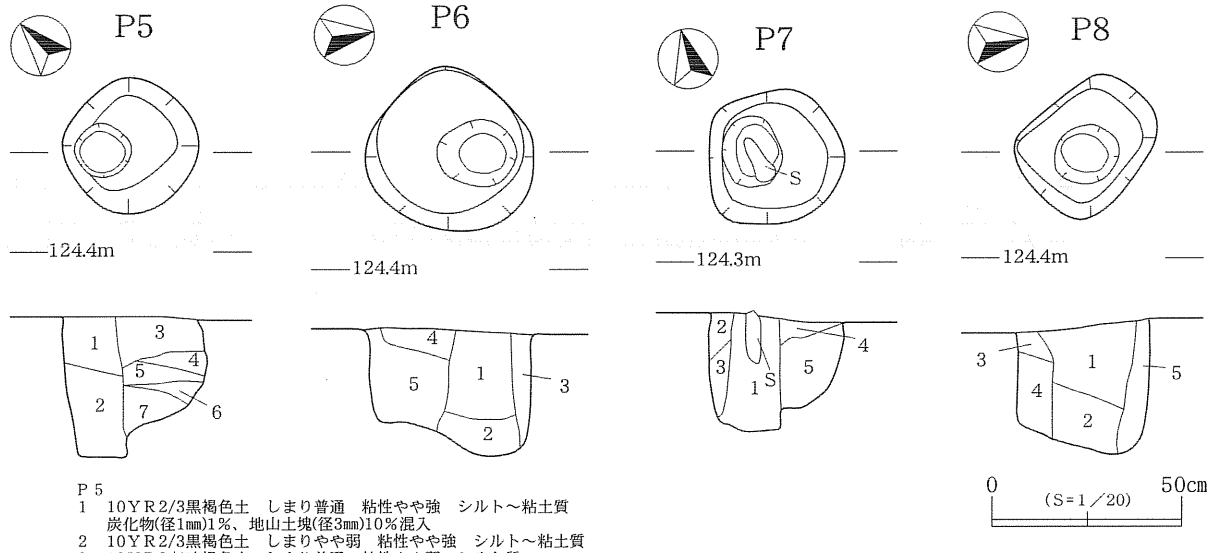


P１
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1％、地山土粒(径3mm)2％混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径5mm)1％、地山土粒(径2～5mm)50％混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1％、地山土粒(径2～5mm)10％混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)2％、地山土粒(径2～5mm)50％混入

P２
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性強　シルト質
　炭化物(径2mm)1％、地山土粒(径1～3mm)2％混入
2　10ＹＲ4/6褐色土　しまり強　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1mm)1％、地山土塊(径10～20mm)50％混入
3　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり弱　粘性強　シルト質
　地山土粒(径5～10mm)20％混入

P３
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)1％混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1％、地山土塊(径5～20mm)30％混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性強　シルト～粘土質
　地山土塊(径10～30mm)40％混入
4　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)1％、地山土塊(径30mm)20％混入
5　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)1％、地山土塊(径30mm)30％混入

P４
1　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1％、地山土粒(径1～10mm)10％混入



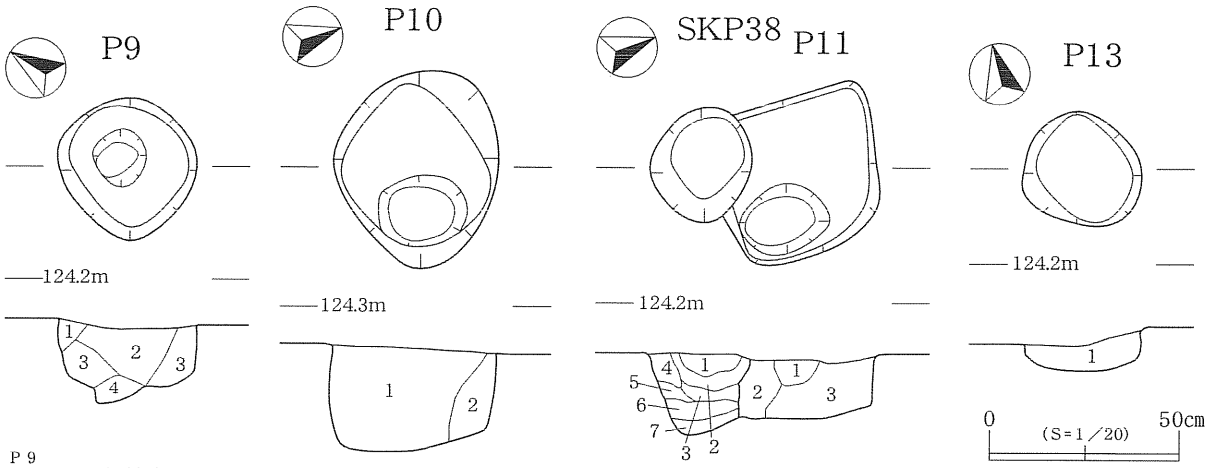
P５
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1％、地山土塊(径3mm)10％混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径10～30mm)50％混入
4　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1％混入
5　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径5～10mm)50％混入
6　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)5％、地山土粒(径5～10mm)10％混入
7　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径5～10mm)30％混入

P６
1　10ＹＲ2/2黒褐色土　しまり普通　粘性弱　シルト質
　地山土粒(径2～5mm)10％混入
2　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまり弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径5～10mm)20％混入
3　10ＹＲ4/4褐色土　しまりやや強　粘性やや強　シルト質
　地山土塊(径10～30mm)50％混入
4　10ＹＲ4/4褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径10～20mm)40％混入
5　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径10～20mm)30％混入

P７
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～3mm)10％混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
4　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～3mm)10％混入
5　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり普通　粘性強　シルト～粘土質
　地山土塊(径10～30mm)40％混入

P８
1　10ＹＲ2/2黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
2　10ＹＲ2/2黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～5mm)30％混入
3　10ＹＲ2/2黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径5mm)10％混入
4　10ＹＲ2/2黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径5mm)2％混入
5　10ＹＲ2/2黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径5mm)2％混入

第35図　ＳＢ114掘立柱建物跡柱穴（１）



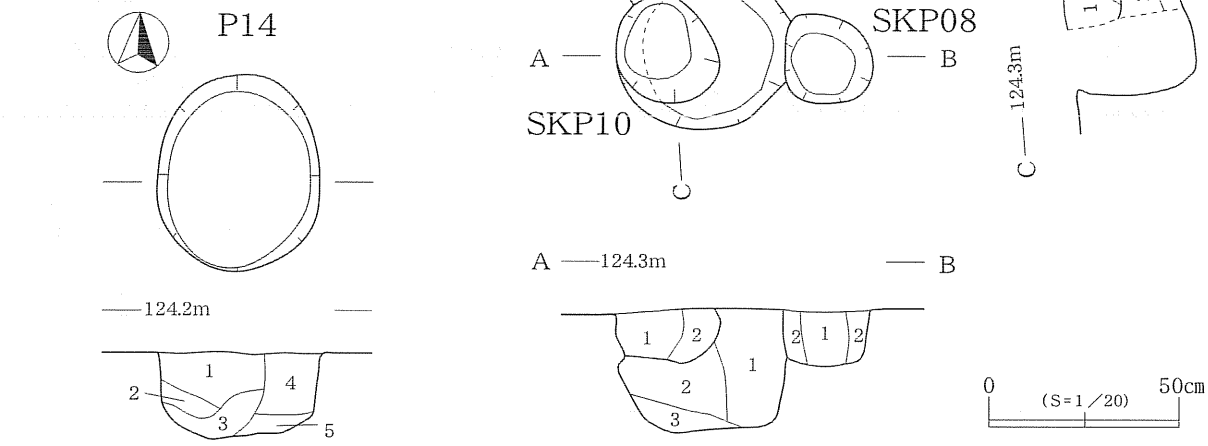
P 9
1　10YR3/3暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～5mm)50%混入
2　10YR2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径3mm)1%、地山土粒(径1～5mm)10%混入
3　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～2mm)20%混入
4　10YR2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土塊(径30mm)40%混入

P 10
1　10YR3/3暗褐色土　しまり強　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径5～20mm)30%混入
2　10YR3/2黒褐色土　しまり強　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径10～50mm)30%混入

P 11
1　10YR3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1～5mm)5%混入
2　10YR3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径5～10mm)10%混入
3　10YR3/4暗褐色土　しまり普通～やや弱　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土塊(径10～30mm)50%混入

P 13
1　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径5～50mm)10%混入

SKP38
1　10YR3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)10%混入
2　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径5mm)1%、地山土粒(径1～10mm)40%混入
3　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1～5mm)5%混入
4　10YR3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1～5mm)10%混入
5　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)10%混入
6　10YR2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)10%混入
7　10YR3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)20%混入



P 14
1　10YR3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性普通　シルト質
　地山土塊(径10～30mm)10%混入
2　10YR2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)10%混入
3　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　地山土塊(径10～50mm)40%混入
4　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径10～20mm)30%混入
5　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～10mm)20%混入

P 15
1　10YR3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%混入
2　10YR3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)2%、地山土粒(径1～10mm)10%混入
3　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径5～20mm)30%混入

SKP08
1　10YR3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%混入
2　10YR3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1～2mm)1%、地山土塊(径10～30mm)30%混入

SKP10
1　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径5～10mm)10%混入
2　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1%、地山土塊(径10～30mm)50%混入

SKP11
1　10YR3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～10mm)5%混入
2　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　地山土塊(径5～20mm)20%混入
3　10YR4/6褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径5～20mm)30%混入

第36図　ＳＢ114掘立柱建物跡柱穴（２）

４　時代不明

（１）土坑

検出した５基の土坑のうち、ＳＫ06は縄文時代晩期に帰属すると考えるが、他の４基については帰属時期の決定が困難であり、時代不明遺構として扱った。これら時代不明の土坑は、掘立柱建物跡と、調査区南端に入り込む沢状地形との間に挟まれた形で分布し、またＳＫ03からは近世の所産と考えられる擂鉢破片が出土していることから、少なくとも近世以降に帰属すると推定するが、詳細は明らかではない。なおこれらの土坑は谷頭部に位置するＳＫ03を除き深さ20cmに満たず、上部は相当の削平を受けたものと考える。

ＳＫ01土坑（第37図、図版９）

ＭＥ・ＭＦ40グリッドに位置し、地山上面で確認した。長径1.43m、短径1.30mの略円形平面をなし、確認面から底面までの深さ約0.11mを測る。底面は平坦であるが、壁の立ち上がりは不明瞭で、開口部に向かって緩やかに外傾する。覆土にはブロック状の地山土をやや多く含み、埋め戻されたものと考えられる。遺物は縄文土器小破片２点が出土したが、埋土に混入したものと判断する。

本遺構の詳細な時期及び性格等は不明である。

ＳＫ03土坑（第37図、図版９）

ＭＦ40グリッドに位置し、地山上面で確認した。Ｂ区南端の沢状地形の谷頭部にあたる。長径0.83m、短径0.81mの円形平面をなし、確認から底面までの深さ約0.35mを測る。平坦な底面からの壁の立ち上がりは明瞭で、開口部に向かって直線的に外傾し、断面形状は逆台形を呈す。覆土は炭化物を含む暗褐色土の単一層であり、一括の埋め戻しの土と判断する。遺物は縄文土器小破片が２点、剥片１点が出土した。埋土に混入したものと考える。

本遺構の詳細な時期及び性格等は不明である。

ＳＫ04土坑（第37図、図版９）

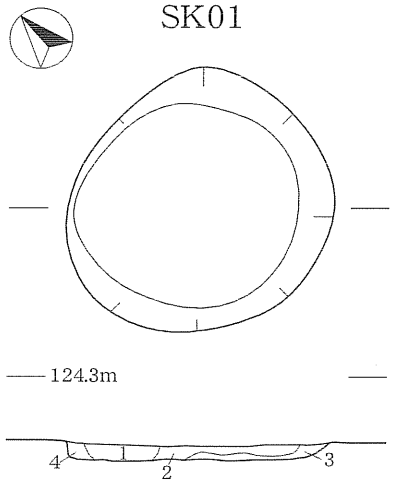
ＭＧ40グリッドに位置し、地山上面で確認した。長径1.00m、短径0.89mの略円形平面をなし、確認面から底面までの深さ約0.16mを測る。底面は凹凸が顕著で、壁の立ち上がりも不明瞭である。覆土は単一層で炭化物と地山土粒を多く含み、埋め戻しの土と考える。遺物は縄文土器小破片４点、擂鉢小破片５点、礫２点が出土した。全て埋土に混入したものと判断する。なお出土した擂鉢破片は詳細な産地・時期は不明であるが、近世の所産である可能性が高く、また同一個体であると判断する。

本遺構の詳細な時期及び性格等は不明であるが、出土遺物から近世以降に限られるであろう。

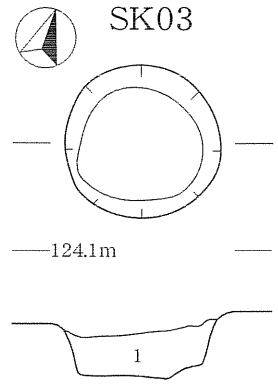
ＳＫ26土坑（第37図、図版９）

ＭＥ39グリッドに位置し、地山上面で確認した。長径0.89m、短径0.71mの略円形をなし、確認面から底面までの深さは約0.17mを測る。底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土には炭化物と地山土粒が少量含まれるが、人為堆積によるものか明確ではない。遺物は出土しなかった。

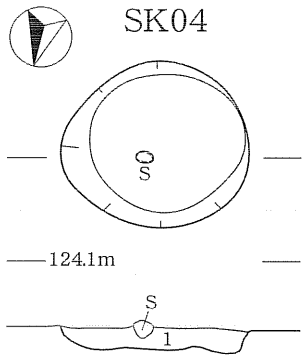
本遺構の詳細な時期及び性格等は不明である。



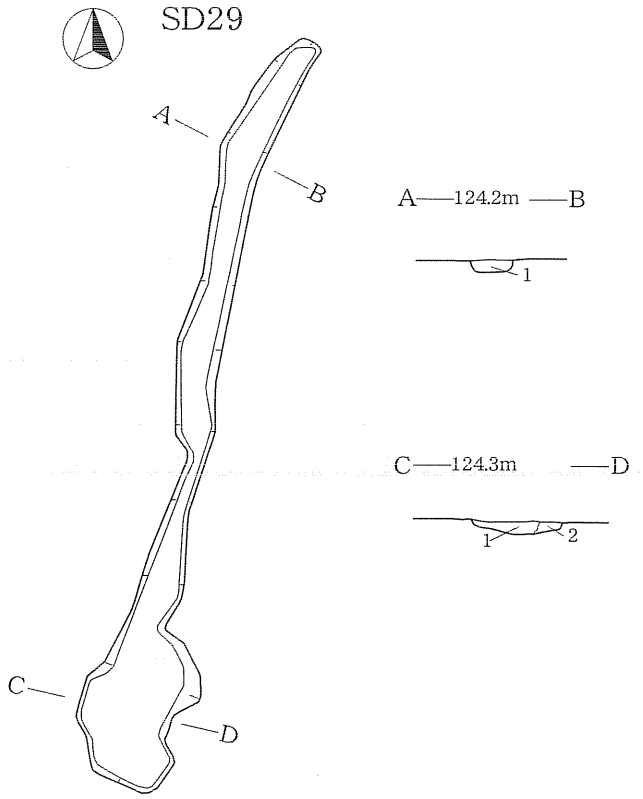
SK01
1　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり弱　粘性弱　シルト質
　　地山土粒(径5～10㎜)20％混入
2　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまり弱　粘性弱　シルト質
　　地山土粒(径2～10㎜)10％混入
3　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性弱　シルト質
4　10ＹＲ4/4褐色土　しまりやや強　粘性弱　シルト質



SK03
1　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　　炭化物(径1～10㎜)5％混入

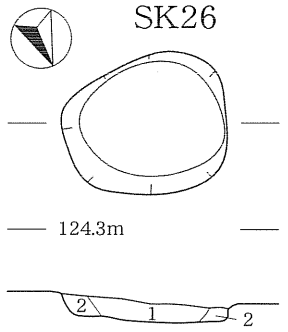


SK04
1　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト質
　　炭化物(径1～20㎜)15％、地山土粒(径5～10㎜)20％混入

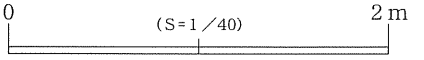


SD29(Ａ－Ｂライン)
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　　地山土粒(径5㎜)20％混入

SD29(Ｃ－Ｄライン)
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性強　シルト質
　　地山土粒(径5㎜)2％混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　　地山土粒(径5㎜)20％混入



SK26
1　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまりやや弱　粘性弱　シルト質
　　炭化物(径2～5㎜)5％、地山土粒(径5～10㎜)10％混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性弱　シルト質
　　炭化物(径1～2㎜)1％、地山土粒(径4～5㎜)5％混入



第37図　ＳＫ01・03・04・26土坑、ＳＤ29溝跡

（２）溝跡

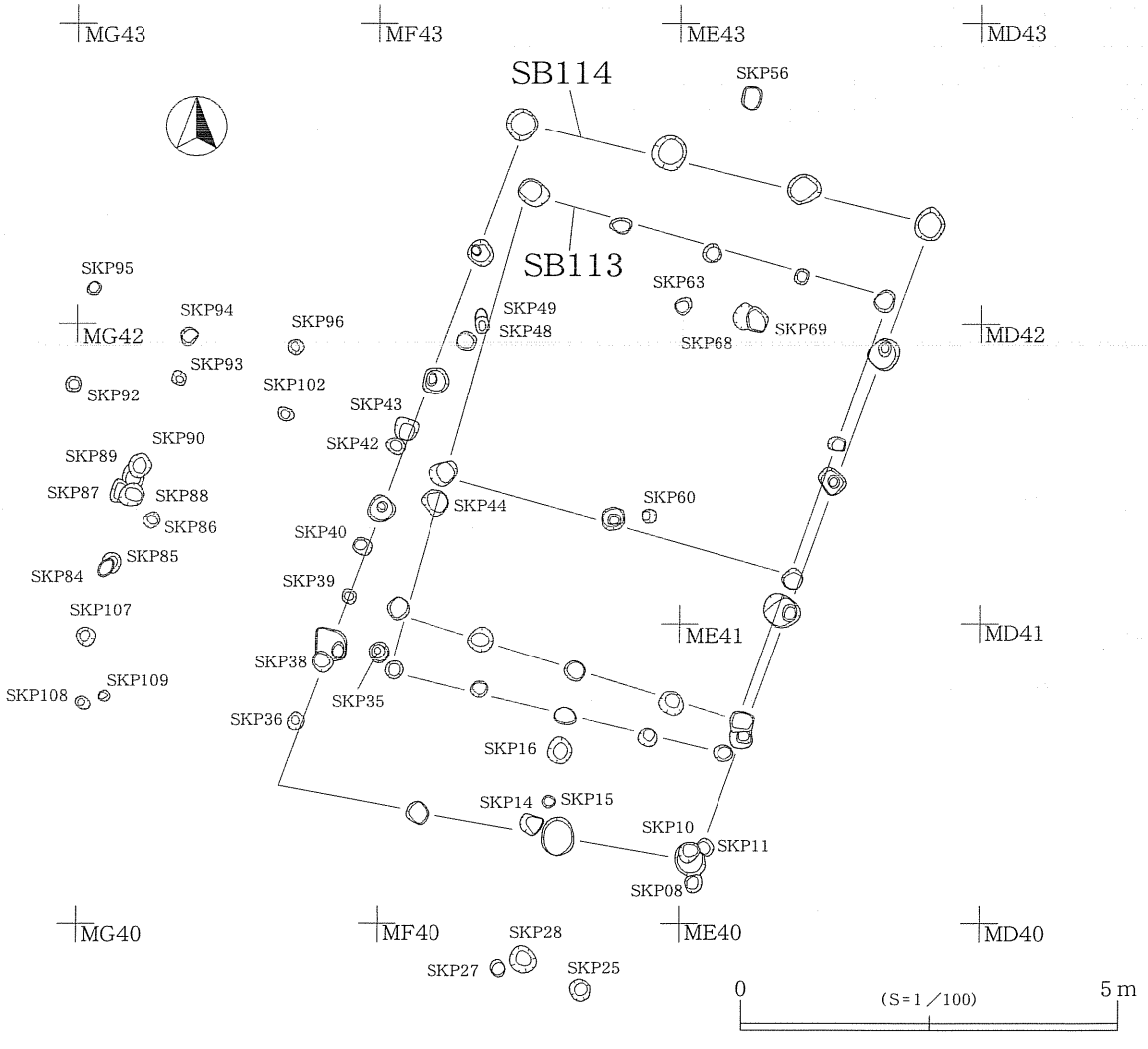
ＳＤ29溝跡（第37図、図版９）

ＭＥ40・41グリッドに位置し、地山上面で確認した。幅は最大で0.54m、最小で0.10mと振幅が大きく、全体の形状は不整形をなす。最大長は4.08m、確認面から底面までの深さは約0.07cmで、長軸をＮ－14°－Ｅの方向にとり、調査区南端の沢状地形に向かって延伸している。覆土はブロック状の地山土の混入が顕著で、埋め戻されたものと判断する。遺物は出土しなかった。

本遺構は周辺の土坑及び柱穴同様、位置的には近世の掘立柱建物跡と近接するが、直接的な関係については明確ではない。現段階では詳細な時期及び性格等は不明である。

（３）柱穴様ピット（第38～41図、第9表）

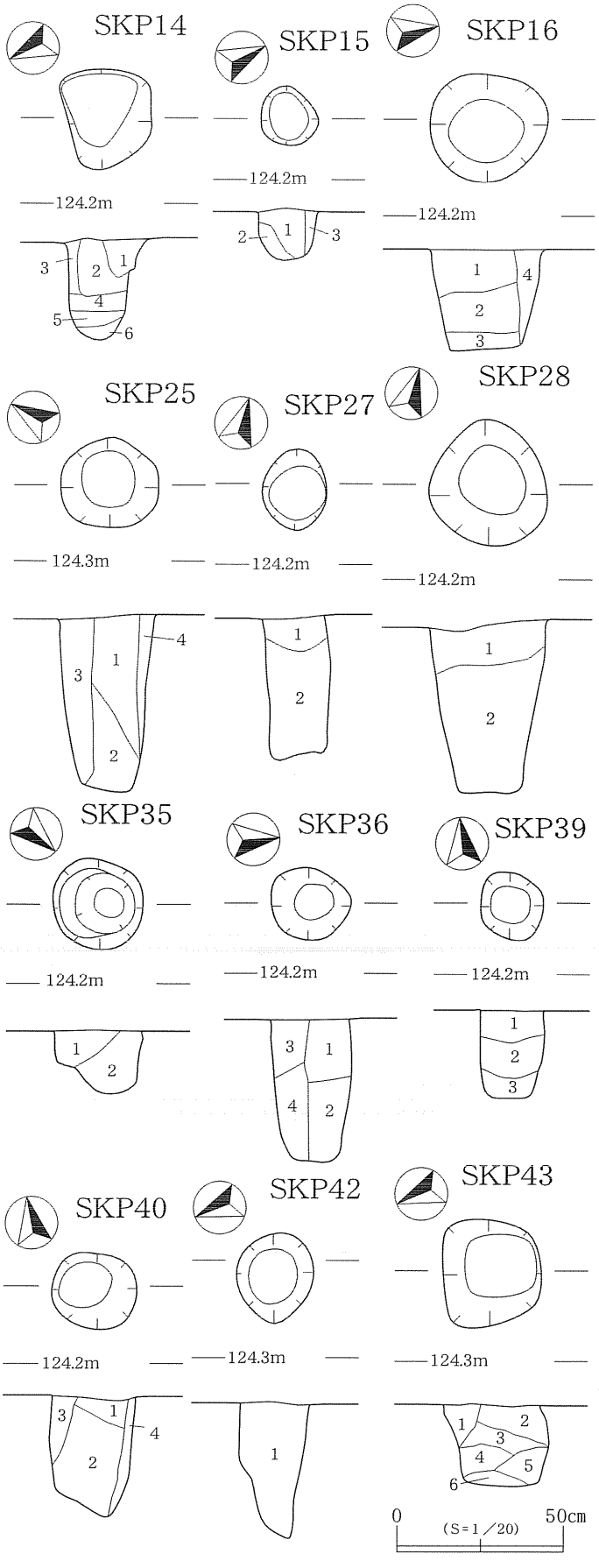
柱穴様ピットはＳＢ113・ＳＢ114掘立柱建物跡に属す35基を除き、40基を検出した。これらの柱穴様ピットは近世の掘立柱建物跡と近接した位置に分布し、多くはこれに並行した時期の構築と推定するが、詳細な時期の判定は困難であるため、時代不明遺構として扱う。なお、個々のグリッド位置・規模・出土遺物・他遺構との切り合い関係等については、第９表に一覧を示す。



第38図　柱穴様ピット配置図

第９表　柱穴様ピット一覧

番号	位置	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考	挿図番号
SKP08	MD40	円形	26	23	15	124.02	SB114P15より新しい	36・38
SKP10	MD40 ME40	円形	29	25	14	124.03	SB114P15・SKP11より新しい	〃
SKP11	MD40	円形	25	21	20	123.99	SB114P15より新しく、SKP10より古い	〃
SKP14	ME40	不整形	31	25	31	123.78		38・39
SKP15	ME40	円形	18	16	15	123.96		〃
SKP16	ME40	円形	35	32	31	123.79	微細剥離痕のある剥片１点出土	〃
SKP25	ME39	円形	30	27	54	123.60		〃
SKP27	ME39	楕円形	24	19	44	123.61		〃
SKP28	ME39	不整形	38	34	52	123.56		〃
SKP35	ME40 MF40	円形	29	26	19	123.87		〃
SKP36	MF40	円形	24	21	44	123.62		〃
SKP38	MF40	不整形	30	25	22	123.85	SB114P11より新しい	36・38
SKP39	MF41	円形	22	19	27	123.87		38・39
SKP40	MF41	円形	26	23	37	123.73		〃
SKP42	ME41	円形	27	23	41	123.76		〃
SKP43	ME41	方形	35	29	25	123.92		〃
SKP44	ME41	不整形	38	32	37	123.75		38・40
SKP48	ME41 ME42	楕円形	24	19	20	123.95	SKP49より新しい	〃
SKP49	ME42	不整形	17	16	15	124.02	SKP48より古い	〃
SKP56	MD42	楕円形	33	26	18	124.00		〃
SKP60	ME41	円形	20	18	34	123.75		〃
SKP63	MD42 ME42	不整形	26	21	22	123.94	縄文土器小破片１点出土	〃
SKP68	MD41 MD42	不整形	36	34	25	124.01	SKP69より古い 縄文土器小破片１点出土	〃
SKP69	MD41 MD42	不整形	35	29	15	123.89	SKP68より新しい 縄文土器小破片１点出土	〃
SKP84	MF41	楕円形	28	19	35	123.71	SKP85より新しい 縄文土器小破片１点出土	〃
SKP85	MF41	円形	28	25	37	123.68	SKP84より古い	〃
SKP86	MF41	不整形	23	19	17	123.87		〃
SKP87	MF41	不整形	30	29	30	123.82	SKP88より古く、SKP89より新しい	38・41
SKP88	MF41	不整形	35	30	27	123.83	SKP87・89より新しい	〃
SKP89	MF41	不整形	32	30	38	123.72	SKP87・88・90より古い 縄文土器小破片１点出土	〃
SKP90	MF41	円形	34	30	46	123.68	SKP89より新しい	〃
SKP92	MF41 MG41	円形	22	21	34	123.79		38・40
SKP93	MF41	円形	22	18	46	123.73		〃
SKP94	MF41	不整形	27	21	31	123.86		38・41
SKP95	MF42	不整形	20	17	21	124.06		〃
SKP96	MF41	円形	22	20	35	123.85		〃
SKP102	MF41	不整形	23	17	16	124.06		〃
SKP107	MF40	不整形	26	24	42	123.66	縄文土器小破片１点出土	〃
SKP108	MF40	楕円形	22	16	19	123.89		〃
SKP109	MF40	不整形	17	13	32	123.76		〃



SKP14
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　炭化物(径1mm)1％混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　炭化物(径1mm)1％混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　地山土塊(径10～30mm)50％混入
4　10ＹＲ4/6褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　炭化物(径1mm)1％混入
5　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1mm)1％混入
6　10ＹＲ4/6褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1mm)1％混入

SKP15
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性普通　シルト質
　炭化物(径1mm)1％混入
2　10ＹＲ4/4褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径1～10mm)20％混入
3　10ＹＲ4/4褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1mm)1％、地山土粒(径1～10mm)10％混入

SKP16
1　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　地山土塊(径5～20mm)10％混入
2　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)30％混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径5～20mm)30％混入

SKP25
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1％、地山土粒(径1～10mm)30％混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)30％混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1％、地山土塊(径10～30mm)40％混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径10～30mm)50％混入

SKP27
1　10ＹＲ4/6褐色土　しまりやや強　粘性強　シルト質
　炭化物(径1mm)2％、地山土塊(径5～30mm)40％混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり強　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径2～3mm)5％混入

SKP28
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや強　粘性強　シルト質
　炭化物(径1～2mm)1％混入
2　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径2～3mm)10％混入

SKP35
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり強　粘性強　シルト質
　地山土塊(径10～40mm)20％混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性強　シルト質
　地山土粒(径1～3mm)5％混入

SKP36
1　10ＹＲ3/1黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)2％、地山土粒(径1～5mm)10％混入
2　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまり弱　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)20％混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径1mm)1％、地山土塊(径5～20mm)20％混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径10～30mm)40％混入

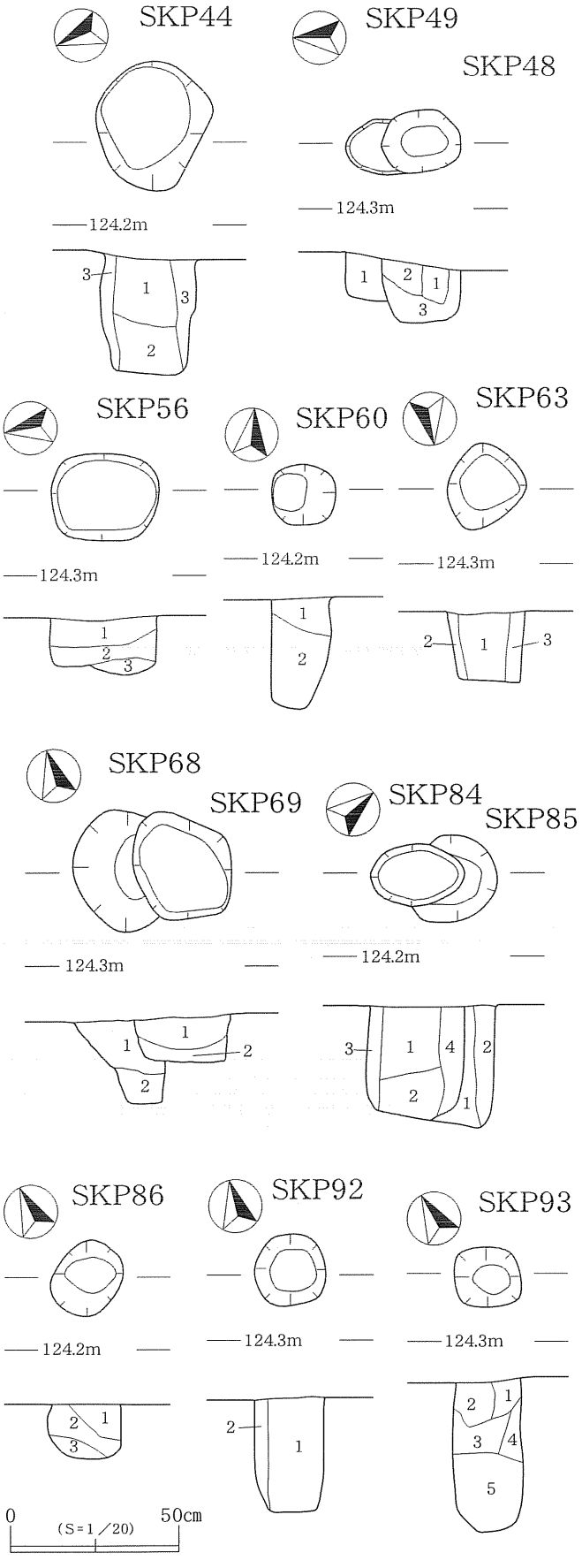
SKP39
1　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1～3mm)1％、地山土粒(径1～10mm)20％混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1～3mm)3％、地山土粒(径1～5mm)7％混入
3　10ＹＲ4/4褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　地山土塊(径10～30mm)20％混入

SKP40
1　10ＹＲ4/4褐色土　しまりやや弱　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径10～40mm)40％混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1％、地山土粒(径5～10mm)3％混入
3　10ＹＲ4/4褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径1～5mm)10％混入
4　10ＹＲ4/4褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土塊(径10～30mm)20％混入

SKP42
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1％、地山土粒(径1～10mm)10％混入

SKP43
1　10ＹＲ4/4褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　地山土塊(径10～30mm)30％混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～5mm)3％混入
3　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径5～10mm)10％混入
4　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～5mm)1％混入
5　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径1～10mm)30％混入
6　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質

第39図　柱穴様ピット（１）



SKP44
1　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～10mm)20%混入
2　10YR3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径1～10mm)40%混入
3　10YR3/3暗褐色土　しまりやや強　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径1～10mm)50%混入

SKP48
1　10YR2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～5mm)10%混入
2　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土塊(径5～20mm)30%混入
3　10YR3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径5mm)1%混入

SKP49
1　10YR2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1mm)1%混入

SKP56
1　10YR2/2黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土塊(径5mm)1%混入
2　10YR2/2黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)1%、地山土塊(径2mm)1%混入
3　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性強　シルト～粘土質
　地山土粒(径2mm)10%混入

SKP60
1　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)2%混入
2　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1%混入

SKP63
1　10YR3/2黒褐色土　しまり普通　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)2%、地山土粒(径2mm)1%混入
2　10YR3/2黒褐色土　しまりやや弱　粘性普通　シルト～粘土質
　地山土粒(径5mm)2%混入
3　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径5～10mm)30%混入

SKP68
1　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)2%、地山土粒(径1～5mm)10%混入
2　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1%混入

SKP69
1　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1%、地山土粒(径1～10mm)5%混入
2　10YR3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性普通　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～5mm)3%混入

SKP84
1　10YR2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土塊(径5～20mm)5%混入
2　10YR3/2黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径1～5mm)10%混入
3　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　地山土塊(径5～20mm)40%混入
4　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)1%、地山土塊(径10～30mm)40%混入

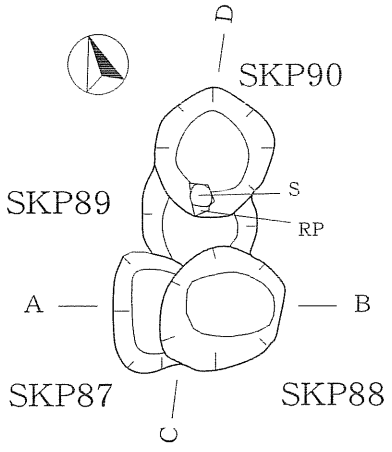
SKP85
1　10YR3/3暗褐色土　しまりやや弱　粘性普通　シルト～粘土質
2　10YR3/2黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1%、地山土塊(径10～30mm)20%混入

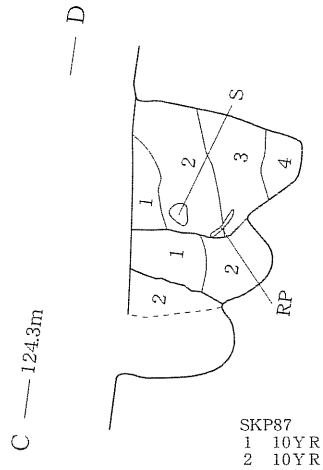
SKP86
1　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)2%、地山土粒(径5mm)5%混入
2　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土粒(径2mm)1%混入
3　10YR2/3黒褐色土　しまり弱　粘性普通　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)2%、地山土粒(径2mm)1%混入

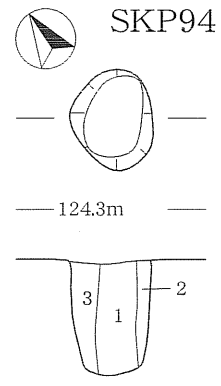
SKP92
1　10YR2/2黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径2～5mm)10%混入
2　10YR3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　地山土塊(径10～20mm)40%混入

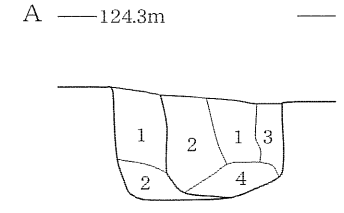
SKP93
1　10YR2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　地山土塊(径10～20mm)30%混入
2　10YR2/1黒色土　しまりやや強　粘性普通　シルト質
　炭化物(径1～2mm)1%、地山土粒(径1～2mm)1%混入
3　10YR3/2黒褐色土　しまりやや弱　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径2～5mm)20%混入
4　10YR3/3暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　地山土塊(径10～20mm)20%混入
5　10YR3/1黒褐色土　しまり弱　粘性普通　シルト質
　地山土粒(径5～10mm)10%混入

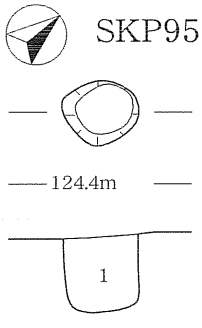
第40図　柱穴様ピット（2）

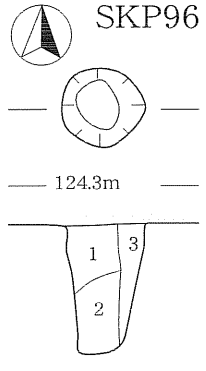


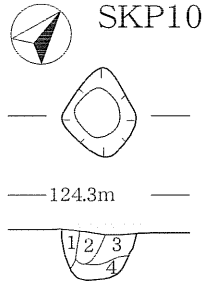


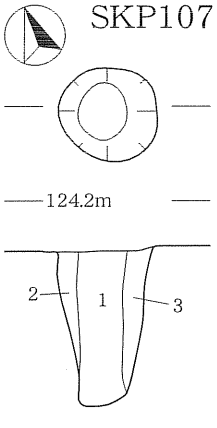


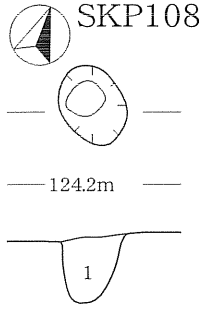


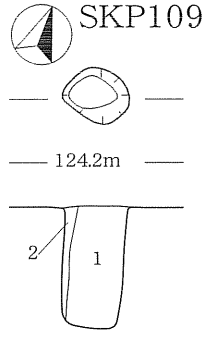












0　(S＝1／20)　50cm

SKP87
1　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　地山土塊(径5～20mm)20％混入

SKP88
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　地山土粒(径1mm)1％混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまりやや弱　粘性普通　シルト～粘土質
　地山土塊(径5～20mm)40％混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　地山土塊(径10～30mm)30％混入
4　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
　地山土塊(径10～30mm)50％混入

SKP89
1　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1mm)1％、地山土粒(径5mm)5％混入
2　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径5mm)10％混入

SKP90
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　地山土塊(径10～30mm)50％混入
2　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径5mm)2％、地山土粒(径2mm)5％混入
3　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径2mm)2％、地山土粒(径1～2mm)5％混入
4　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまり弱　粘性やや強　シルト質

SKP94
1　10ＹＲ2/2黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト質
2　10ＹＲ3/3黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径5～10mm)30％混入
3　10ＹＲ3/1黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　地山土粒(径2～5mm)10％混入

SKP95
1　10ＹＲ3/1黒褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト質
　炭化物(径2～5mm)1％、地山土粒(径2～5mm)3％混入

SKP96
1　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト質
　炭化物(径1～2mm)1％、地山土粒(径2～5mm)5％混入
2　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり弱　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径5～10mm)30％混入
3　10ＹＲ4/4褐色土　しまり普通　粘性やや弱　シルト～細砂質
　地山土粒(径5～10mm)30％混入

SKP102
1　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり強　粘性やや強　シルト質
　地山土塊(径10～20mm)50％混入
2　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまりやや強　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径2～5mm)5％混入
3　10ＹＲ3/3暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質
　地山土粒(径5～10mm)10％混入
4　10ＹＲ2/2黒褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト質

SKP107
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまりやや弱　粘性やや強　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1％、地山土粒(径1mm)1％混入
2　10ＹＲ4/6褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　地山土塊(径10～40mm)50％混入
3　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　炭化物(径1mm)1％、地山土塊(径10～40mm)40％混入

SKP108
1　10ＹＲ3/2黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)2％混入

SKP109
1　10ＹＲ2/3黒褐色土　しまり普通　粘性普通　シルト～粘土質
　炭化物(径2mm)2％、地山土粒(径5mm)5％混入
2　10ＹＲ3/4暗褐色土　しまり普通　粘性やや強　シルト～粘土質
　地山土塊(径10～30mm)30％混入

第41図　柱穴様ピット（３）

第３節　遺構外出土遺物

１　概要

遺構外出土遺物には縄文時代の土器・石器・土製品・石製品があり、これに少数ではあるが近世以降の遺物が加わる。遺構外出土遺物のうち主体となるのは、縄文時代でも特に後期後葉の土器である。縄文時代後期後葉の土器は、調査区南端の沢状地形をなす箇所から密集して出土したため、当初はこの区域を捨て場（ＳＴ07）として精査を進めたが、顕著な人為的堆積を認めることができず、さらに同地区からは縄文時代晩期の土器が混在した状態で出土したため、捨て場と認定する根拠を欠くと判断し、これらの遺物を全て遺構外出土として扱った。ただし後期後葉の土器は調査区内でも特にこの区域に集中しており、本来は沢状地形を埋め立てる形で捨て場を形成していた可能性もあると考える。なお沢状地形をなす区域での遺物の出土は谷頭部に集中しており、調査区界付近は谷地田として利用されていたためか遺物はほとんど出土しなかった。

２　縄文時代

（１）土器（第42～47図、第10・11表、図版11・12）

縄文土器は前期中葉・中期前葉・中期後葉・後期前葉・後期後葉・晩期前半に相当するものが出土し、数量的には後期後葉が主体となる。以下に各時期毎の概要を記し、詳細については第10・11表に観察表を示す。

前期中葉の土器（第42図18～20、第10表）

Ｄ区において少量出土した。全て深鉢の破片資料である。器面全体に撚糸文を施すもの（18・19）、隆帯上と隆帯に沿って刺突を施すもの（20）がある。円筒下層ａ式もしくは同ｂ式のいずれかに比定するものと考える。

中期前葉の土器（第42図21～24、第10表）

深鉢の破片が少量出土した。21～23は口縁と横位に巡る隆帯の間に、絡条体や縄の側面圧痕を有す。円筒上層ａ式に比定可能であろう。24は大木７ａ式に前後する時期の所産と考える。

中期後葉の土器（第42図25～28、第10表）

深鉢破片がごく少量出土した。磨り消し縄文の手法を用いた区画文を展開するが、文様構成の詳細については不明である。大木９～10式期に相当すると考える。

後期前葉の土器（第42図29～36、第10表）

破片資料が少量出土した。器種は深鉢の他に壺が認められる。十腰内１式期に前後すると考える。

後期後葉の土器（第43～45図37～63、第11表、図版11・12）

先述の通り、後期後葉の土器は調査区南端の沢状地形をなす区域から多量に出土し、主体をなす。器種は、深鉢・台付鉢・鉢・注口土器・香炉形土器・単孔土器・ミニチュア土器が認められる。以下器種毎に概要を記す。深鉢は粗製品と精製品に区別され、さらに器形及び文様等に違いがある。粗製深鉢（37～45）の器形は、平底から胴部中位まで緩やかに立ち上がるが、口縁部の作りは、弱く内傾するもの（37・39・41～43）と直線的に開くもの（38・40）という若干の差異がある。文様は縄文を施すものと、条痕文を施すものがあり、量的には後者の方が多い。条痕文は、２本の近接する浅い

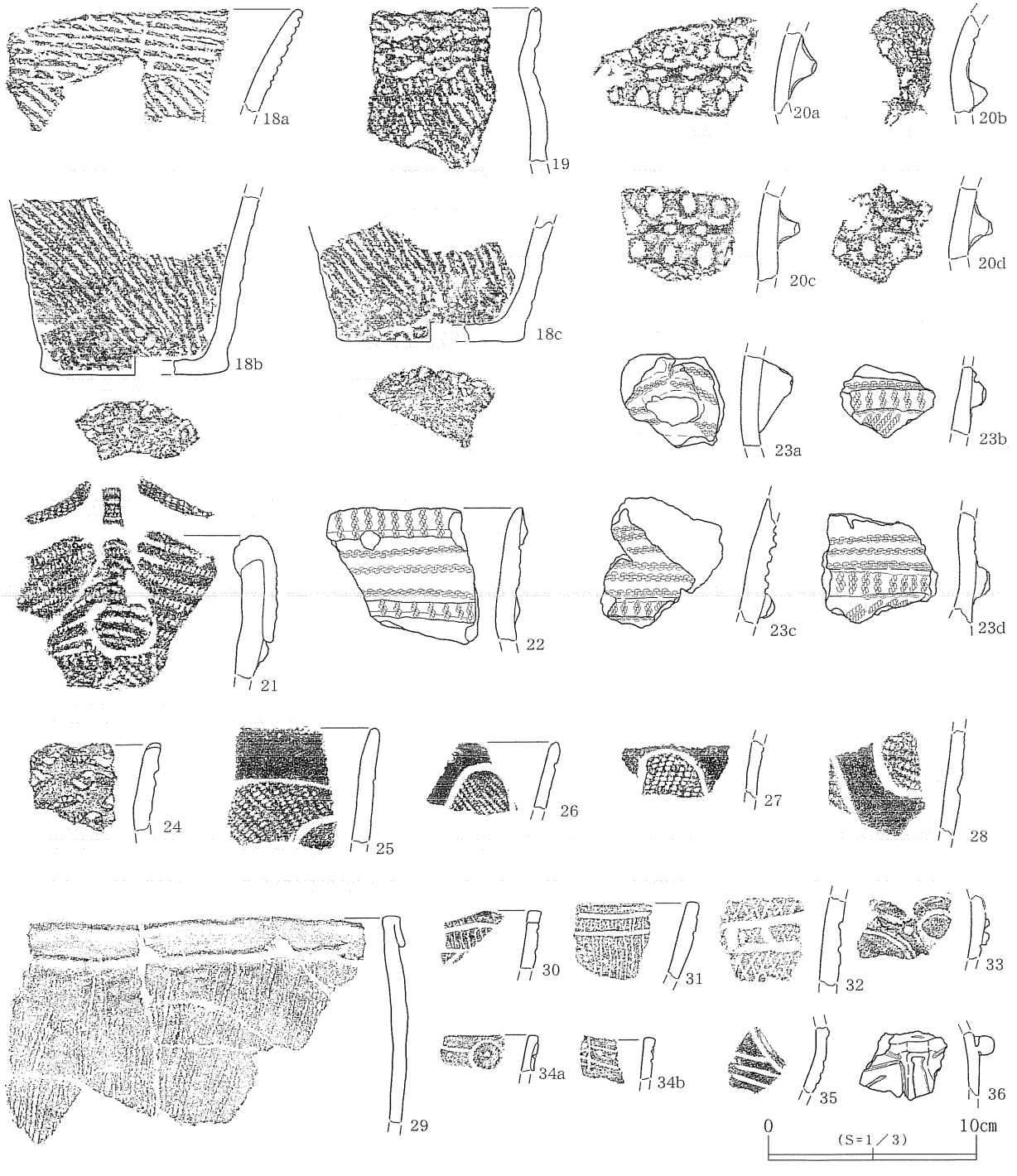
平行沈線が１つの単位となり、外面全体に密集した形で横位に施文される例（38～43）が大半を占め、内面にやや間隔をおいて縦位に施文される例（44・45）が少量加わる。条痕文に用いた原体の詳細は現段階では不明であるが、先述した１つの単位を表出する棒状の原体を数本束ねて施文したと考える。なお台付鉢（46・47）は、条痕文が横位施文された深鉢の底部に単純に台部が付いたものであることから、粗製土器の範疇で捉えておく。精製深鉢（48～54）の器形は、大波状口縁をなすもの（48）、平口縁に突起が付くもの（50）、平口縁で括れを有し、短い口縁が直立気味に立ち上がり、胴部は球状をなすもの（52～54）がある。48は波頂部が山形をなし、波底部には小突起が付され、口縁に沿う縄文帯下には入組帯状文が展開する。49は親指状を呈する突起部分で、頂部から沈線が垂下し、貼瘤が付く。50は突起部分を欠するが、突起下を起点とした磨り消しによる文様が展開する。51は口縁部の形状が不明であるが、レンズ状の磨り消し部をもつ入組帯状文が施される。52は平口縁が縄文帯で縁取られ、頸部にも２段の縄文帯を有し、胴部には入組帯状文が展開する。53は口縁部から頸部まで52とほぼ同じ文様構成をとり、胴部にはクランク状文と縄文帯が展開する。この胴部に展開する区画文中には、同じ撚りの縄を異方向に回転施文した羽状縄文が施される。54は頸部以下に縄文のみ施されたものであるが、口縁部のミガキ調整は比較的丁寧であり、ここでは精製品の中に含めておく。鉢（55）は外面をミガキ調整し、底面がやや丸みをもつものが１点出土した。注口土器（56～58）は破片資料がほとんどで、全体の形状について明らかではないが、56のような球状を呈する小形品が主体となると推定する。58は外面に貼瘤を有するもので、内面調整が甘く注口土器の一部と判断する。59は屈曲が強く、円形の窓が空く小形の土器で、香炉形土器の一部であると考える。外面には密集した条線による弧状文が施される。単孔土器は２点出土した（60・61）。60は上部を欠失するが下部はほぼ完形で、割れ口は擬口縁状を呈する。２条の縄文帯が間隔をおいて横位に展開し、下位の縄文帯中に穿孔がある。なお外面の一部には帯状のアスファルトの付着が認められ、亀裂が生じた後補修したのであろう。61も上部を欠失するが、60とほぼ同様の形態をなし、縄文帯中に穿孔がある。縄文帯間にはさらに入組文と弧線連結文が表出される。ミニチュア土器は２点出土した。62は大波状口縁を呈する深鉢の、63は台付鉢の模製品であろう。

これらの土器の大半は、特に精製深鉢において貼瘤が少なく口縁端部が縄文帯で縁取られる点を重視し、いわゆる瘤付土器の初期段階に位置するものと考える。

晩期前半の土器（第46・47図64～80、第11表、図版12）

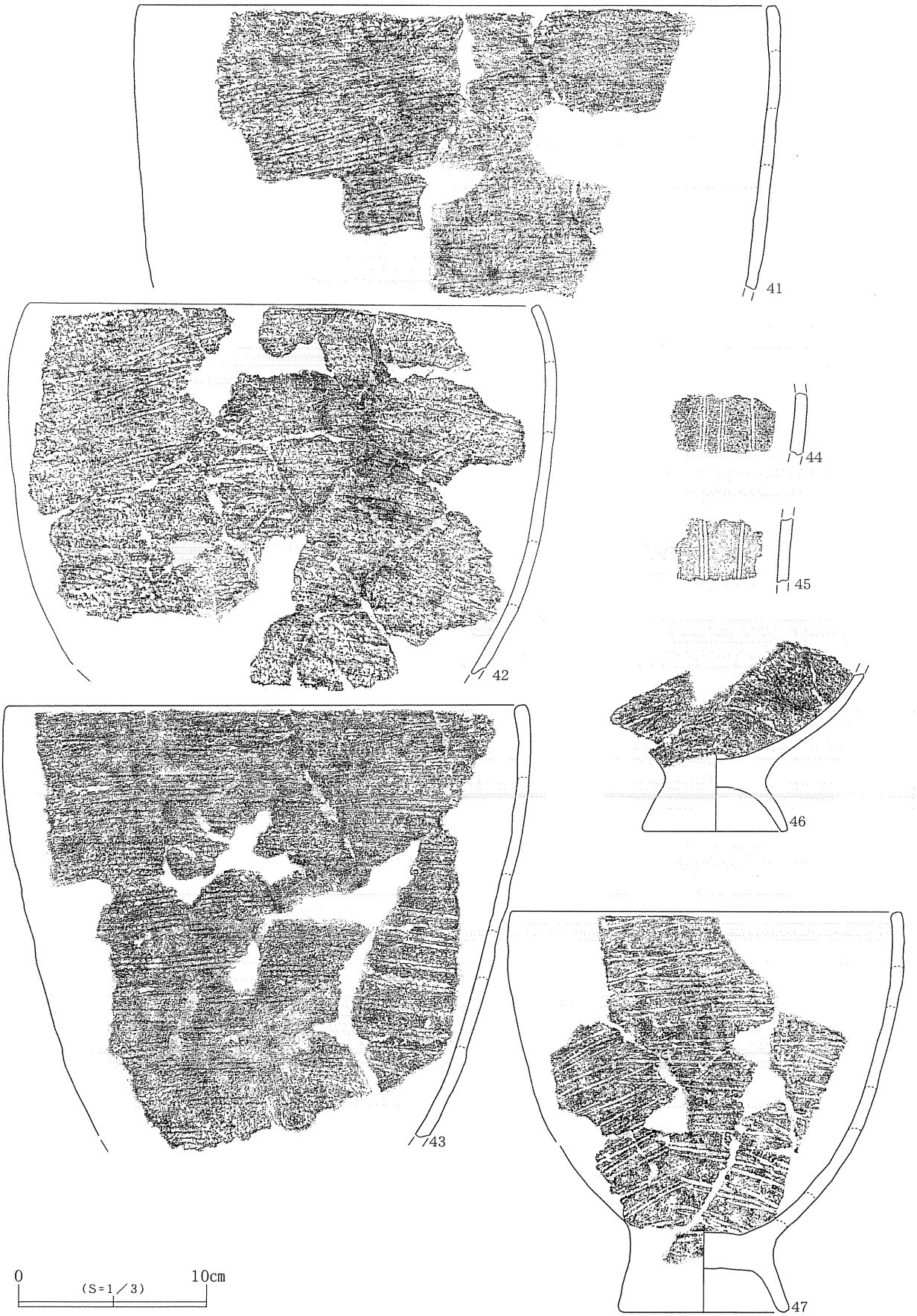
晩期前半の土器として、大洞Ｂ式から同Ｃ$_1$式に相当するものを一括して示す。量的には後期後半に次ぐが、決して多くはない。器種は深鉢・台付鉢・鉢・浅鉢・壺が認められる。深鉢（64～68）の器形は、底部から口縁部まで器壁が緩やかに立ち上がる単純なもの（67）と、括れを有し口縁部が短く外反するもの（64～66・68）がある。いずれも地文として単節ＬＲの縄を横位回転施文している。64～66は口縁部に刻みを起点とした上向き弧線や、入組文が表出される。大洞Ｂ式に相当しよう。67・68の口唇部には低いＢ字状突起が付く。大洞Ｃ$_1$式期に相当するものであろうか。台付鉢（69）は１点のみの出土である。列点文や、沈線と一体化したＢ字状突起から大洞Ｃ$_1$式に比定する。鉢（70～74）は破片資料のみで、全体の形状は知り得ない。概ね大洞Ｃ$_1$式期に前後するものと考える。なお、74は口縁の一部が強く屈曲しており、片口付きの鉢であると判断する。浅鉢（75～78）は全体の形状を窺うことのできるもの１点と、破片資料数点を得た。75は口径と底径の差が少なく、底部

は平坦である。磨り消しの手法を用いて雲形文を表出し、内外面はミガキ調整が施され、漆と考える褐色物質の付着が認められる。大洞Ｃ$_1$式に比定するものと判断し、他の破片資料もほぼ同時期に相当すると考える。壺（79・80）は破片資料のみ出土した。79は頸部資料で、隆帯と一体化したＢ字状突起が４単位で付き、外面は赤色塗彩される。大洞Ｃ$_1$式に比定するものと考える。80は口縁部資料で、ミガキ調整された口縁部と、ＲＬの縄が縦位回転施文された胴部を、頸部に巡る浅い沈線で画している。

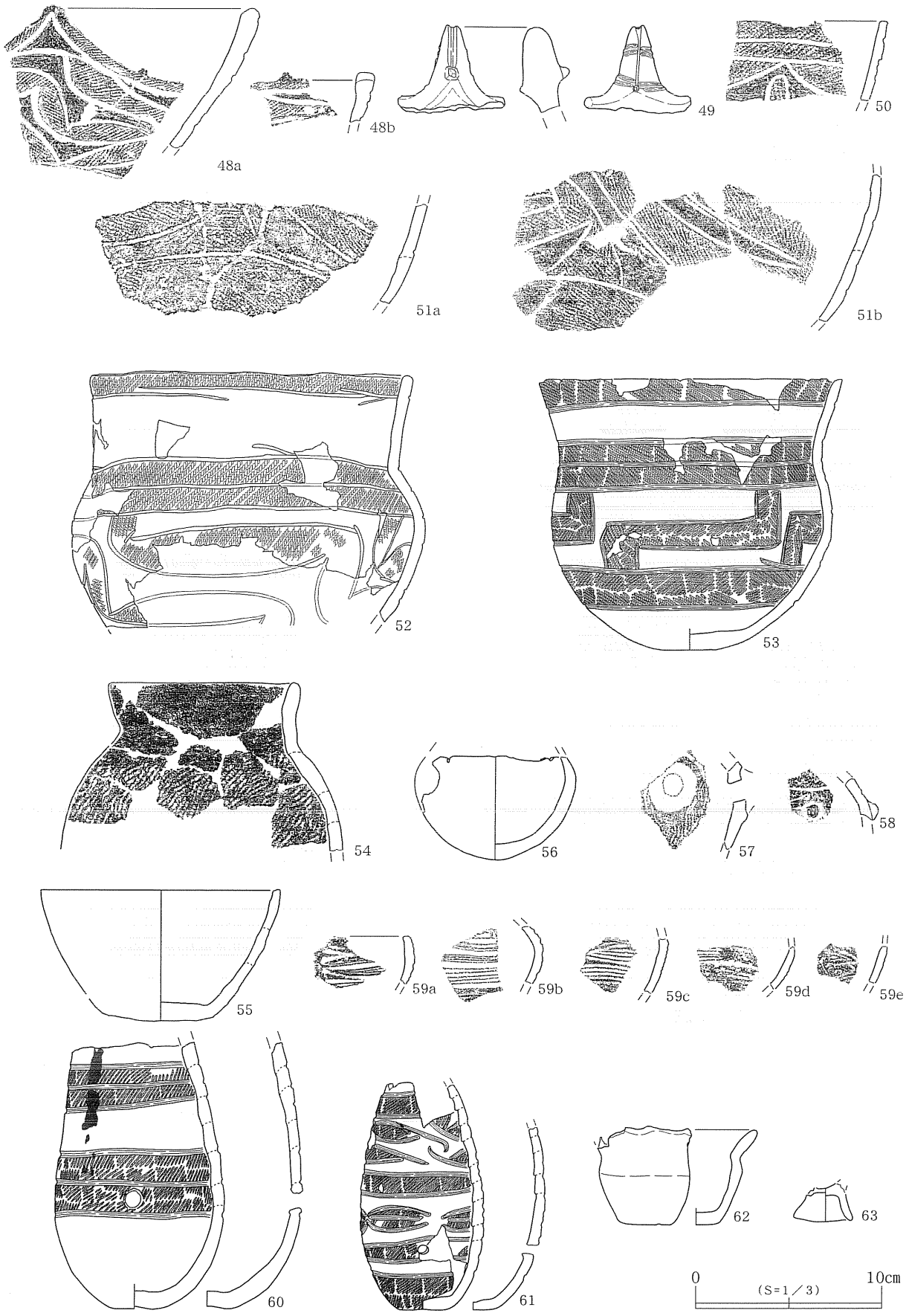


第42図　遺構外出土土器（１）縄文時代前期中葉・中期前葉・中期後葉・後期前葉

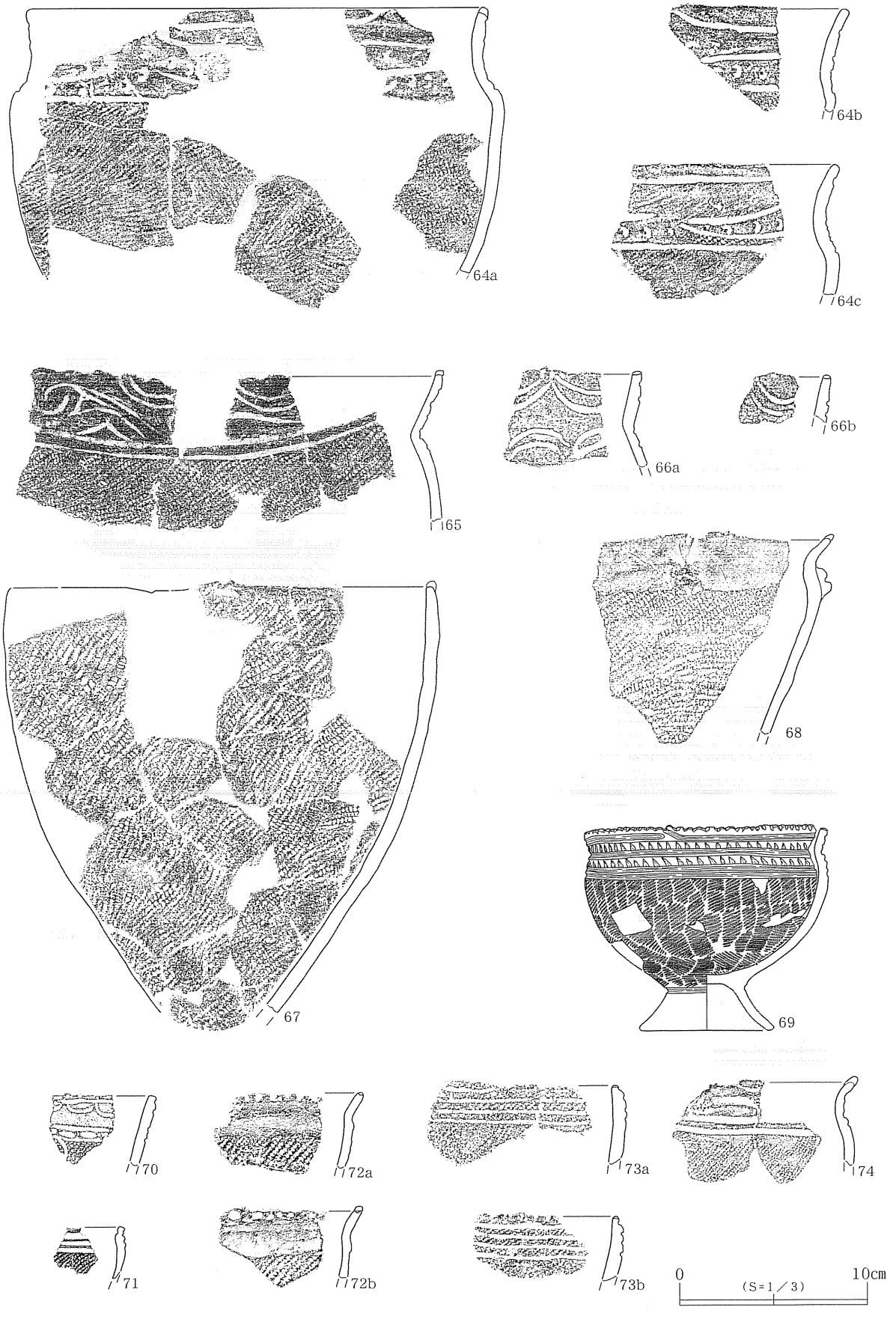
第43図　遺構外出土土器（２）縄文時代後期後葉①



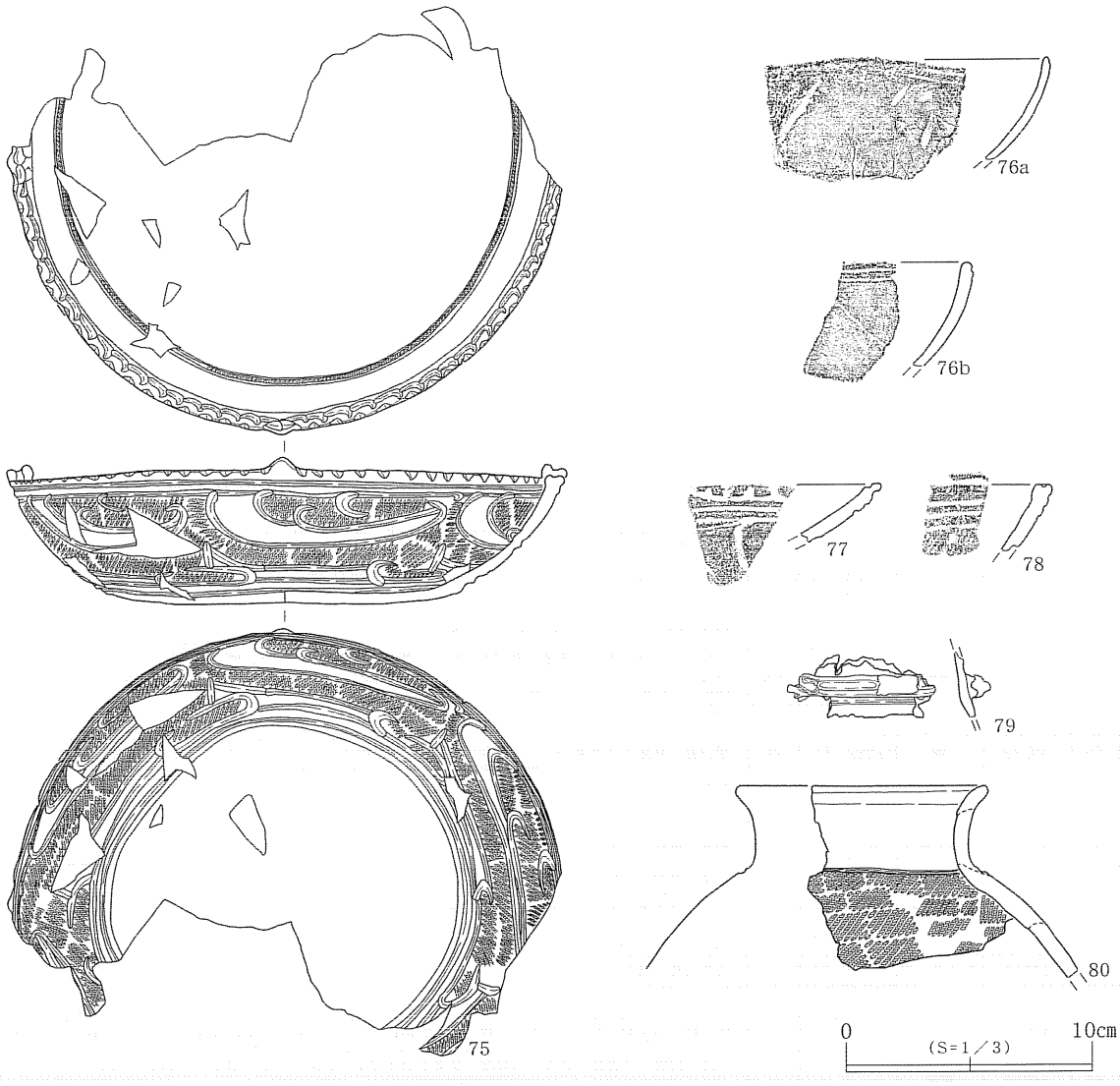
第44図　遺構外出土土器（３）縄文時代後期後葉②



第45図　遺構外出土土器（４）縄文時代後期後葉③



第46図　遺構外出土土器（５）縄文時代晩期前半①



第47図　遺構外出土土器（６）縄文時代晩期前半②

第10表　遺構外出土土器観察表（１）

番号	出土位置	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	文様等の特徴
18	MH52	深鉢	－	(90)	－	平口縁、口縁部：単軸絡条体第１類（Ｒ横）、胴部：単軸絡条体第１類（Ｒ縦）、底部：敷物痕？
19	MH52	深鉢	－	－	－	小波状口縁、口唇部：刺突、口縁部：結節回転？、胴部：単軸絡条体第１類（Ｒ縦）
20	MH50	深鉢	－	－	－	口縁部：結節回転、隆帯頂部・隆帯上下に刺突
21	LO78	深鉢	－	－	－	波状口縁、口唇部：絡条体圧痕（Ｌ）、口縁部：ボタン状貼付・絡条体圧痕（Ｌ）、胴部：縄文（ＲＬ横）
22	LO78	深鉢	－	－	－	口唇部：縄圧痕（ＬＲ）、口縁部：縄圧痕（ＬＲ）、隆帯：縄圧痕（ＬＲ）
23	MK47	深鉢	－	－	－	口縁部：縄圧痕（ＬＲ）、隆帯上・隆帯下部縄圧痕（ＬＲ）、胴部：縄文（ＬＲ横）
24	MJ68	深鉢	－	－	－	波状口縁、口唇部：円形刺突、口縁部：結節回転？
25	MD44	深鉢	－	－	－	平口縁、口縁部：縄文（ＬＲ縦）→区画沈線文
26	MK46	深鉢	－	－	－	平口縁、口縁部：縄文（ＬＲ縦）→区画沈線文
27	MC45	深鉢	－	－	－	口縁部：縄文（ＲＬＲ縦）→区画沈線文
28	MD45	深鉢	－	－	－	口縁部：縄文（ＲＬＲ横）→区画沈線文
29	MK47	深鉢	－	－	－	折り返し口縁、胴部：単軸絡条体第１類（Ｒ縦）
30	MG39	深鉢	－	－	－	波状口縁、口縁部：単軸絡条体第１類（Ｒ縦）→２条平行沈線
31	MH55	深鉢	－	－	－	口縁部：単軸絡条体第１類（Ｒ縦）→２条平行沈線
32	MK46	深鉢	－	－	－	胴部：単軸絡条体第５類（Ｒ縦）→区画沈線文
33	MK47	深鉢	－	－	－	胴部：隆帯と沈線による区画文・隆帯交差部に刺突
34	MK47	深鉢	－	－	－	波状口縁、口縁部：２条平行沈線間連続刺突→ボタン状貼付中央部刺突
35	MG39	壺	－	－	－	胴部：沈線文→ミガキ
36	MF38	壺	－	－	－	頸部：橋状把手、胴部：把手から２条の垂下隆帯・区画沈線文、外面：赤色塗彩

第11表　遺構外出土土器観察表（2）

番号	出土位置	器種	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	文様等の特徴
37	MF39	深鉢	(240)	85	328	平口縁、外面：縄文（ＬＲ横）
38	MF39	深鉢	230	75	198	平口縁、口唇部：内削ぎ状、外面：条痕文（横）
39	MF39	深鉢	272	100	325	平口縁、外面：条痕文（横）
40	MF39	深鉢	240	－	－	平口縁、外面：条痕文（横）
41	MG39	深鉢	(340)	－	－	平口縁、外面：条痕文（横）
42	MF39	深鉢	(272)	－	－	平口縁、外面：条痕文（横）
43	MG39	深鉢	276	－	－	平口縁、外面：条痕文（横）
44	MF39	深鉢	－	－	－	内面：条痕文（縦）
45	MC44	深鉢	－	－	－	内面：条痕文（縦）
46	MF39	台付鉢	－	74	－	外面：条痕文（横）
47	MG39	台付鉢	(208)	88	214	平口縁、外面：条痕文（横）
48	MF39	深鉢	－	－	－	波状口縁、口縁端部縄文帯（ＬＲ）、口縁部：縄文（ＬＲ）→入組帯状文・ミガキ
49	MG39	深鉢	－	－	－	口縁部突起：貼瘤→頂部より垂下する沈線
50	MF39	深鉢	－	－	－	平口縁、口縁端部２条縄文帯（ＬＲ横）、口縁部：縄文（ＬＲ）→区画沈線文・ミガキ
51	MG39	深鉢	－	－	－	胴部：縄文（ＬＲ）→入組帯状文→内部レンズ状磨消
52	MF39	深鉢	173	－	－	平口縁、口縁端部：１条縄文帯（ＬＲ横）、頸部：２条縄文帯（ＬＲ横）、 胴部：縄文（ＬＲ）→入組帯状文、外面：ミガキ
53	MG39	深鉢	161	32	145	平口縁、口縁端部：１条縄文帯（ＲＬ横）、頸部：２条縄文帯（ＲＬ横）、 胴部：羽状縄文（ＲＬ縦・横）→クランク状文、外面：ミガキ
54	MF39	深鉢	103	－	－	平口縁、口縁部：ミガキ、胴部：縄文（ＬＲ横）
55	MG39	鉢	(128)	56	70	平口縁、外面：ミガキ
56	MG39	注口土器	－	－	－	外面：無文
57	MG38	注口土器	－	－	－	外面：縄文？、孔径：9mm
58	MG39	注口土器？	－	－	－	胴部：貼瘤・沈線文
59	MF38	香炉形土器	－	－	－	外面：櫛歯状条線弧状文
60	MG39	単孔土器	－	23	－	胴部：２条縄文帯（ＬＲ横）、底部：窪み、孔径：9mm 、外面：亀裂部にアスファルト塗布
61	MG38	単孔土器	－	22	－	胴部：縄文帯（ＬＲ横）・縄文帯間に入組文・縄文帯間に弧線連結文、孔径：6mm
62	MG39	ミニチュア	－	28	－	波状口縁、外面：無文
63	MG39	ミニチュア	－	31	－	台部
64	MC46	深鉢	(244)	－	－	平口縁、口唇部：刻み、口縁部：縄文（ＬＲ横）→入組文・刺突（半截竹管？）、胴部：縄文（ＬＲ横）
65	MF39	深鉢	－	－	－	小波状口縁、口唇部：刻み、口縁部：２条上向き弧線・入組三叉文、頸部：２条平行沈線、 胴部：縄文（ＬＲ横）
66	MD43	深鉢	－	－	－	平口縁、口唇部：刻み、口縁部：２条上向き・下向き弧線
67	MC43	深鉢	(225)	－	－	平口縁、口唇部：Ｂ字状突起、胴部：縄文（ＬＲ横）
68	MF43	深鉢	－	－	－	平口縁、口唇部：Ｂ字状突起、頸部：Ｂ字状突起（縦）、胴部：縄文（ＬＲ横）
69	MG39	台付鉢	129	71	109	小波状口縁、口唇部：刻み・Ｂ字状突起、頸部：列点文→４条平行沈線、胴部：縄文（ＬＲ横）
70	ME42	鉢	－	－	－	平口縁、口縁端部：上向き弧線→横位沈線、口縁部：２条平行沈線→連続する短沈線、 胴部：縄文（ＬＲ横）→沈線
71	MF39	鉢	－	－	－	内面口縁端部：横位沈線、平口縁、口縁部：３条平行沈線←胴部：縄文（ＬＲ横）
72	MG39	鉢	－	－	－	小波状口縁、口唇部：刻み・Ｂ字状突起、頸部：無文、胴部：縄文（ＬＲ横）
73	MG39	鉢	－	－	－	平口縁、口唇部：細かい刻み、口縁部：４条平行沈線←胴部：縄文（ＬＲ横）
74	MC45	鉢	－	－	－	平口縁、口唇部：Ｂ字状突起？・片口、頸部：２条平行沈線←胴部：縄文（ＬＲ横）
75	MD43	浅鉢	(227)	141	60	内面：横位隆帯→縄文（ＬＲ横）、平口縁、口唇部：Ａ字状突起・刻み、口縁端部：刻み、 口縁部：２条平行沈線→胴部：縄文（ＬＲ）→磨消雲形文、内外面：ミガキ・漆塗布
76	LP79	浅鉢	－	－	－	平口縁、口縁部：２条平行沈線
77	MG39	浅鉢	－	－	－	平口縁、口唇部：沈線、口縁端部：沈線文、口縁部：２条沈線←胴部：雲形文
78	MG38	浅鉢	－	－	－	平口縁、口唇部：沈線、口縁部：３条沈線←胴部：縄文（ＬＲ？）→磨消雲形文？
79	MD43	壺	－	－	－	頸部：２条隆帯・Ｂ字状突起、外面：ミガキ・赤色塗彩
80	MF39	壺	(99)	－	－	平口縁、口縁部：ミガキ（縦）、頸部：沈線←胴部：縄文（ＲＬ縦）

（２）石器（第48～57図、第12表）

遺構外からは総点数846点の石器が出土した。その内訳は、剥片石器類が石槍１点・石錐４点・楔形石器３点・石箆２点・石匙12点・不定形石器145点、微細剥離痕のある剥片（以下U.F.）89点、剥片483点、砕片27点、石核21点、礫石器類が敲磨器類14点・石皿１点、磨製石斧４点、礫40点である。礫を除く石器について、以下に概要を記す。なおこれらの石器は先述した遺構外出土土器のいずれかの時期に相当するのであろうが、層位や出土状況等から詳細な時期を決定するのは困難であった。出土位置・石質・法量については、第12表に一覧を示す。

石槍（第48図81、第12表）

両面調整により平坦な尖部を作出したもので、頁岩製１点が出土した。基部を折損するが、平面形態は木葉形をなすと考える。尖頭状を呈するスクレイパーである可能性もある。

石錐（第48図82～85、第12表）

剥片の縁辺に尖鋭な錐部を作出したもので、頁岩製４点が出土した。薄い縦長剥片の側縁全体に両面調整を施して錐部を作出するもの（82～84）と、厚い横長剥片の端部に急斜度調整を加え錐部を作出するもの（85）がある。

楔形石器（第48図86～88、第12表）

頁岩製３点が出土した。両極剥離の諸特徴を備えたもので、剥片を素材とし、平面形は全て四辺形を呈する。86は断面形が凸レンズ状をなし、鋭利な四辺のほぼ対向した位置に２対の小剥離の集中が認められ、回転しながら使用したものと考える。87は小剥離の集中する縁辺に対向する部分が加撃の際にハジケ飛んでいる。88は刃部と直交した形で剪断面を有する。

石箆（第48図89・90、第12表）

頁岩製２点が出土した。素材には縦長剥片と横長剥片を用いている。いずれも打面は除去され、主要剥離面を大きく残し、背面側を集中的に剥離して平面形態を短冊形に仕上げている。

石匙（第49図91～102、第12表）

素材剥片の一端につまみをもつもので、頁岩製12点が出土した。器体の長軸線に対し、つまみの付く角度によって、縦型（91～96）・斜型（97～99）・横型（100・101）に分類する。縦型石匙は概ね主要剥離面側からの調整剥離により刃部を整形している。またつまみは例外なく素材剥片の打面付近に作出されており、６点中５点が打面をわずかに残している。斜型石匙も基本的に素材の打面側につまみをもつが、99は素材の折れ面に調整を加え、つまみを作り出している。横型石匙のうち、100は三角形平面をなし、調整剥離を両面に行って素材面を殆ど残さず、分厚い点で他の石匙とは様相を異にしている。101は唯一、素材の打面とほぼ対向した位置につまみがあり、つまみにはアスファルトと判断する黒色物質が付着している。なお102は整然とした平坦剥離の様相から縦型石匙の端部破片であると判断した。

不定形石器（第50～53図103～152、第12表）

石匙など「定形的」と呼ぶことができる剥片石器類のほかに、剥片及び石核を素材とし、調整剥離もしくは折断調整をもつものを不定形石器として扱った。145点出土し、全体で167点ある剥片石器類の約87％を占める。これらの不定形石器を素材の違いや調整剥離の特徴などから、以下の12類に分類した。

１類（103）石核を素材とし、連続的な調整剥離を施して直線的な刃部を作出するもの。刃部は剥片剥離作業に伴う打面調整とは様相を異にする。頁岩製１点が出土した。

２類（104～125）剥片を素材とし、縁辺に連続的な調整剥離を施し鋭角な刃部を作出するもの。調整剥離の施される部位によって以下に細分する。２ａ類（104～108）片側縁に調整剥離を行うもので、頁岩製34点が出土した。２ｂ類（109～115）両側縁に調整剥離を行うもので、頁岩製９点が出土した。２ｃ類（116～118）端部に調整剥離を行うもので、頁岩製26点・玉髄製１点が出土した。２ｄ類（119～121）片側縁と端部に調整剥離を行うもので、頁岩製11点が出土した。２ｅ類（122）両側縁と端部に調整剥離を行うもので、頁岩製５点が出土した。２ｆ類（123～125）調整剥離が頭部側にまで及ぶもので、頁岩製５点・黒曜石製１点が出土した。２類は全体で92点出土し、不定形石器と分類した石器のうち63％を占め、主体をなしている。

３類（126・127）素材剥片の端部に主要剥離面側から調整剥離を行い、急斜度の刃部を設けるもの。頁岩製５点が出土した。

４類（128）素材剥片の縁辺に連続的な調整剥離を行い抉入部を設けたもの。頁岩製3点が出土した。

５類（129～135）素材剥片の縁辺に、やや間隔をあけて大きめの調整剥離を行い、鋸歯状の刃部を作出したもの。頁岩製13点が出土した。

６類（136）素材剥片の主要剥離面側に連続的な調整剥離を施し、平面形態を長方形に仕上げたもの。刃部は鋭角をなす。頁岩製１点が出土した。

７類（137・138）素材剥片の背面側に連続的な調整剥離を施し、平面形態を木葉形に仕上げたもの。刃部は鋭角をなす。頁岩製２点が出土した。

８類（139）素材剥片の背面側に急斜度の調整剥離を施し、平面形態を長方形に仕上げたもの。刃部は鈍角をなし、断面形は台形を呈する。頁岩製１点が出土した。

９類（140～144）折損した剥片素材の折れ面に連続的な調整剥離を施し、刃部を作出したもの。頁岩製12点が出土した。

10類（145）折損した剥片素材の折れ面を打面として調整剥離を行うもの。頁岩製２点が出土した。

11類（146～148）素材剥片に複数の折れ面を有し、故意の折断調整が行われた可能性が高いと判断するもの。頁岩製８点が出土した。

12類（149～152）素材剥片に粗い両面加工を施すもの。頁岩製５点が出土した。折損したものが殆どで、破損率の高い使用法によると考える。

不定形石器の中には、９～11類に分類した折断後に調整剥離を行うものや、数カ所の折断面をもつものが一定量存在し、故意の折断調整が行われていたと考える。

U.F.（第54図153～162、第12表）

剥片の縁辺に微細剥離痕を有する石器をU.F.として扱った。頁岩製89点が出土した。素材の形状別では、縦長剥片を用いたもの（153～155）40点、横長剥片を用いたもの（156～158）21点、破損により素材の形状が不明のもの（159～162）28点となる。微細剥離痕が全て人為によるものか確実に判定するのは困難であるが、素材剥片がもつ鋭利な長辺を直接使用した可能性をもつと考える。なお破損品の中には折れ面に微細剥離痕を有するものが10点あり、折れ面と素材の面がなす直角に近い角度のエッジを必要としたのであろう。

剥片・砕片（第54図163、第12表）

黒曜石製の剥片（163）１点を図示する。なお黒曜石製石器は２点出土し、産地分析の結果ではいずれも男鹿産と同定されている。総点数で510点ある剥片・砕片の石材別の内訳は、頁岩493点、黒曜石１点、安山岩１点、凝灰岩１点、石英６点、鉄石英１点、玉髄２点、瑪瑙５点である。頁岩以外の石材が製品として加工された例は少ない。

石核（第55図164～170、第12表）

頁岩製20点が出土した。打面転移を頻繁に行い、最終的に柱状の形態をなすもの（164・165）、180°の打面転移を繰り返し、最終的に篦状の形態をなすもの（166～168）、比較的大きな剥離面を打面として固定し、ほぼ全周に剥片剥離を行うもの（169・170）などがある。単純最大長10cm以下の比較的小形のものが大半を占め、作業面の大きさを見る限りは、石匙など剥片石器類の素材の大きさには及ばない。石核は、剥片剥離に最低限必要な打角と打面の広さが確保できなくなるまで、徹底的に剥片生産が行われたのであろう。獲得した小形の剥片は、おそらくU.F.や石鏃などの小形製品の素材に充てたと推定する。

敲磨器類（第56図171～180、第12表）

円形もしくは棒状の礫を素材とし、磨痕・敲打痕等を有するものを敲磨器類として扱った。全部で14点出土した。素材とする礫の形状や機能部の様相から、以下に細分する。

１類（171・174・175）素材礫は比較的小形で楕円形平面を呈し、礫両面に敲打による深い凹部をもつもの。安山岩製１点・凝灰岩質安山岩製２点が出土した。

２類（172・173）素材礫はやや分厚く、楕円形平面をなし、礫平坦面に敲打による浅い凹部と磨面を有し、さらに礫側面を敲打するもの。安山岩製１点・凝灰岩質安山岩製１点が出土した。

３類（176）素材礫は扁平で一端が尖る平面形をなし、平坦部両面には敲打による凹部を有し、先鋭な部分を敲打するもの。安山岩製１点が出土した。

４類（177～179）棒状礫を素材とし、端部に剥離痕をもつもの。もしくは、その破損品と推定するもの。頁岩製２点・泥岩製３点・安山岩製２点が出土した。177は棒状礫の両端に剥離痕を有し、比較的小形の石核の粗割に用いるハンマー、もしくは剥片石器類に用いる二次加工具と推定する。178・179もこの種の礫石器の破損品であろう。

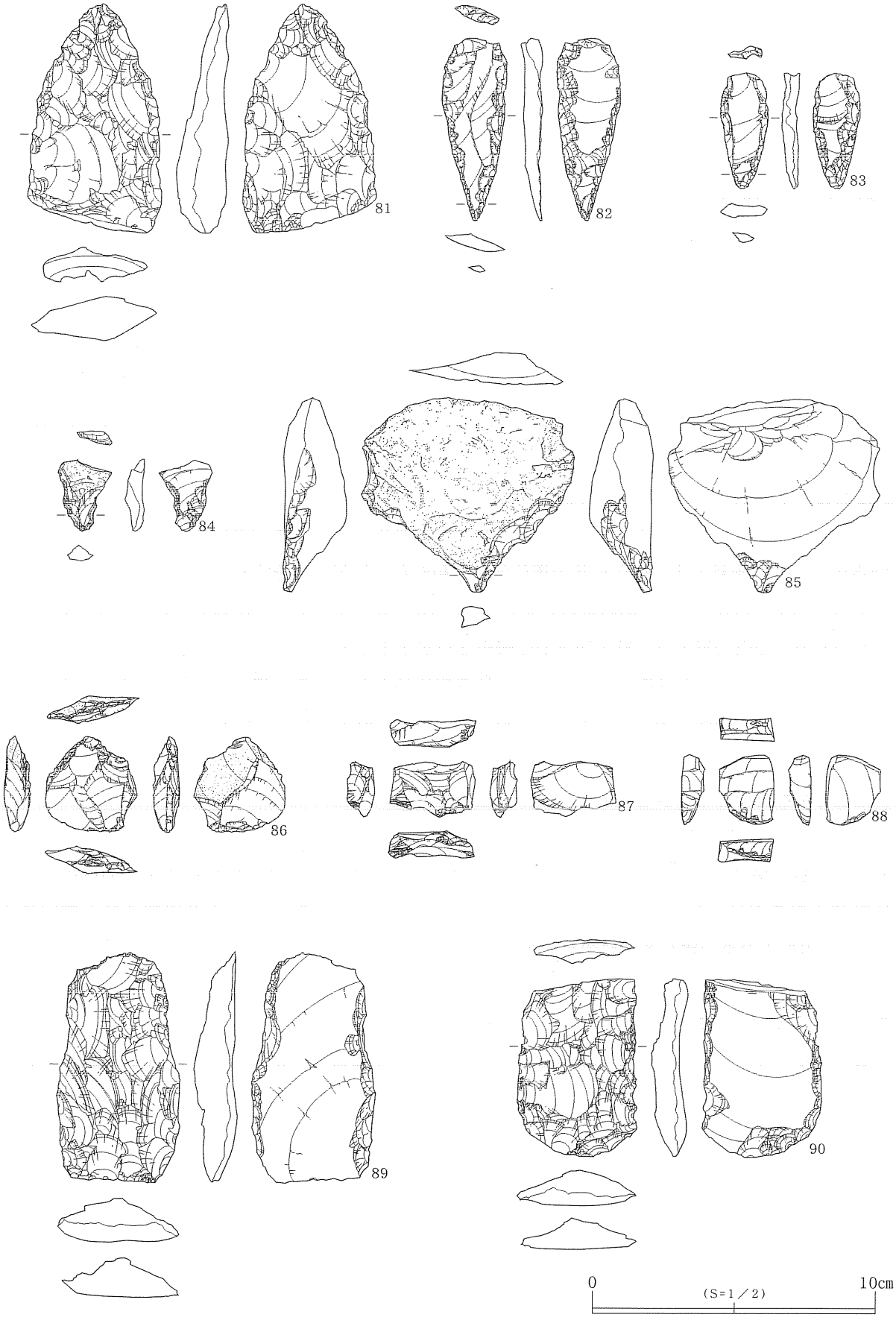
５類（180）棒状礫を素材とし、対向する平坦な２面を磨面とするもの。頁岩製１点が出土した。

石皿（第57図181、第12表）

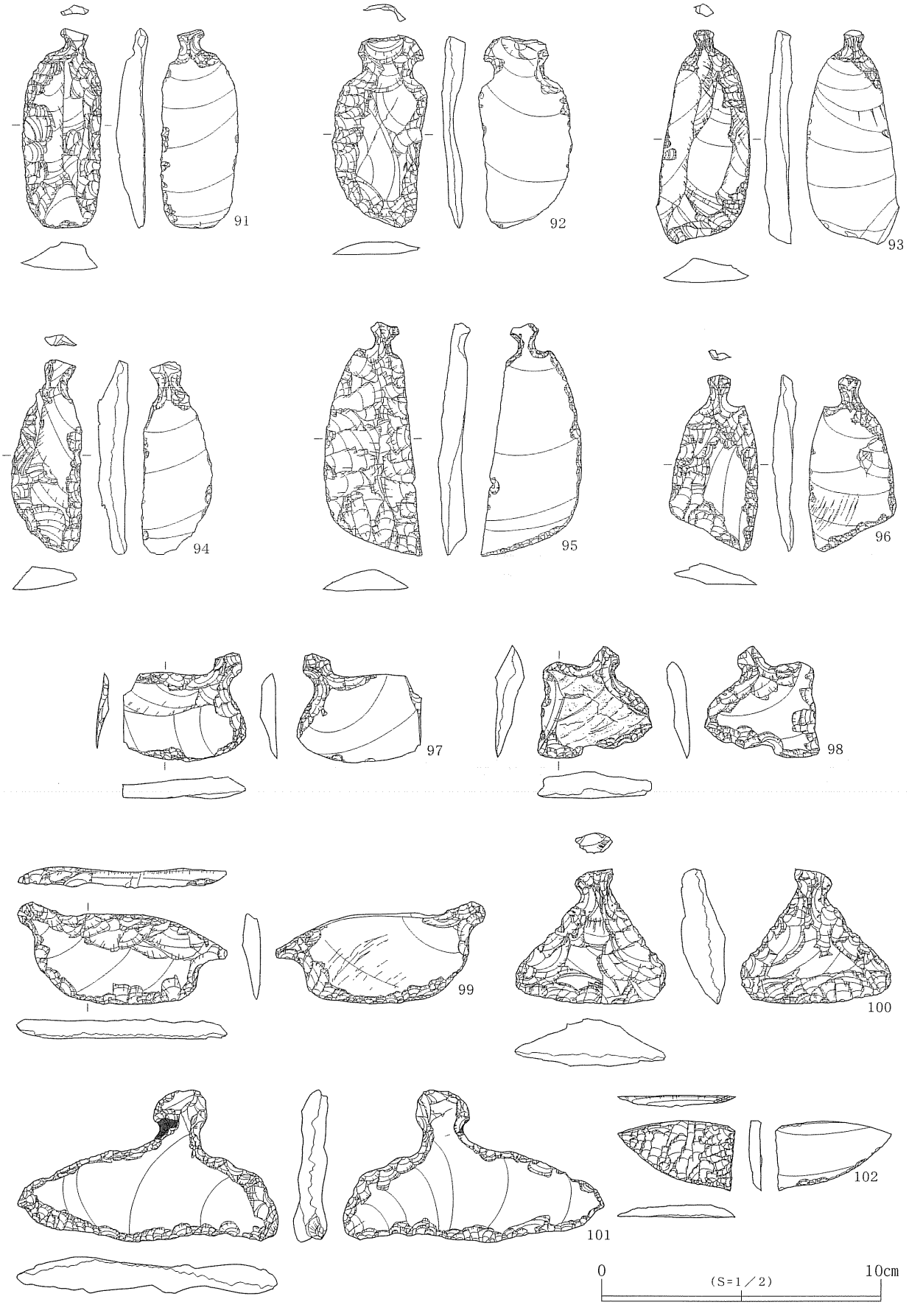
凝灰岩製１点が出土した。板状に剥離した大形礫の平坦な両面を使用し、また側縁に連続的な調整剥離を施している。

磨製石斧（第57図182～185、第12表）

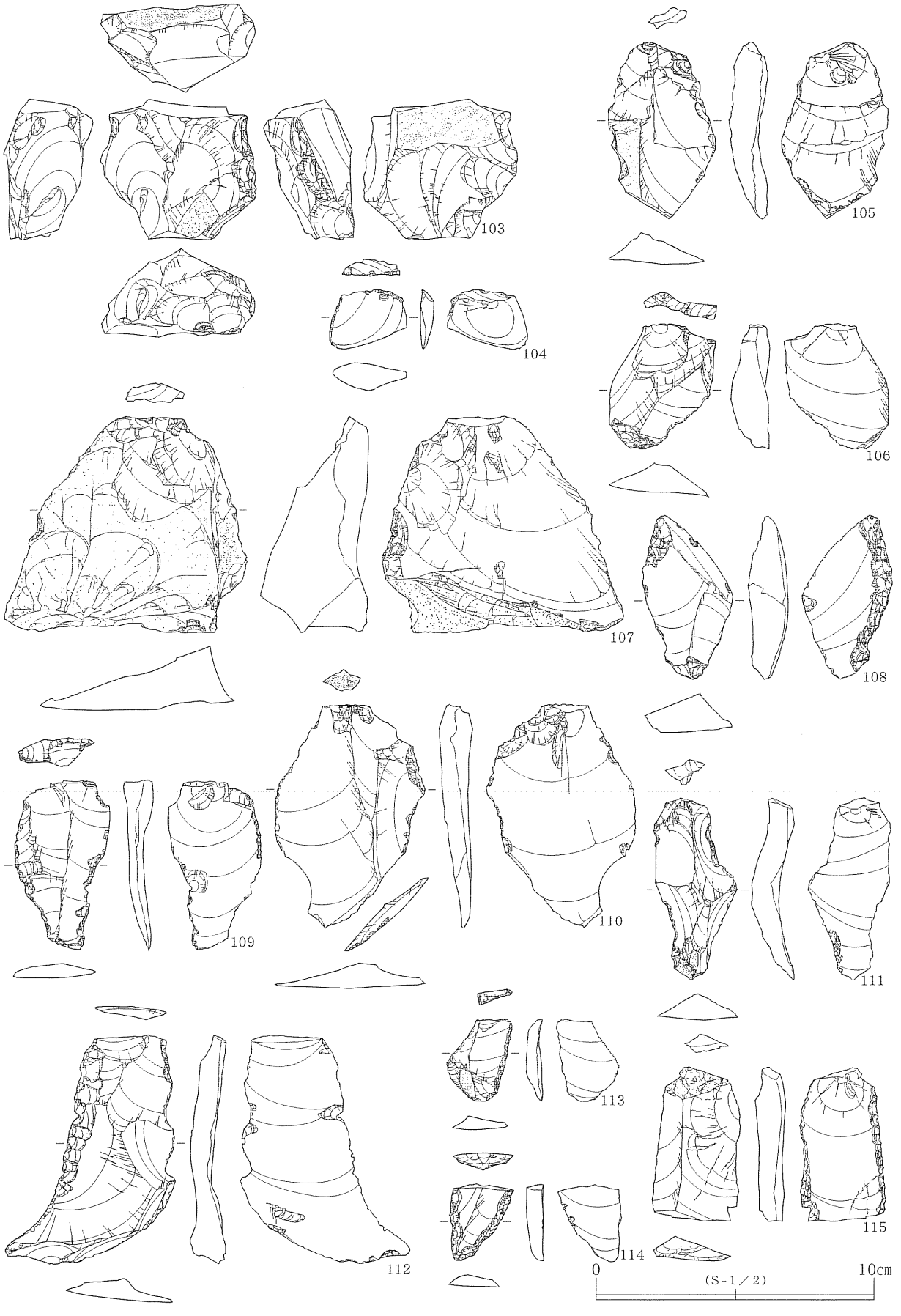
砂岩製２点、凝灰岩質安山岩製１点、石質不明１点が出土した。全て定角式の磨製石斧であり、形状や大きさから、刃部から基部に向かって幅がほとんど変化しない短冊形の平面をなし、長さ10cmを超える大形品（182）、刃部付近に最大幅があり弱い撥形平面をなす、長さ７～８cm程度の中形品（183・184）、同じく弱い撥形を呈し、精巧品と呼べるほど研磨の顕著な、長さ６cm程度の小形品（185）に分類する。なお182は基部を折損した後、折れ面を使用する敲石に転用している。



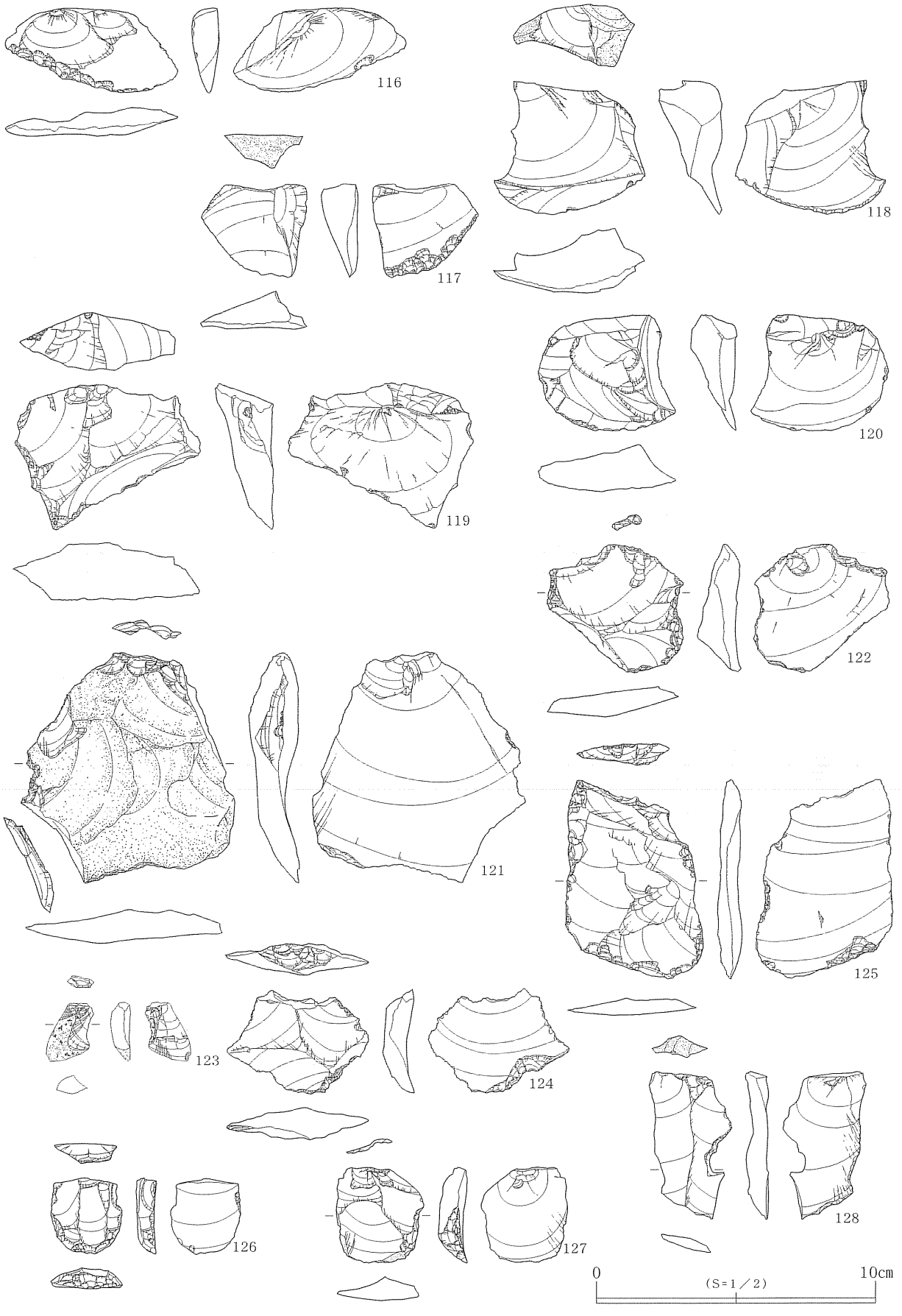
第48図　遺構外出土石器（1）石槍・石錐・楔形石器・石箆



第49図　遺構外出土石器（２）石匙

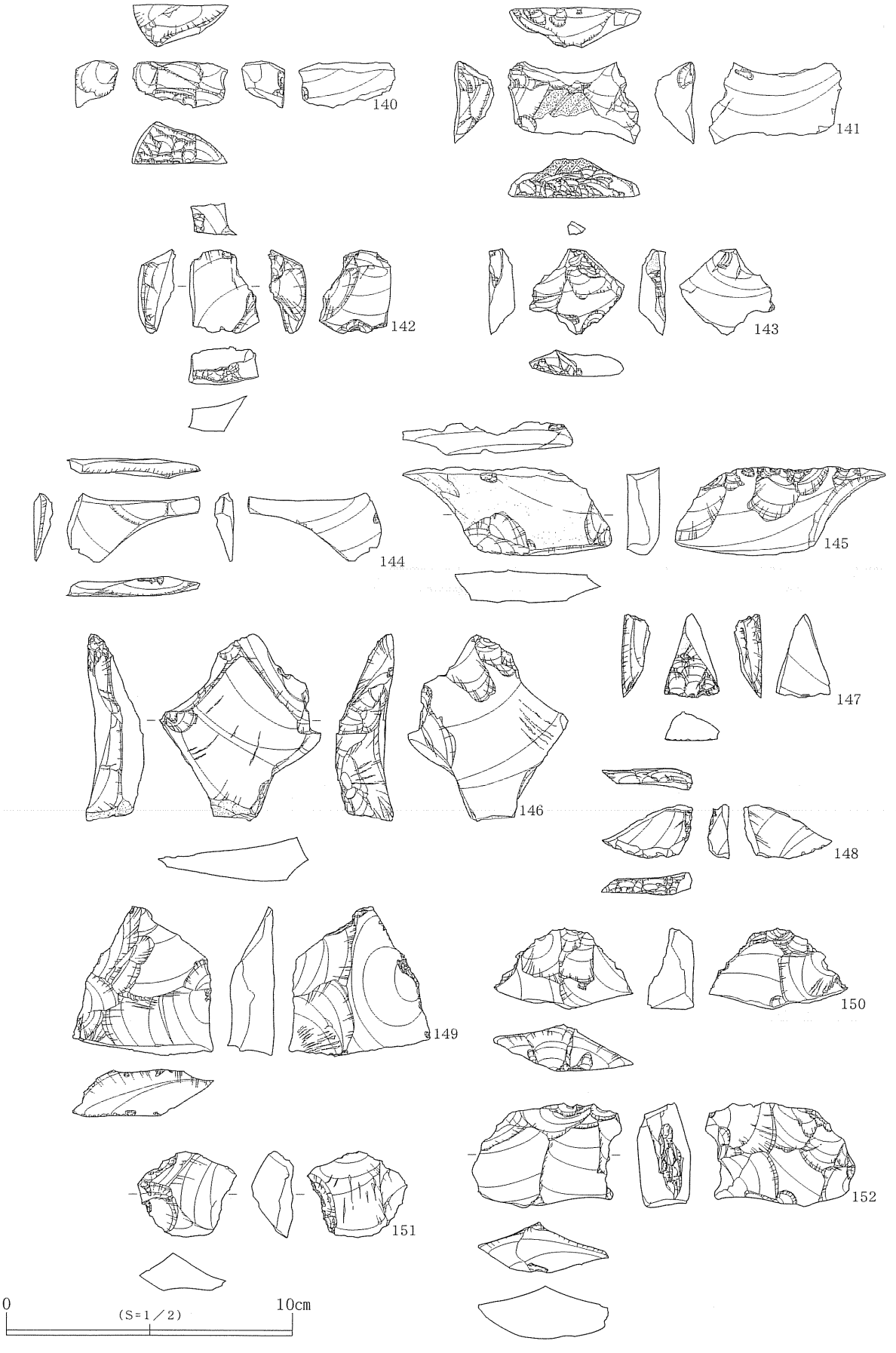


第50図　遺構外出土石器（３）不定形石器１～２ｂ類



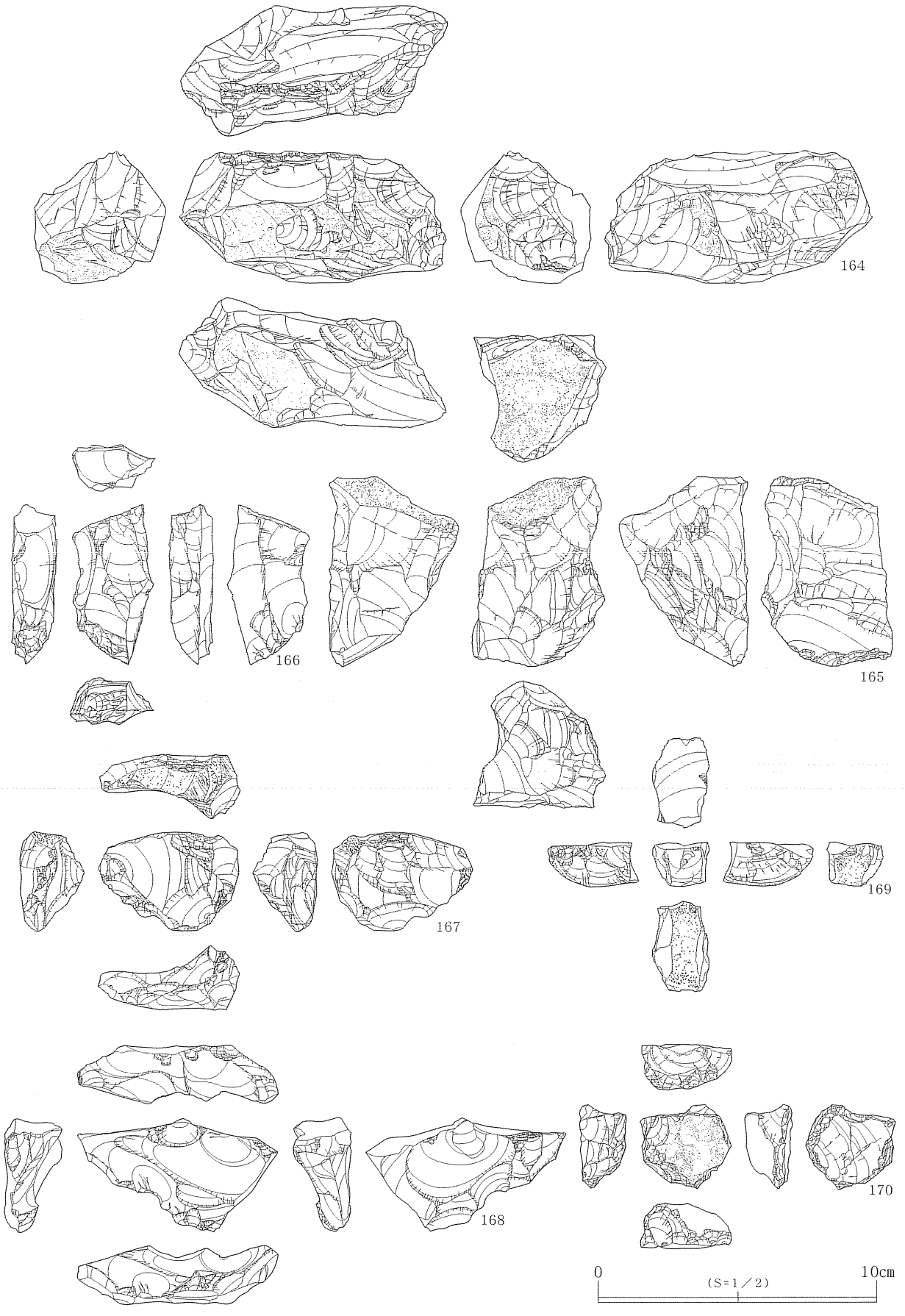
第51図　遺構外出土石器（４）不定形石器２ｃ類～４類

第52図　遺構外出土石器（５）不定形石器５～８類

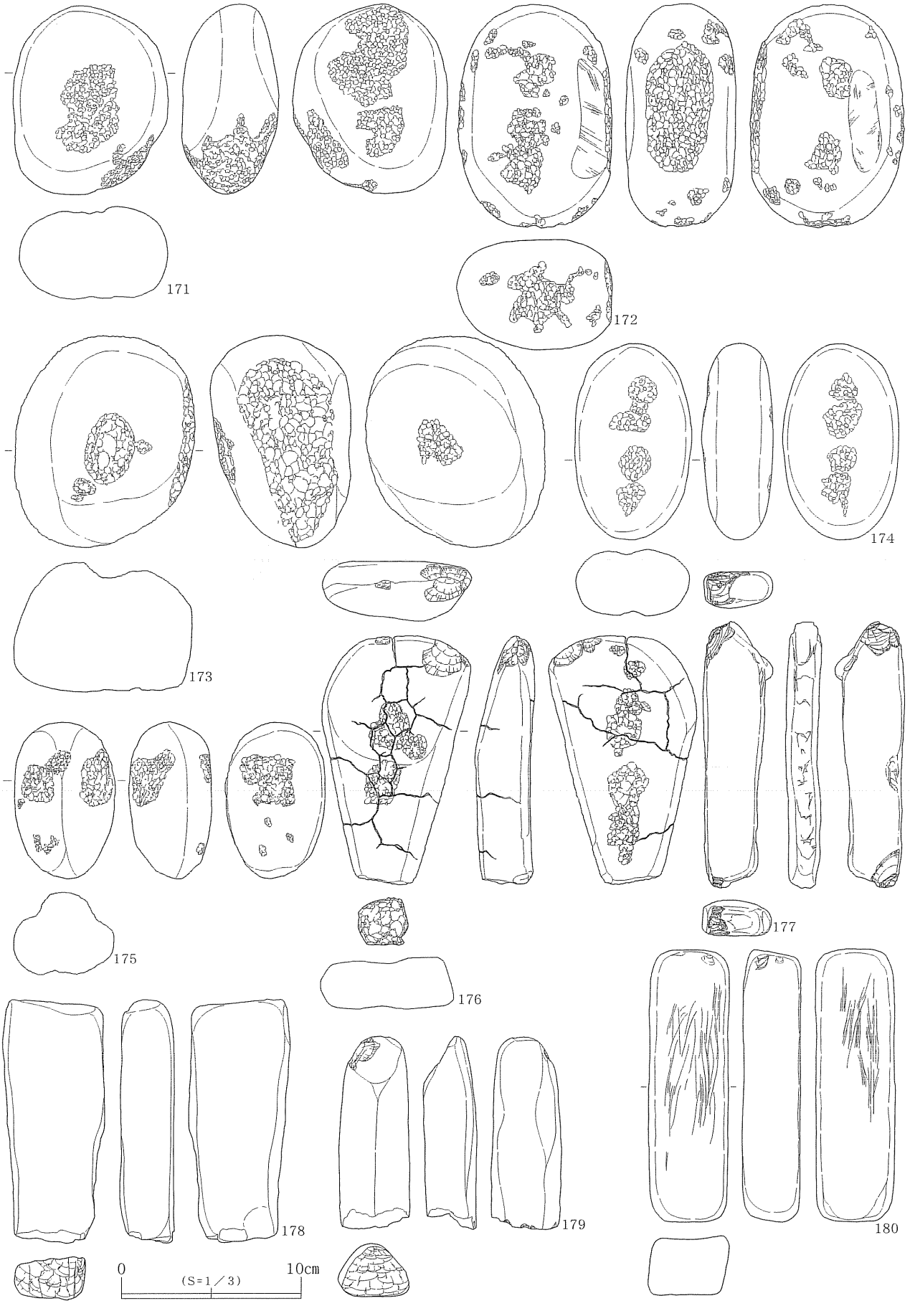


第53図　遺構外出土石器（６）不定形石器９～12類

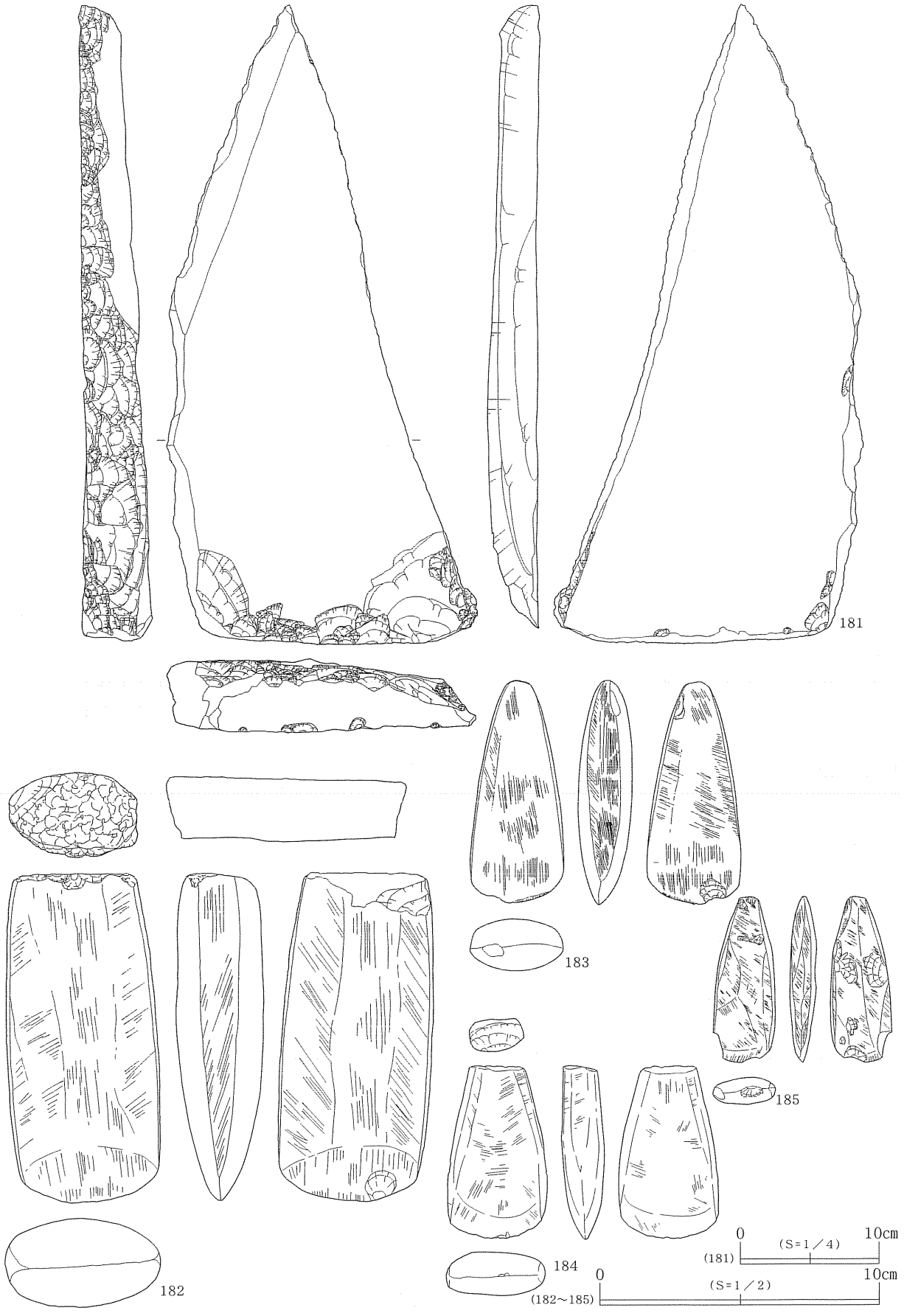
第54図　遺構外出土石器（7）U．F．・剥片



第55図　遺構外出土石器（８）石核



第56図　遺構外出土石器（9）敲磨器類



第57図　遺構外出土石器（10）石皿・磨製石斧

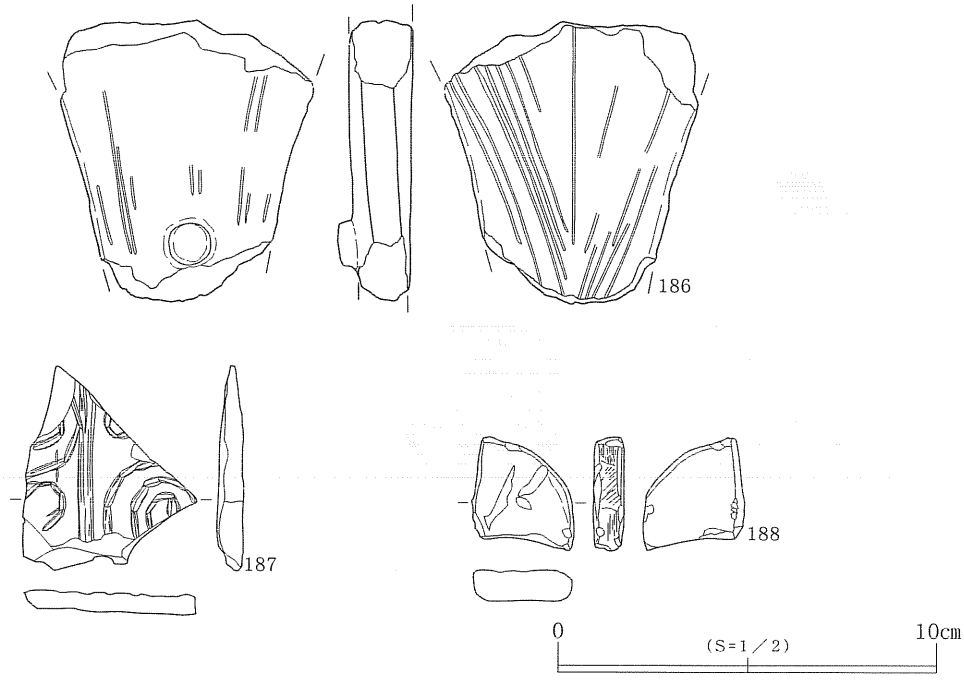
第12表　遺構外出土石器観察表

番号	出土位置	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)
81	MG38	石槍	頁岩	81	47	20	54
82	MF53	石錐	頁岩	64	25	6	9
83	MH55	石錐	頁岩	41	17	6	5
84	MG39	石錐	頁岩	25	18	6	2
85	ME44	石錐	頁岩	70	76	22	94
86	MF41	楔形石器	頁岩	31	31	10	9
87	MK47	楔形石器	頁岩	18	29	9	5
88	MH55	楔形石器	頁岩	25	20	8	6
89	MF53	石篦	頁岩	81	44	14	48
90	MH52	石篦	頁岩	62	42	11	43
91	MH52	石匙	頁岩	71	29	10	20
92	MH52	石匙	頁岩	69	33	5	15
93	MJ49	石匙	頁岩	77	34	10	17
94	MG39	石匙	頁岩	69	26	8	21
95	MJ49	石匙	頁岩	80	36	8	22
96	MH49	石匙	頁岩	61	32	7	12
97	MK46	石匙	頁岩	40	45	8	12
98	MD43	石匙	頁岩	40	41	11	14
99	ME43	石匙	頁岩	36	76	8	22
100	MG38	石匙	頁岩	49	54	16	26
101	MG39	石匙	頁岩	57	94	8	31
102	MD42	石匙	頁岩	25	42	4	5
103	MG39	不定形石器	頁岩	49	56	27	80
104	ME43	不定形石器	頁岩	20	28	5	3
105	MG52	不定形石器	頁岩	65	39	11	25
106	MF39	不定形石器	頁岩	46	34	11	18
107	MF39	不定形石器	頁岩	80	89	39	158
108	ME43	不定形石器	頁岩	59	34	14	21
109	MH52	不定形石器	頁岩	60	34	5	12
110	MG39	不定形石器	頁岩	80	52	9	31
111	MG53	不定形石器	頁岩	66	29	9	16
112	MF55	不定形石器	頁岩	84	60	9	35
113	MK46	不定形石器	頁岩	29	24	6	3
114	ME53	不定形石器	頁岩	28	22	6	3
115	MK46	不定形石器	頁岩	55	31	9	19
116	LM76	不定形石器	頁岩	29	62	9	17
117	MF39	不定形石器	頁岩	33	38	13	12
118	MC44	不定形石器	頁岩	48	54	7	31
119	MG52	不定形石器	頁岩	56	66	14	44
120	MG39	不定形石器	頁岩	44	51	6	19
121	MK47	不定形石器	頁岩	83	77	11	79
122	MK46	不定形石器	頁岩	45	52	10	28
123	MG39	不定形石器	黒曜石	20	15	8	2
124	MH55	不定形石器	頁岩	35	50	9	15
125	MH52	不定形石器	頁岩	72	50	8	31
126	ME42	不定形石器	頁岩	27	26	7	6
127	MG53	不定形石器	頁岩	34	31	10	9
128	MK46	不定形石器	頁岩	52	30	5	8
129	表採	不定形石器	頁岩	56	54	18	54
130	MF39	不定形石器	頁岩	61	52	15	38
131	MF39	不定形石器	頁岩	39	49	7	15
132	MG40	不定形石器	頁岩	57	36	10	21
133	MK46	不定形石器	頁岩	44	71	23	7
134	MC44	不定形石器	頁岩	51	40	8	18
135	表採	不定形石器	頁岩	40	26	8	8
136	表採	不定形石器	頁岩	57	44	10	28
137	MF39	不定形石器	頁岩	82	31	14	34
138	MK47	不定形石器	頁岩	107	42	12	63
139	表採	不定形石器	頁岩	74	51	19	79
140	表採	不定形石器	頁岩	16	33	16	8
141	表採	不定形石器	頁岩	29	46	13	16
142	MJ51	不定形石器	頁岩	31	23	10	8
143	MJ51	不定形石器	頁岩	29	34	8	8
144	MC43	不定形石器	頁岩	24	47	6	5
145	MD42	不定形石器	頁岩	31	76	11	29
146	MK47	不定形石器	頁岩	65	57	17	51
147	MG40	不定形石器	頁岩	29	19	9	4
148	MK47	不定形石器	頁岩	20	30	7	4
149	MK47	不定形石器	頁岩	52	51	16	38
150	MG39	不定形石器	頁岩	29	49	15	15
151	MG39	不定形石器	頁岩	30	35	14	11
152	MF39	不定形石器	頁岩	36	51	19	36
153	LT45	U.F.	頁岩	128	74	14	174
154	表採	U.F.	頁岩	65	45	8	33
155	ME44	U.F.	頁岩	33	22	3	3
156	MK46	U.F.	頁岩	22	59	10	8
157	MC44	U.F.	頁岩	60	75	10	34
158	表採	U.F.	頁岩	84	111	11	106
159	MF39	U.F.	頁岩	12	29	6	2
160	MI52	U.F.	頁岩	26	22	6	3
161	MD44	U.F.	頁岩	28	30	9	5
162	表採	U.F.	頁岩	42	56	16	39
163	MG40	剥片	黒曜石	16	26	3	1
164	MC44	石核	頁岩	47	96	46	220
165	MH40	石核	頁岩	69	47	45	123
166	MK46	石核	頁岩	56	29	16	26
167	ME44	石核	頁岩	36	51	23	36
168	MB46	石核	頁岩	41	73	19	40
169	MG53	石核	頁岩	32	20	15	13
170	ME43	石核	頁岩	30	32	16	18
171	MG39	敲磨器類	凝灰岩質安山岩	105	85	55	715
172	MF39	敲磨器類	凝灰岩質安山岩	121	83	60	902
173	表採	敲磨器類	安山岩	119	100	74	1170
174	MG39	敲磨器類	凝灰岩質安山岩	108	63	40	424
175	表採	敲磨器類	安山岩	86	53	46	257
176	MD43	敲磨器類	安山岩	138	79	32	439
177	MH52	敲磨器類	頁岩	147	39	18	173
178	ME43	敲磨器類	安山岩	134	55	28	415
179	MF39	敲磨器類	安山岩	106	39	30	178
180	MH55	敲磨器類	頁岩	150	45	32	510
181	MG39	石皿	凝灰岩	460	220	48	3840
182	MA51	磨製石斧	凝灰岩質安山岩	120	55	32	365
183	MF39	磨製石斧	不明	80	34	20	248
184	MG39	磨製石斧	砂岩	62	36	16	57
185	表採	磨製石斧	砂岩	60	23	10	21

（３）土製品・石製品（第58図、第13表、図版12）

土製品は板状土偶（186）１点が出土した。平面形は逆三角形を呈し、頭部及び胴部下半を欠損している。胎土は砂粒を多く含み、脆弱で表面全体の摩滅が著しいが、胴下部にはボタン状の貼付けがあり、背面には沈線による正中線と、そこから派生する放射状の文様を観察することができる。後期前葉の所産と考える。

石製品は岩版と円盤状石製品が各１点出土している。187は岩版の破片で、全体の形状は不明であるが、正中線を挟んで渦巻き文を表出する文様構成をもつと考える。縄文時代晩期前半期の所産であろう。188は凝灰岩製の円盤状石製品である。縁辺を研磨して円形平面をなすもので、完形であれば直径５cm程度になると推定する。所属時期は判然としない。



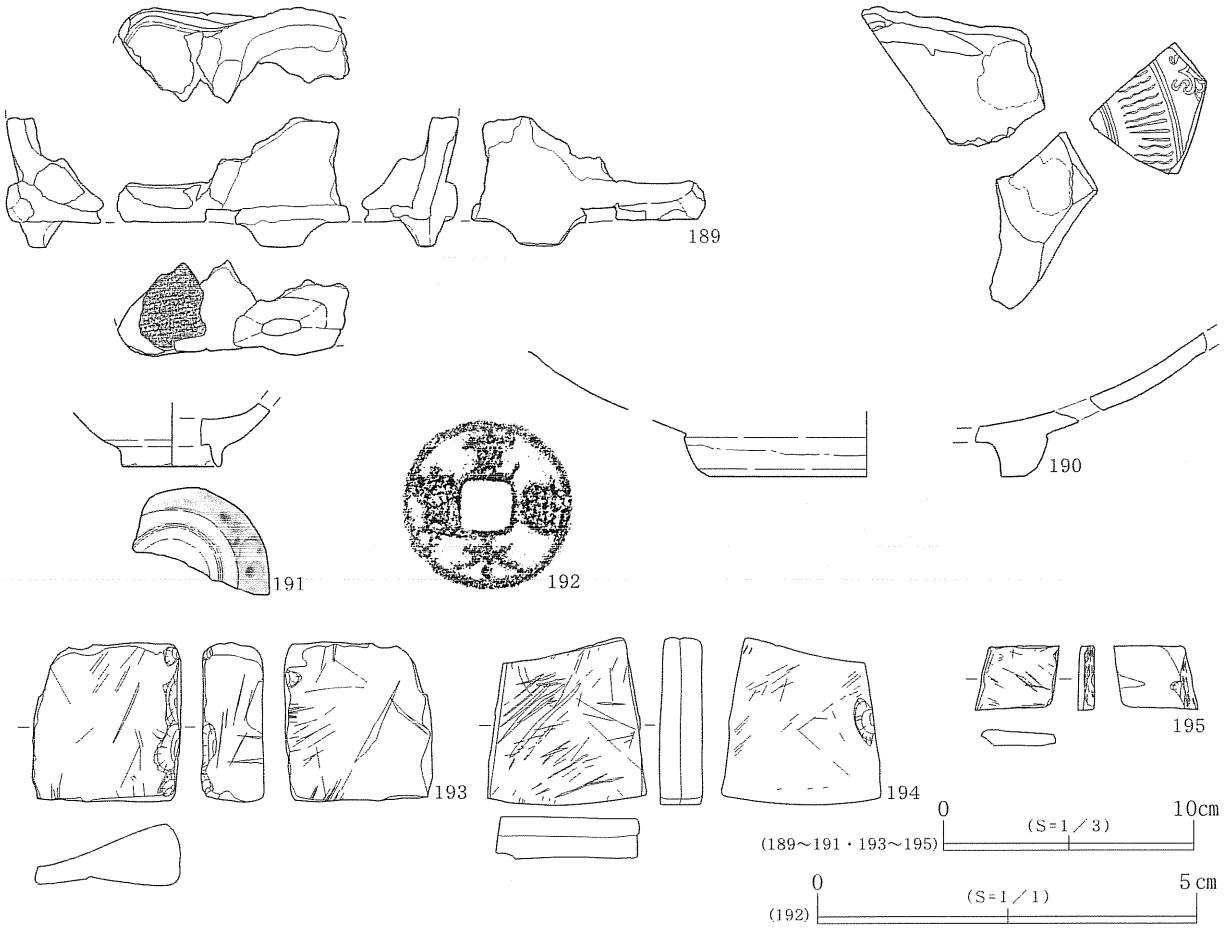
第58図　遺構外出土土製品・石製品

第13表　遺構外出土土製品・石製品観察表

番号	出土位置	種別	法量	備考
186	MD43	土偶	長さ75mm・幅66mm・厚さ16mm・重量79ｇ	ボタン状貼り付け・沈線文
187	MD45	岩版	長さ53mm・幅45mm・厚さ7mm・重量8ｇ	渦巻文、石質：凝灰岩
188	表採	円盤状石製品	長さ30mm・幅27mm・厚さ8mm・重量7ｇ	側面研磨、石質：凝灰岩

3　近世以降（第59図、第14表）

遺構外出土遺物のうち近世以降に帰属するものは、土器４点、陶器17点、磁器５点、銭貨１点、砥石３点を数えるのみで、量的には少ない。またこれらの遺物のほとんどは、産地・時期・器種など詳細不明な小破片であるため、ここでは数点を図示するに止める。189は貝風呂の一部で、他にもこれと同一個体であると判断する土器片３点を採取している。近代の所産と考えられ、本遺跡の近辺では鷲ノ瀬遺跡での一括多量出土例がある。190は肥前唐津系の三島手象嵌の鉢で、見込みには環状の積み跡が残る。191は波佐見系のいわゆるくらわんか碗である。190とともに18世紀後半に位置づけが可能であろう。寛永通寶（192）は表面の摩滅著しく、詳細は不明である。193～195は金属製品の研磨に起因すると考える、鋭い線状の痕跡を観察することができる。近世所産の砥石であろう。



第59図　遺構外出土近世以降の遺物

第14表　遺構外出土近世以降遺物観察表

番号	出土位置	種別	器種	法量	備考
189	MG39	土器	貝風呂		底部：敷物痕
190	MG39	陶器	鉢	底径(125)mm	時期：18世紀後半
191	MG53	磁器	碗	底径(38)mm	時期：18世紀後半
192	MD42	銭貨	－	外径22.8mm・銭厚1.1mm・量目1.6ｇ	銭銘：寛永通寶
193	MG52	砥石	－	長さ62mm・幅61mm・厚さ24mm・重量106ｇ	石質：凝灰岩
194	MD41	砥石	－	長さ66mm・幅62mm・厚さ17mm・重量30ｇ	石質：頁岩
195	MG53	砥石	－	長さ25mm・幅35mm・厚さ6mm・重量8ｇ	石質：緑泥片岩

第３章　自然科学的分析

本遺跡の調査で検出した縄文時代晩期の焼土遺構と土坑から採取した炭化物試料について、放射性炭素年代測定及び樹種同定を行い、また遺構外から出土した黒曜石について蛍光Ｘ線分析による産地同定を行うことによって、遺構の実年代や周辺環境、ならびに当時の交易圏に関する自然科学的な知見を得て、遺跡を総合的に考察することを目的とした。放射性炭素年代測定及び樹種同定はパリノ・サーヴェイ株式会社に、黒曜石産地同定は有限会社遺物分析研究所にそれぞれ業務委託した。なお黒曜石の産地同定については紙幅の関係から、元素比分析結果並びに原産地推定結果のみ示し、文章・表・挿図の一部を割愛した。

第１節　日廻岱Ａ遺跡の放射性炭素年代測定及び炭化材の樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

日廻岱Ａ遺跡では、焼土遺構および土坑墓が検出されている。今回の調査では、焼土遺構から出土した炭化材と土坑墓から出土した炭化材の放射性炭素年代測定を実施し、年代に関する資料を得る。また、炭化材の樹種同定を行い、用材選択や周辺植生についても検討する。

１．試料

試料は、検出された焼土遺構（ＳＮ02）から出土した炭化材と、土坑墓（ＳＫ06）から出土した炭化材の２点である。なお、土坑墓（ＳＫ06）から出土した炭化材は複数片認められ、肉眼で明らかに種類が異なるものもみられたことから、樹種同定用試料に関しては３片を採取した。試料の詳細は表１に示す。

２．分析方法

（１）放射性炭素年代測定

測定は、（株）地球科学研究所を通じて、アメリカ合衆国ベータ社（BETA ANALYTIC INC.）の協力を得た。

（２）樹種同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

３．結果

（１）放射性炭素年代測定

結果を表１に示す。年代値は、焼土遺構（ＳＮ02）の出土炭化材が約2800年前、土坑墓（ＳＫ06）出土炭化材が約3900年前の値を示す。

なお、表中のδ^{13}Cの値は、試料炭素の^{13}C／^{12}C原子比を質量分析器で測定し、標準にＰＤＢを用いて標準値からのずれをパーミルで表した値である。今回の試料の補正年代は、この値に基づいて補正をした年代で、誤差は標準偏差（１σ）に相当する年代である。また、暦年代はINTCAL98により較正した年代である。

（２）樹種同定

樹種同定結果を表１に示す。ＳＮ02の焼土および土坑墓（ＳＫ06）から採取した炭化材は、それぞれ異なる種類であった。これらの炭化材は、いずれも落葉広葉樹で、４種類（オニグルミ・クリ・カエデ属・トネリコ属）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura）クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または２～３個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性～異性Ⅲ型、１～４細胞幅、１～40細胞高。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　　ブナ科クリ属

環孔材であるが、小片のため孔圏部列数は不明。孔圏外の小道管は、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

・カエデ属（*Acer*）　　カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および２～３個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１～５細胞幅、１～40細胞高。細胞壁の厚さが異なる２種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・トネリコ属（*Fraxinus*）　　モクセイ科

環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または２個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で密に交互状に配列する。放射組織は同性、１～３細胞幅、１～20細胞高。

４．考察

（１）遺構の年代について

測定試料の年代値は、焼土遺構出土炭化材が約2800年前、土坑墓出土炭化材が約3900年前の値を示す。この値は、キーリ・武藤（1982）らによれば、焼土遺構出土炭化材が縄文時代晩期、土坑墓出土炭化材が縄文時代後期に相当する。よって、焼土遺構と土坑墓の構築年代は上記の年代であり、異なる時期に構築された可能性がある。しかし、この年代値は炭化材のもととなった植物の死滅した年代値であるため、遺構構築以前に形成された炭化材が、遺構が埋積する過程で混入した可能性も考えられる。今後はこれらの遺構に関連性の高い試料を複数測定し、各遺構の年代の傾向を把握することが望まれる。

（２）炭化材について

焼土遺構（ＳＮ02）から出土した炭化材は、何らかの人間活動によって炭化したことが推定される。炭化していることから燃料材などの可能性があるが、用途などの詳細は不明である。樹種は落葉広葉

樹のクリであった。クリは、これまでの調査でも縄文時代の炭化材に多数出土しており、住居構築材や燃料材などに広く利用されていたことがうかがえる。今回の結果もそのようなクリ材利用の一例といえる。クリの多用の背景には、栽培による可能性がある。

一方、土坑墓（ＳＫ06）から出土した炭化材は、燃料材などに由来する可能性がある。樹種は、オニグルミ、カエデ属、トネリコ属の３種類が認められた。この結果から、様々な種類が利用されていたことが推定される。これらの種類の中で、オニグルミは川沿い等に生育し、またカエデ属やトネリコ属にも川沿いや湿地に生育する種類が含まれる。このことから、木材は周辺の川沿いなどの低地から採取された可能性がある。

表１　放射性炭素年代測定および樹種同定結果

No.	採取地点	試料の質	樹種	測定年代ＢＰ	δ13Ｃ（‰）	補正年代ＢＰ	暦年代ＢＰ	Code.No.
1	SN02撓土遺構	炭化材	クリ	2830±40	-29	2760±40	2880-2790	Beta-153440
2	SK06土坑	炭化材	オニグルミ カエデ属 トネリコ属	3870±70	-25.9	3860±70	4410-4160	Beta-153441

引用文献

キーリ C. T.・武藤康弘（1982）縄文時代の年代,「縄文文化の研究１縄文人とその環境」p.246-275. 雄山閣.

第２節　日廻岱Ａ遺跡出土黒曜石製石器の原材産地分析

藁科　哲男
（京都大学原子炉実験所）

表１　日廻岱Ａ遺跡出土黒曜石製石器の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
75976	0.305	0.088	0.236	1.750	1.468	0.905	0.290	0.085	0.025	0.365
75977	0.295	0.086	0.205	1.604	1.372	0.841	0.254	0.104	0.027	0.335
JG-1	0.763	0.212	0.082	3.997	1.029	1.342	0.303	0.092	0.025	0.307

JG-1：標準試料-Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192 (1974)

表２　日廻岱Ａ遺跡出土黒曜石製石器の原産地推定結果

分析番号	原石産地（確率）	判　定	備　考
75976	男鹿・金ヶ崎(75%),男鹿・脇本(41%)	金ヶ崎・脇　本	第51図123
75977	男鹿・脇本(83%),男鹿・金ヶ崎(78%)	金ヶ崎・脇　本	第54図163

第4章　まとめ

今回の日廻岱Ａ遺跡の発掘調査で得た成果について、以下時代毎に若干の補足を加えてまとめる。

１．縄文時代

縄文時代の遺構は、調査区の南端において晩期に属する焼土遺構と土坑をそれぞれ１基検出した。

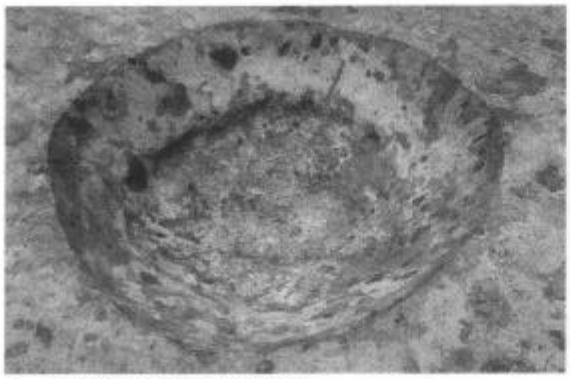
焼土遺構は竪穴住居である可能性も視野に入れて精査を行ったが、その確実な痕跡を捉えることはできなかった。現状では、浅い掘り込みと周囲に簡略な石組をもつ、屋外炉的な施設であったと判断する。この焼土遺構の性格について考える場合、完形に近い形で復元された深鉢や浅鉢などの土器、敲磨器類や石皿など擦痕を有する礫石器類、大半がクリと考えられる多量の炭化種実など、焼土付近から出土した遺物群は見逃せない。これらの遺物が相互に関連すると積極的に仮定した場合、この焼土遺構は採取したクリの集約→土器によるクリの煮沸→礫石器によるクリの製粉という、一連のクリ加工作業が行われた場であったと想定することも可能であろう。ただし現段階ではその相互関連性を支持する明確な根拠を欠くため、想像に止めておく。

土坑は覆土の堆積状況や、出土遺物等から土坑墓と認定した。赤色塗彩の施された、略完形の壺形土器は副葬品であると判断する。礫石器及び礫は遺構の南西側壁際に集中した分布状況を示し、意図的に配置された可能性をもつ。また礫石器のうち礫器は遺跡内でも本土坑出土例に限られ、この土坑墓を特色付ける遺物である。今回の調査で墓と認定可能な遺構は、この土坑墓１基のみであった。ただし遺跡の大半が耕地整理の際に大きく削平を受けている状況もあり、本土坑墓が本来単独で存在するのか確実ではない。現段階では本遺跡の墓域としての性格はやや不明な点を残している。なお平成７年に森吉町教育委員会が発掘調査を行った部分でも土坑11基を確認している[註1]が、土坑からの出土遺物は後期を主体とすると報告されており、これらの土坑が本土坑墓と一体をなして土坑墓群を形成する可能性は低いと考える。

２．近世

近世の遺構は、調査区の南端において掘立柱建物跡２棟を検出した。この２棟は重複する位置関係にあり、また主軸方位がほぼ一致することから、建て替えられたものと判断した。構築時期は判然としないが、遺構外出土遺物のうち近世所産のものは18世紀後半にまとまっており、本掘立柱建物跡もほぼ同時期に相当するのであろう。本掘立柱建物跡は近世の民家であったと考えるが、同時に周辺に分布する時代不明の柱穴・土坑・溝跡も、小屋等の建物やゴミ穴や排水溝など付設する施設であった可能性もある。小又川流域での近世掘立柱建物跡の報告はおそらくこれが初例であろう。近世掘立柱建物跡の建造物としての構造や、近世の集落の様相等を考察するには、現段階では比較例に乏しく周辺地域での調査例の増加に負うところが大きい。今後の課題としておく。

註１　森吉町教育委員会　『平成7年度埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』
1996（平成８）年



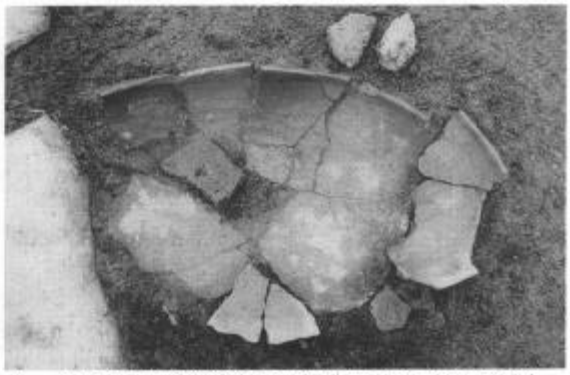
1　ＳＫ06土坑完掘（南から）

2　ＳＫ06土坑断面（南から）

3　ＳＫ06土坑壺形土器出土状況（西から）

4　ＳＮ02焼土遺構確認状況（西から）

5　ＳＮ02焼土遺構断面（東から）

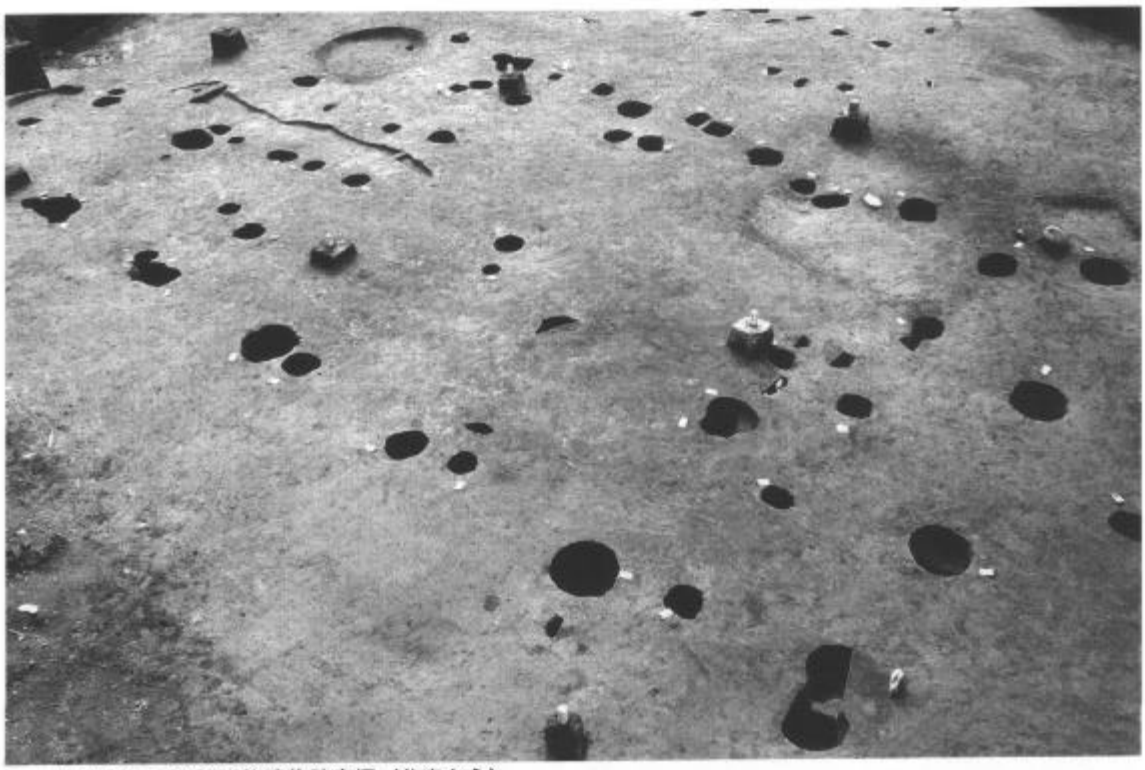


6　ＳＮ02焼土遺構浅鉢形土器出土状況（北西から）

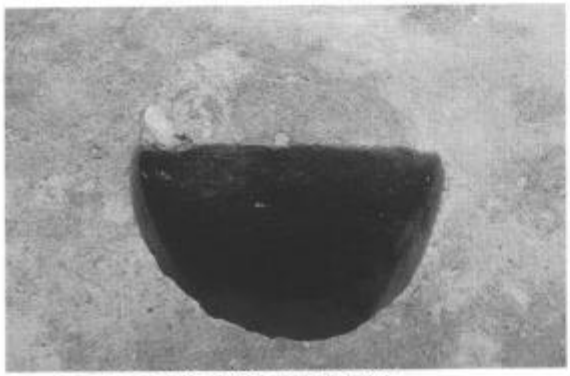
7　ＳＮ02焼土遺構台付鉢形土器出土状況（北西から）

8　ＳＮ02焼土遺構深鉢形土器出土状況（南から）

ＳＫ06土坑、ＳＮ02焼土遺構

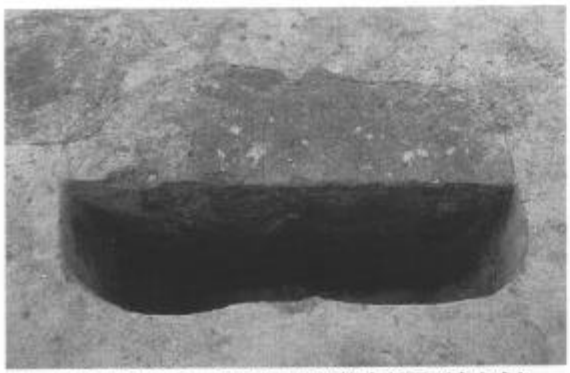


1　ＳＢ113・114掘立柱建物跡完掘（北東から）



2　ＳＢ113Ｐ１柱穴断面（南東から）

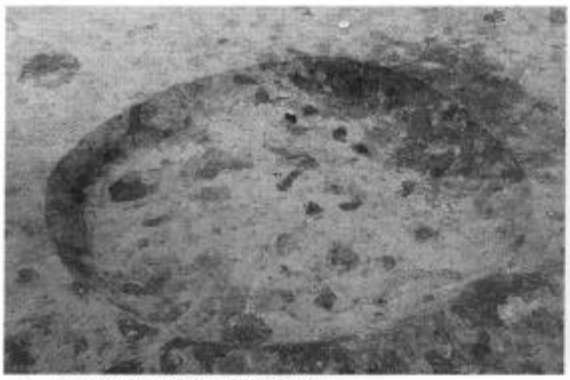
3　ＳＢ114Ｐ５柱穴断面（南西から）



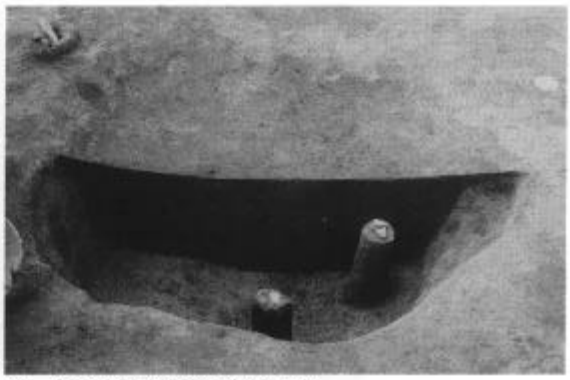
4　ＳＢ113Ｐ15・ＳＢ114Ｐ12柱穴断面（東から）

5　ＳＢ113Ｐ３柱穴寛永通寶出土状況（南から）

ＳＢ113・114掘立柱建物跡

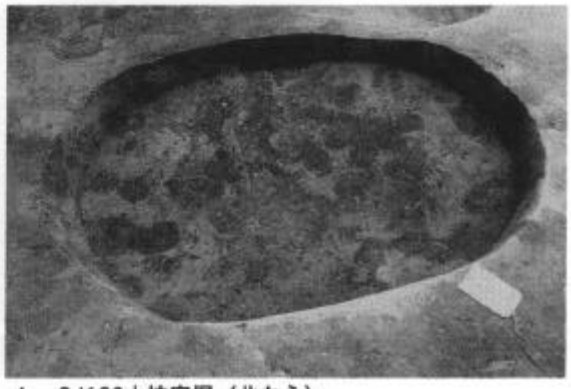


1　ＳＫ01土坑完掘（南西から）



2　ＳＫ03土坑断面（南から）

3　ＳＫ04土坑断面（南西から）



4　ＳＫ26土坑完掘（北から）

5　ＳＤ29溝跡完掘（南から）

6　ＳＤ29溝跡Ａ－Ｂライン断面（南から）

7　ＳＤ29溝跡Ｃ－Ｄライン断面（南から）

ＳＫ01・03・04・26土坑、ＳＤ29溝跡

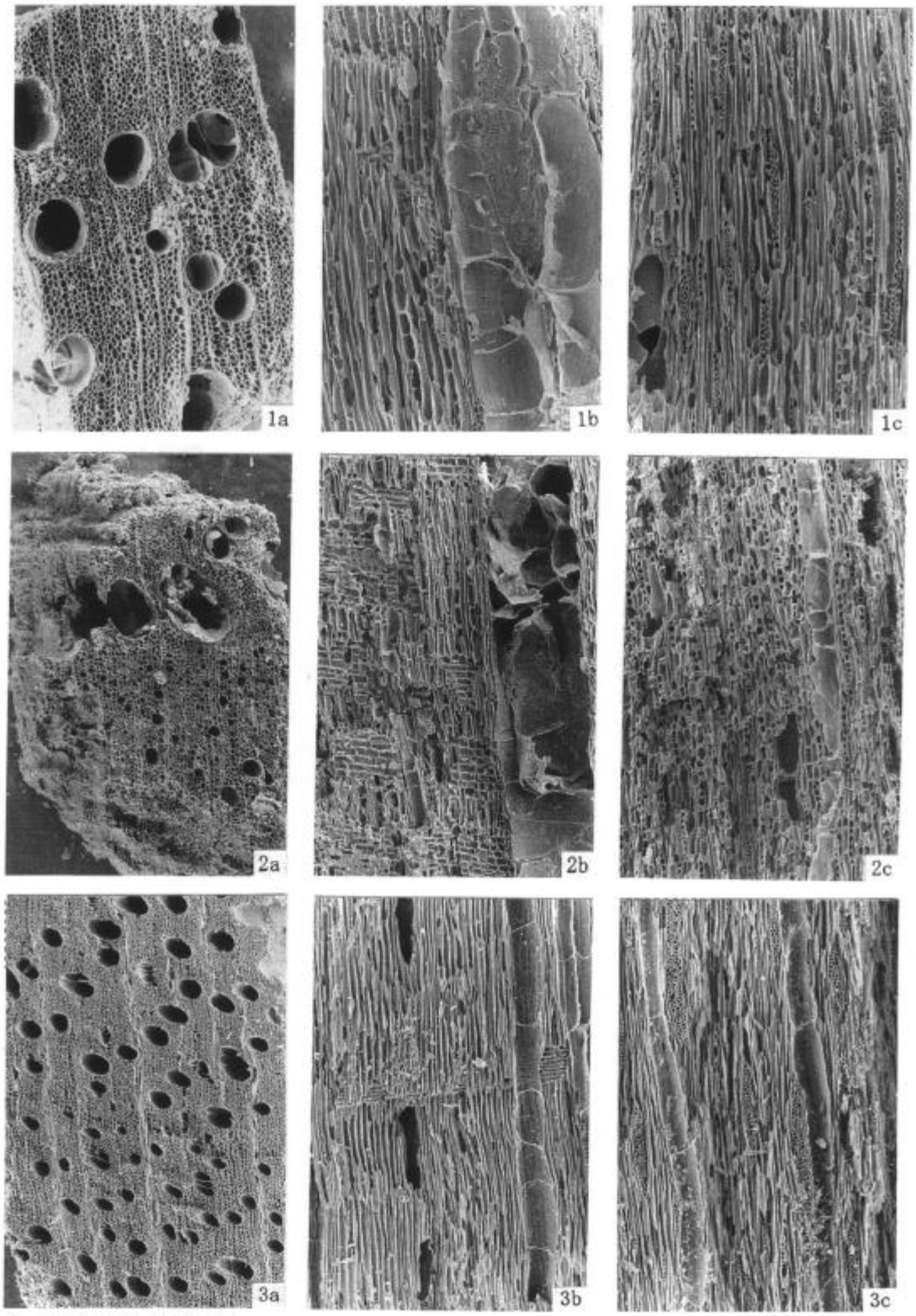
図版10

遺構内出土土器

遺構外出土土器（1）

図版12

遺構外出土土器（2）　土偶・岩版

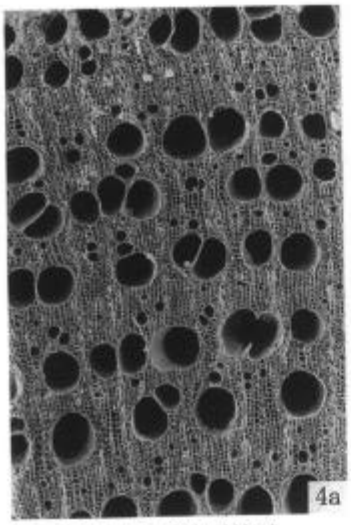


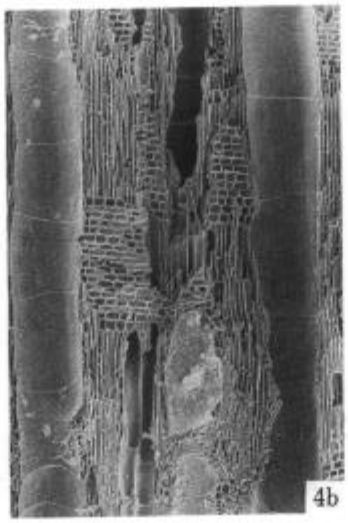
1．オニグルミ（試料番号2）
2．クリ（試料番号1）
3．カエデ属（試料番号2）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b，c

炭化材樹種顕微鏡写真（1）

図版14





4．トネリコ属（試料番号２）
a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b，c

炭化材樹種顕微鏡写真（２）

報　告　書　抄　録

ふりがな	きりないざわいせき　ひまわしたい　いせき
書名	桐内沢遺跡・日廻岱Ａ遺跡
副書名	森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅶ
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第335集
編集者名	加藤　竜・吉田英亮
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014-0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20　TEL 0187-69-3331
発行年月日	西暦２002年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふ　り　が　な 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
桐内沢遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字桐内沢関下タ103	05323		40° 1′ 52″	140° 27′ 55″	20000512 ～ 20000714	11,000㎡	森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査
日廻岱Ａ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字日廻岱65、63-1外	05323		40° 2′ 3″	140° 28′ 1″	20000731 ～ 20000914	4,100㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特　記　事　項
桐内沢遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　1 土器埋設遺構　2 フラスコ状土坑　1 竪穴状遺構　1	縄文土器・石器	縄文時代前期～後期の小規模な集落跡
日廻岱Ａ遺跡	集落跡	縄文時代 近世 時代不明	土坑　1 焼土遺構　1 掘立柱建物跡　2 土坑　4 溝跡　1 柱穴様ピット　40	縄文土器・石器 土製品・石製品 陶磁器・銭貨 砥石	縄文時代晩期の土坑墓